

大笠山と笈ヶ岳(白峰)

金谷 昭

世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて33年目

—実績と体験に基づいた旅作り—
「一人では行けない、でも、行きたい」
アルパインツアーがお応えいたします。

**エベレスト展望トレッキングと
シェルパの里9日間** <関空発着>
出発日 ●3/15 ●3/22 ●4/2 ●4/20
¥288,000~¥298,000

**アンナプルナ・ダウラギリ・パノラマ
トレッキング9日間** <関空発着>
出発日 ●3/15 ●3/22 ●4/2 ●4/30
¥282,000~¥268,000

ランタン・ヘリ・トレッキング 9日間
<関空発着>
出発日 ●3/15 ●3/22 ●4/2 ●4/20
¥338,000~¥364,000

剣山、童王山、三嶺、石鎚山 5日間
出発日 ●4/27 ●5/15 ●6/6 ¥108,000

屋久島・宮之浦岳登山 4日間
出発日 ●3/27 ●4/27 ●5/3 ¥148,000

横断山脈ニヨコガ 湯けむり紀行 7日間
出発日 ●3/10 ●3/24 ●3/31 ¥288,000

ネパール・ヒマラヤ・トレッキング (ヒマヤ越えハイパー便運行) 4/27 発 9日間 名古屋発着

出張説明会 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでもお気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは
国土交通大臣登録旅行業490号 / (社)日本旅行業協会正会員
アルパインツアーサービス株式会社
大阪支店 / 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-10-22 (本'00'ビル4階)
TEL: 06-6444-3033 / FAX: 06-6444-3032
広島支店 / 〒730-0001 広島市南区中野町1-1-1 (大支店ビル)
TEL: 082-542-1660

南海の4,000m峰とビーチ・リゾート

**マレーシア最高峰
Mt.キナバル登山 6日間**

旅行代金 ¥154,000~¥248,000

出発日 3/27, 4/24, 4/27, 5/1
①関空→クアラルンプール→コタバル→2→(市内観光)→パ・クヘッド・クォーター登山口③→山小屋(約3,300m)④→キナバル山(4,095m)登山口→パ・クヘッド・クォーター登山口→コタバル⑤→(自由行動)→⑥→関空

**ミルフォード・トラックと
マウントクック11日間** <関空発着>
出発日 ●3/3 ●3/11(今シーズン最後の出発)
¥520,000

**ルートバーン・トラックと
マウントクック10日間** <関空発着>
出発日 ●3/2 ●3/18(今シーズン最後の出発)
¥498,000

**ミルフォードとルートバーンと
マウントクック15日間** <関空発着>
出発日 ●3/17 ●4/7 ¥498,000~¥528,000

ニュー・ランド・パノラマ・ハイキング 7日間
出発日 3/22 旅行代金 ¥375,000

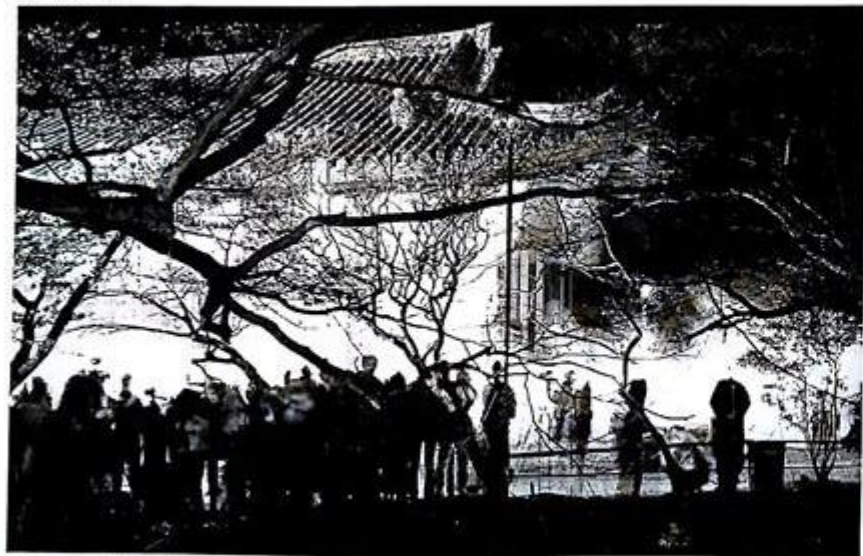
①関空→(横中泊)②→オークランド→クライストチャーチ→チクス・バス国立公園③→(アナス・バス・ハイキング)→クライストチャーチ④→マウントクック⑤マウントクック・ハイキング⑥→(マントクック・ハイキング)→クライストチャーチ→オークランド⑦→関空

ご請求下さい!
アルパインツアー、総合
ツアーカタログ。
「世界の山旅・辺境の旅」
春~夏号。海外・国内の
ハイキング・トレッキン
登山コース満載!



桜 (長谷寺)

奈良・高畑の新薬師寺
 4月8日午後5時
 夜桜たゆたう春のこの日
 天平の陰影の空間が息づくなか
 幽玄な声明の読経が響く
 薬師悔過法要 滅罪・除厄祈願
 沙弥音 (尺八・ギター・パーカッ
 ション) の調べが漂う
 どこことなく懐かしい日本の“音”
 おたいまつは夜の7時から
 僧侶道明かりと結界浄化の大松明
 豪快且つ荘厳にゆるやかに一周
 暗闇の中に照らし出される白壁
 幻想的な空間に桜と満月が浮かび
 天平の昔にロマンを誘う



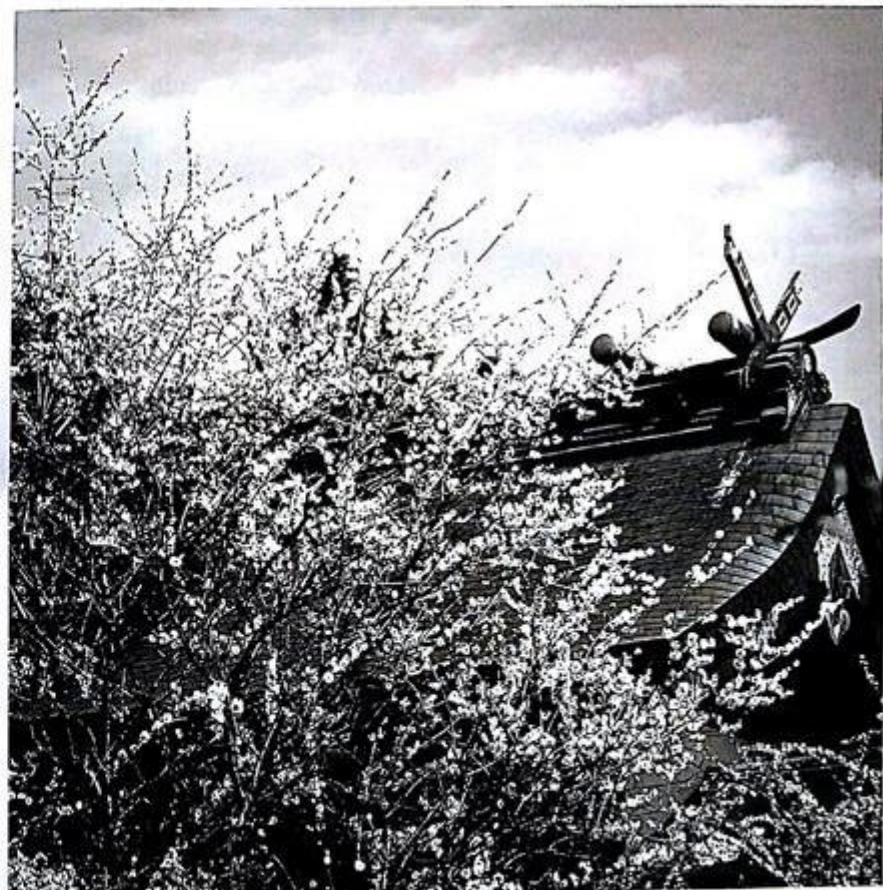
修二会 (新薬師寺)

Photo essay

花の宴



題字 中田 蘭 石
 撮影 由井 収
 文 松 永 恵 一



梅 (津市結城神社)

春の山



木津



棚倉

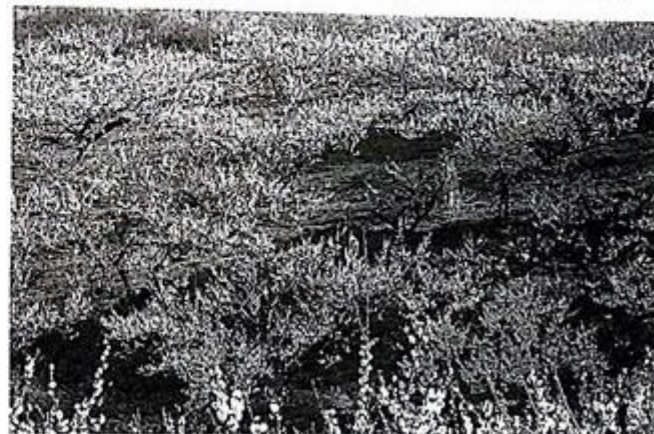


上拍

背古道

陽春

撮影 武市通治



青谷



玉水



春まだ遠い夜叉ヶ池（越美国境）

橋本 寿



夜叉ヶ池の原から三周ヶ岳（越美国境）

橋本 寿



新緑のブナと遊ぶ子どもたち（丹後・高山）

中川 光郎

3月の大台ヶ原

奥田 英一郎

●目次

表紙：松田敏男「白根、山の曼荼羅」(南アルプス)

●作者プロフィール ●1949年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版画家。山岳画の経験多数。京都平安西園、南アルプス山岳小説、東京ギャラリー百号、他。京熱山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員

新刊代々 別冊 関西の山
'02年3・4月 陽春 第63号

沿線ハイキングガイド サービスチェン せせらぎ	81 81 78	新ハイ関西山行計画と報告 バス時刻表(策定) 編集後記・広告案内	112 110 87
コース	ガイド	長宗 清司	76 74 72
① 大石山(湖側)	山形 茂	純	70
② ボンテン山と多度山(鈴鹿・養老)	山形 茂	純	69
③ 岩ノ峰を越えて行者谷へ(鈴鹿)	山形 茂	純	66
● 1等三角点峰(500以上) 548座完全登の記録(第30回)	柴田 昭彦		62
● 平成6年の北海道への春山登山	坂井 久光		59
● 賤ヶ岳と余呉湖一周(湖北)	中村 敏文		56
● 文学歴史探訪ハイク	東山七条界隈に秀吉を訪ねて	松永 恵一	
● 山のレポート	山の地名を歩く②谷と沢	西尾 寿一	
● 山のレポート	山のゴミはだれが捨てるのか	平 一郎	
● 山のレポート	今、北近江が面白い	高島 伸浩	
● 紀行	「みづめ桜」と御蔵山(但馬)	奥田英一郎	12
● グラビア	花の宴	撮影 由井 収	4
● 紀行	三之公谷の狼師西浦房太郎さんの話	西尾 寿一	10
● 紀行	白根と有明山(対馬)	福岡 生雄	20
● 紀行	神津嶽(生駒)	高柳 太郎	22
● 紀行	キナバル山紀行(マレーシア)	木村 伸浩	26
● 紀行	藤原岳(会館町)	尾野 益大	30
● 紀行	運載 標高による山の紹介シリーズ3 △△63の山	松田 敏男	34
● 紀行	金ヶ岳・雨飾山・忠別岳・早川尾根の頭	松田 敏男	36
● 紀行	夏焼山・兀岳・南木曾岳(木曾)	松田 敏男	38
● 紀行	上谷山(湖北)	松田 敏男	40
● 紀行	運載 三角点を訪ねて	松田 敏男	42
● 紀行	横山岳前衛の山、妻谷山(湖北)	松田 敏男	52



尾鷲湾が見える



しおから谷にて



正木ヶ原にて

巻頭言

山を歩く楽しみは、自然に触れることが大きいと思います。日常ではとくに気がつかなかった自然ですが、山麓に入ると周囲に溶け込んで、その表情を生きた生きと顔し出してくれます。

新ハイ関西でも「自然観察山行」を目的とする例が組まれていきます。これは単に歩くだけの山登りと違って、山の自然やその営みを勉強する山行です。私は山で見かける樹木や草花の名前が覚えられません。教えてもらってもすぐ忘れてしまいます。見たことはあっても名前を覚えていないので、人から聞かれても「知らない」で通します。

やはり、自然に親しむにはまず名前を知ることだと思います。地名や人の名は覚えられても草花の名前が覚えられないのはどうしてでしょうか。観察が足りないのか、いやどうも、カタカナ表記に弱いからだと思う。書物によると「ネーミングの由来を調べてみたり、カタカナ名を和名の漢字に置き換えてみれば、覚えやすくなるものだ」とあります。自然がいっぱいの春です。どうぞ「自然観察」を楽しんでください。

新ハイ関西(代表) 村田 智俊



克



克

随想 (山のエッセイ)

三之公谷の狐師 西浦房太郎さんの話

奥田 英一郎

炭焼きに入った父親と共に八幡平に住みついたのが、たしか8歳のときだったとか。以来、川魚はもちろん、兎・雉子などを追い続け、20歳を過ぎて本格的に狐を狩るようになってからは、猪・鹿・熊などを捕るようになったという。

板座敷にあるストープに薪をくべながら、奥さんもいっしょに昔話を聞かせてもらったことがある。

子どもさんの出産のときには、房太郎さん自身が、その緒を切つて、産湯を使わせたとか……。ぬるぬるした赤子をたらいに滑り落としたことなどを、思い出してもおかしかったと言わんばかりに笑いながら話すのだった。

もこの地を訪ねている。昭和36年(1961)の雑誌「旅」の「奥吉野の隠し平」によると、深田は伊勢の大和谷から地池谷を遡って台高の主稜を越え、キノコ股谷をくだって八幡平に入っている。このときの記事では、戸数二軒と記されている。この折、深田もこのどちらかに泊まっている。すでに房太郎さんは60歳前後で、成人した息子さんがおられた。

深田はこのとき、せっかくここまで来たのだからと、2人の青年に伴われて隠し平まで入っている。このときの1人はおそろしく房太郎さんところの息子さんに違いない。深田は2人の青年から、「自分たちの祖父?」が、昔、山仕事をしていたとき、柄に十二支を彫り刻んだみごとな短刀を掘り出した」などという話を聞いたという。が、私もこの話を、直接房太郎さんから聞いた記憶がある。「刃わたり三

た。

吉野川を入之谷を遡って、大きく北と東に分かれる所が二ノ股で、東は本沢川、北から流れてくるのが北股川。そこから約2キロ上流北に入った所の、東から流れてくる支流が三之公川(谷)である。その約3キロ奥に谷がU字型に大きく曲がっている所に段があって、何軒かの人家がある。この谷の奥深い山里が八幡平である。

近くにトガサワラの純林があることで知られているが、それよりも約650年の昔、南北朝動乱に際し、足利幕府に追われた南朝方の血を引く三皇子が居を構えた所として知られている。三之公川の名称もこの3人の公達に因んで呼ばれるようになったとか。八幡平の人家の少し上の台地に三之公行宮跡の石碑と小さな祠がある。さらにこの奥、明神谷の上流の支流が隠し平谷で、ここには後龜山帝の血を継

ぐ尊義親王(空因)の墓碑がある。

600年に及ぶ八幡平の推移についてはよくわからないが、谷崎潤一郎著「吉野葛」によると、谷崎が八幡平に入ったのが明治の末頃で、その頃五軒ばかりの民家があったようである。谷崎は案内者と共に隠し平も訪ねて、民家に泊めてもらっていた。

私が房太郎さんに会ったのはかれこれ20年以上も前のことで、そのときすでに房太郎さんは80歳を越えておられた。谷崎が八幡平を訪ねたとき、房太郎さんはまだ10歳そこそこだったはずである。泊まった所は「山男の家」とあるだけで確かなことはわからないが、「兎の肉をご馳走になった」ところから推測すると、おそらく房太郎さんの家に泊まったのではないかと思われる。

この約50年後には、深田久彌

十疋ばかりの刀で、研ぐと波紋がきれいでよく切れた」と語ってくれた。後南朝の人たちに何らかのゆかりのある品なのかどうか?

いろいろな話をたくさん聞かせてもらったが、房太郎さんの話のなかでも何とんでも興味深いのは狐の話だった。

「鹿は櫛の棒で二、三回頭をたたいたあと、喉笛を鉈で切り裂くと、血がどつと吹き出す……。肉は匂うが、血は臭みがない。だいたい、鹿は角だけを持って帰ったが、一頭七千円で買うというので、月に十頭ばかり捕って柏木へ持って行ったら、とたんに五千円になってしまった……」。昭和三、四十年頃の話だったろうか。

「鹿は大ききにもよるが、一頭五、六万円から十万円くらいにもなった。熊の胆(胆のう)は、それだけで七、八万円以上で買ってもらった」と言いなが

ら、奥さんに熊の胆を持ってこさせて、茶褐色の塊を包丁で削ってくれ、その高価なものを惜し気もなく、私にすすめてくれるのだった。

「熊は刺激をしなければ怖くはないが、立ち上がるときは危ない……。転がるようにして板をくだってくるが、すごい音でおそろしく速い。どちらかというと、熊よりも猪のほうがウルサイ。しつこくかかってきて、牙が鋭い……」。

にこやかに話す顔は温顔そのもので、表情から冷酷な大自然に生きる人の厳しさはうかがえなかった。むしろ美しい環境のなかに育った者のみが身につける優しさであろうか。そんな穏やかな人柄をにじませる話ぶりであった。

「カモシカの肉はうまい!皮もいい。一頭で三枚の敷(尻)皮が取れる(もちろん特別天然記念物に指定される以前の話である)。



克



克

随想 (山のエッセイ)

険しい岩場でも、七、八時の岩の出っ張りがあれば、らくらくと跳び越えて行く。爪が二つに割れていて、鼠爪との間のくぼみが柔かくて岩に吸いつくのである……」

「自分は、夜中に提燈の明かりなしで人之波まで往復した。切り立つ岩壁をへつたり、丸木や棧道の続く険路である。「狐のときなど、台高の尾根から真夜中でも明かりなしで帰ってきた……」と。夜目に馴れると、そんなこともできるものだろうか。

部屋の板壁に煤けたランプがかかっていた。黒ずんだ柱には使い古した振り時計が静かに時を刻んでいた。土間にはヘッツイさんがあって、その日も薪でご飯が炊かれていた。

ゆるやかに流れる三之公川の清冽な水辺の畔にお家があって三度ばかりお世話になった。最後にお会いしたのは春だっ

まれるからうれしい限りだ。こも園宮である。

ホテルで仏教遺跡を巡る車の手配を頼むと新車が迎えにくるといふ。パキスタンでは新車など見てももないので期待していると、約束の時刻を30分も過ぎてやって来たのは、日本車の中古バンだった。約束が違うと文句をつけると何やらフロントと運転手が言い争いをしている。時間が無駄に消費されている。これが第一の変だった。

どうやら、予約した車は運転手の家族に病人が出て、代わりにその友人が来たらしい。若いらしいがヒゲの中に顔があるようで、無口でもうひとつ可愛気がない印象だったが、何でもいから出発しよう、となった。この中古車は四国から来たように、金比羅宮の御札が付いたままだった。パキスタンには日本の中古車が多い。レストランや民宿の名を大書した車がある

た。4月の下旬、家の傍らに年輪を重ねたスモモの白い花が満開で、行宮趾の上のあたりの明黄色の山肌のなかに薄いピンクの山桜が目に見えかけた。

最近、明神谷から奥の隠し平まで探勝した機会に、冷たい川を渡ってお家に立寄ってみた。入口は固く閉ざされていて、周りは草が生い茂っていたが、「西浦房太郎」と墨筆で書かれた表札は昔のままだった。

日バ友好の恐怖

西尾 寿一

その恐怖は静かにやってきた。なぜこんなことになったのか、最初から変だったような気がするのにかつにも「まあいいか」と見逃し続けた結果、こんな思いをしなくてはならなくなったのだ。すべては判断の微妙なず

れによっている。

私たち4人(うち女性3人)は三週間のパキスタン旅行の途中だった。桃源郷といわれるワンザからギルギットに戻り、ヒンズークシュを目指してシャンドウル峠を越え、チトラルからさらにロワライ峠を越えてミンゴラに入る。

ミンゴラはスワート谷の中心地で、南の高地にサイトウ・シャリーフの街があり、行政の機能をもっている。ちょうど、ラウルピンディとイスラマバードのような関係である。そのサイトウ・シャリーフのロイヤルパレスホテルに泊して付近のガンダラ仏教遺跡を巡ることにした。

ホテルの名は豪華だが、昔の王が冬の保養地として使ったもので、広い庭にコテージが並び、ベッドルームのほかに二室と広いシャワー室が付いている。少し古いですが、これで千円程度で泊

まま走っていて、まるで日本にこんなような錯覚さえする。

ガンソリンを入れ(なぜかこの国では客を乗せてからガンソリンを入れる)、ジュータン屋の二階で両替をする。おたがい信用できないので、テーブルの上に札を並べて一枚ずつ勘定する。まるで開取り引きの現場のようだ。こんなことばかりしているうちに時間がどんどん過ぎて、メインのウテグラムに着いたのは午後になった。ウテグラムには紀元前四世紀にアレキサンダー大王が攻略したオラの町があり、背後にはラジャ・ギラの山城がある。岩尾根には石積みのお塔が点々と見える。この山城に登る予定である。

目前の山城は樹木がなく、岩の露出した立派な山に見える。登り出すと、地から湧いてきたように10〜15歳程度の子どもが10人ばかり集まってきて、ついてくる。「地球の歩き方」には

「ここは治安が悪いからしっかりとガイドをつけ、ついてくる人間は追い払うように」とあるが、子どもだから「まあいいか」と登り出す。これが第二の変である。

登り出して15分ほどすると、後ろからパキスタン人の若い男が3人追いついてきて「自分たちはカラチから来たものだ。いっしょに登ろう」と言って、前後しながら登る。これが第三の変だった。

20分ほどで城の一部の物見の場所に着き、城の管理をしているという老人が1人いた。カラチの男たちは勝手に「この水はうまいのだ」とバケツの水を置いて皆で飲む。確かにうまかったが、何か入っていないか、彼らの手元を注視し、呑むのは少しだけにした。

いよいよ本格的な登りとなる。市場の跡だという場所であろうと第四の変が現れた。彼らの衣



随想 (山のエッセイ)

の下からピストルが現れたのだ。一瞬血が引いた。それを察したのか、彼らは「運転手と知り合いで君たちを護衛してきた」と言うのである。本当かいな、どうにも信用ならない連中だ。それに運転手もグルだったらどうしよう。よく見ると子どもたちも全員ゴムのパチンコを持っているではないか。あれで集中攻撃されたら降参するよりほかにいだろう。

よく考えてみれば、イスラム教徒がカラチからガンダラ遺跡を観光するわけがないし、発言内容もコロコロ変わる。運転手も依頼した人物とは違うし、子どもたちもわれわれを待っていたかのように突然現れている。全く危険な状態だ。それに気づいたときは万幸体すで、われわれの頼りにするものは皆無だった。

覚悟を決めるしかない。命とバスポートだけは何とか頼むと

して、靴底に隠した350ドルで大使館に駆け込むしかないと思った。しかし、自衛手段も考えねば。男たちと子どもたちの集団は別とみて、背のザックを子ども一人に背負わせる。アメを配り、話を続けてなるべくなごやかな環境をつくる。君たちは男前だとか、バキスタンを誉めちぎる。日バ友好ムードづくりに精出した結果、何とか下山することができた。

ところがなぜか、見事に車のタイヤがパンクして、運転手は下の町までタイヤを取りに走るといふ。その間、彼らと子どもはわれわれのそばを放れずにウロウロしている。

ここでも話が途切れたら危険とみて、必死で話題を探し、子どもにはボールペンなど小物を配って喜ばす。その時間の長かったこと、早く宿へ帰って休みたかった。そのうち、タイヤが来た。そ

して修理が終わわり何事もなく彼らと別れたが、不慮な経験だった。善悪どちらにもとれるが言えることは、彼らその気になればいつでも金品が掌中にできる状態だったし、逆に日バ友好の度を越えた親切さで日本人を接待したともとれる。

あるいはその中間で、行動を途中で断念した可能性もある。車のパンクも謎だし、ほかの遺跡には私設ガイドがいて、勝手に案内しておきながらチップを要求したのに、結局この男たちは何も要求しなかったのだ。われわれは一度は降参しなかったのに、ここは何が何でも日バ友好と強弁する側に与るのであった。

しかし、あれはいったい何だったのだろう。時間を経て今なお謎が解けずにいる。

皆さんも外国の遺跡巡りの際はくれぐれもご注意されるように。

花花への恋文紀行

「みづめ桜」と御祓山

稲岡 茂

但馬

奈良・平安の昔より、大和民族はいつの世も山川草木を慈しみ、これと一体となる暮らしを風流として憶えてきたようだ。私も運命を過ぎたいま、これを現代風に解釈し、世俗のシガラミ、透れの「癒し」の対象として、山の姿や川の流れ、草花や樹木のたえずまいを愛でながらの山歩きで、大自然探勝行を楽しんで……、なんてカッコいい？ことを考えている。

なかでも花木の鑑賞対象は早春の山斜面のスイセンに始まり、梅・ツバキ・コブシ・桃・桜と移り「花見」シーズンを迎える。そしてカタクリ・ツツジ・フジ・ヒマワリ・コスモス……等に及んでいく。さらに四季の変化と共に紅葉など、山歩

きでの花探しが年中行事の一つになっている。

その結果、どこの何とかが花が満開と新聞やテレビ、PR紙で知ったら、山歩きは二の次にしてでも、そこへ何とか行こうと、悪かれたようにアセってしまうことになる。

昨年梅見物の和歌山・南部梅林一帯巡りを皮切りに、地元権現ダム湖畔と志方の圓照寺のユキヤナギの鑑賞行、西脇の西林寺の唐子ツバキがらみハイイク。桜シーズンには二日連続で花見のハシゴをやらした。桜の名所、和歌山の根来寺に至る山越え遊歩道を歩き、おまけの粉河寺、さらに紀三井寺に移動して裏の名

「つつじ回廊」のなだらかな地点にて



草山を徘徊した。翌日は京都醍醐の豊太園花見行列を見てから醍醐山を往復した。その後、毘沙門堂から花の山科疎水歩きといった具合だ。そして見納めは兵庫県但馬は大屋町の「みづめ桜」の古木に惹かれ、標高6000呎の山斜面の山桜鑑賞行とした。

全国どこにでも、このテの樹はあるものだが、但馬では他に、同じ大屋町の山



みづめ桜

中に「樽見の大桜」とか、温泉町「泰雲寺のしだれ桜」など一本集中?の桜が楽しめる。

ローカル新聞紙上で大々的に「600年咲きしみづめ桜こらん下され」と、恋文の募集と合わせたPR紙面を見た。そこは里山の三角点踏破目標としても注目していた山。ここまで言われたら、もう行かざるをえまいと、好奇心満々で女房

と共に出かけたわけだ。

山は御蔵山、標高800材足らずで、南の須留ヶ峰から谷を隔てて真北に見える尖峰。地図上には山頂までの道はない。その南尾根に桜の大木があることは知っていたが、やぶ漕ぎ登行だろうと、何となく機会を失ってきた山の一つだ。行ってみると西方の糸原谷の入口に立派な案内高札が立てられ、道に何の不安もない。10数台の車が駐まっています、高

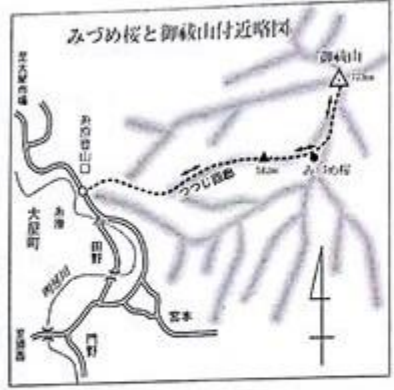
齢の老人も登っており、案内標もすっかりしたわかりやすい道だ。たしかに厳しい登り一方の山道だが、「つつじ回廊」と名付けられ、何と下から上まで尾根上ほとんどがミツバツツジに飾られた華やかな道だった。それもツツジがよく見えるように切り開かれてあり、南面の見晴らしもよく、急坂を忘れさせる、まさしく「花道」であった。

「みづめ桜」は、途中のコブ上から白い固まりとして遠望できる。暗い雑木林の谷間の奥で眼前に出現した。登り始めて1時間20分だ。種類はエドヒガンとかだが、真っ白な花弁で樹高20数材。急斜面に周囲を切り開かれて枝を四方に張り、樹齢600年とは思えない勢いである。周りに一本の桜もなく、まさしく独立孤高のイッポンドッコの姿で、あたりを睥睨している。こういう大樹に接すると、もう参ったという感じで見惚れるしかない。ハイカーたちは周りの急斜面の林間で弁当を広げ、酒無し花見の休憩中だ。ここまで登高約400材、それだけの値打ちは十分にある。われわれはここからさらに御蔵山の頂上まで登ったがそこは無人。西に氷ノ山

が遠望でき、展望もある。南向こうの斜面に、同じような白い大木が見えたのだが、あれも隠れた桜かもしれない。いずれはそこへの探索行を考えるオマケの目標もできた。



みづめ桜遠望



ルサンダル?で来ている婦人がいたのは呆れるとともに、マスコミ報道の怖さも感じた。相当苦勞してはいたようだが、言い方を変えればだれでも登って行ける証明をしてくれているわけだ。

下山して地元の人に聞く。やはり桜周りの伐採やつつじ回廊設置で相当に苦勞されたとか。登山口の感想文ノートに「みづめ桜讃歌」を記述したのはもちろん、帰宅後、イベントの「みづめ桜」への恋文にも応募することにした。

この後も機会を得て、岡崎市の五万石藤や岡山・和氣の藤公園と、花から花を求めてミツバチもどきのハイクは続いております。風流の道もけっこう忙しいものだ。そして恋文の色好い返事がくるかどうか、ああ青春?の胸は高鳴る。……と言え、老いらくの何とかにされそうだが、近くの高砂市出身のポーカー「花*花」にならともかく、植物の花に恋するぐらいは許してチャウダイ!!

その恋文は以下のような時代モノ仕立てで見事、最優秀作としてウン万回をゲットした。「恋文」などと言うものは現代にあっては寓話のようなもの。表現に重

複もあり恐縮だが、「みづめ桜」の麗しさを知っていただく手段として、あえて披露して笑ってもらうことにしよう。

「謹啓 麗しのみづめ桜様身許へ、不躰にも想いの丈をそのままに申し述べる失礼を、どうかお許し下さい。

私が趣味で山野を散歩中のある日、御父上の須留ヶ峰から御母上の御蔵山の頂を遠目にお伺いした折り、人づてにお子様のお姿の麗姿を聞くに及び、まだ見ぬそのお姿に思いを馳せ、いつか憧れの的になってここ数年、桜花の候を無為に過ごして参りました。そして先日恋い焦がれていた貴女様のご様子が神戸新聞紙上に大きく表われるところとなり、いそいそと貴女様の御前へ馳せ参じた次第でございます。貴女様に恋してから丁度三年の月日が流れた四月十五日の晴れた日でした。

いやはや貴女様はお噂どおりの艶やかさで私の心を完全に捉えてしまいました。まずはお膝元までの道中を華やかに飾るミツバツツジの生け垣。つつじ回廊とはうまく命名されたものです。私もあちこちのツツジの山道を歩いて参りましたが、

—アミューズトラベル 4月・GW・5月 特選山旅—
春爛漫！国内 新緑と残雪の山特集

霧島連山縦走と間間山 期 間：4月5日(金)～7日(日) 旅行代金：83,000円	雲取山と大菩薩嶺 期 間：4月12日(金)～14日(日) 旅行代金：79,000円	安達太良山と磐梯山 期 間：4月19日(金)～21日(日) 旅行代金：84,000円
燕岳と中房温泉 期 間：4月27日(土)～29日(月祝) 旅行代金：78,000円	阿蘇山・祖母山・九重山 期 間：4月27日(土)～29日(月祝) 旅行代金：92,000円	白銀の立山パノラマ縦走 期 間：4月28日(日)～30日(火) 旅行代金：89,000円
美ヶ原と霧ヶ峰 期 間：4月28日(日)～29日(月祝) 旅行代金：45,000円	丹沢山主稜線縦走 期 間：4月28日(日)～29日(月祝) 旅行代金：39,800円	槍ヶ岳登頂 期 間：5月2日(木)～5日(日) 旅行代金：108,000円
残雪の野麦峠越え 期 間：5月11日(土)～12日(日) 旅行代金：47,000円	大台ヶ原から大杉谷 期 間：5月3日(金祝)～5日(日) 旅行代金：49,000円	大峰山縦走 期 間：5月3日(金祝)～5日(日) 旅行代金：57,000円

憧れのネパール・ヒマラヤの山旅特集

世界最高峰の展望台 カラバートルトレッキング 18日間
 カラバートルトレッキングの魅力である、世界最高峰エベレストを眺めとる大展望台が満喫できます。
 期 間：4月14日(日)～5月1日(水) 旅行代金：418,000円

ゴークョピーク(5360m)登頂トレッキング 16日間
 ネパールトレッキングのハイライトコース。ナムチェバザールから8000m峰4座が迫る大展望台に登ります。
 期 間：4月20日(土)～5月5日(日) 旅行代金：408,000円

エベレストベースキャンプとヒマラヤ大縦断 13日間
 エベレストベースキャンプを経てネパールへ四輪駆動車で挑む壮大なプランです。
 期 間：4月26日(金)～5月8日(水) 旅行代金：618,000円

ナンガバルパットトレッキングと桃源郷ファンサ 11日間
 期 間：4月26日(金)～5月6日(月) 旅行代金：323,000円

ロジ治で歩く ブーンヒル(3194m)トレッキング 9日間 **ホルカンチェバザールエベレスト展望トレッキング 18日間**
 期 間：①4月9日(火)～②4月30日(火)～ 期 間：①4月9日(火)～②4月30日(火)～
 旅行代金：①268,000円 ②368,000円 旅行代金：①268,000円 ②368,000円

中国、東南アジア、オセアニアの海外山旅&トレッキング

仙境の地 黄山らくらく縦走 5日間 **首都北京と万里の長城 4日間** **台湾最高峰玉山らくらく登頂 5日間**
 期 間：4月26日(金)～30日(火) 期 間：5月4日(木)～8日(月) 期 間：5月1日(水)～5日(日)
 旅行代金：195,000円 旅行代金：135,000円 旅行代金：230,000円

マレーシア最高峰 キナバル山登頂 5日間
 ホルネオ島にそびえ立つキナバル山。特別な装備無しに富士山より高い海外の山へ。海外登山の手始めにどうぞ。
 期 間：4月30日(日)～5月7日(日) 旅行代金：228,000円

パプアニューギニア最高峰ウィルヘルム山登頂 8日間
 多くの自然や文化の残るパプアニューギニア。そんな島の最高峰ウィルヘルム山(4509m)に登頂します。
 期 間：4月27日(日)～5月4日(土) 旅行代金：418,000円

2002年度 山歩き総合カタログ 完成しました！
 詳しくは下記までご請求下さい。～送料無料～
 お問い合わせ/お申込みは… 国土交通大臣登録旅行業第1366号 日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員

アミューズトラベル株式会社 TEL (06)-6456-3366
 〒530-0001 大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前第3ビル7F FAX (06)-6456-3377

これほど見事に開かれたツツジの尾根筋は、未だお目にかかった事が有りませんでした。苦しい筈の急勾配の登りが楽しくうございました。お付きの方々の慈しみが察しられ嬉しくなりました。

山裾から一時間二十分の興奮の後、深い谷間の急斜面でとうとう貴女様と感激の出会いとなりました。なんとという美しさでしようか。しばし言葉も失いました。そして貴女様の気品ある、純白とも言える花弁には桃色系とはまた違った楚々としたお色気を感じて震えました。急斜面に根を張って大きな枝をバランス良く天空にまで広げ、その先々まで満開の花はな花華……。さしたる枯れ枝もなく、ふくよかによくぞ六百年もの間、華やかにおられたのだと関心もし驚嘆もいたしました。お兄様でしょうか、同じ大屋町の樽見の大桜様、満身創痍の樹幹や枝葉には悲しくなりますが、貴女様の元氣なお姿を見て心安らぎ私の来世にまで勇氣を戴きました。

すぐお側で貴女様を心ゆくまで鑑賞させて貰って永遠のお姿を何枚ものデジタル映像に留めさせて戴き、その恥じらいの御容姿を愛でながら至福のひとつときを

過ごしました。

その後、貴女様を育てた母なる御破山にご機嫌伺いに参りました。標高七百七十三・一mの頂きはお膝元の賑わいは別世界の静かな所でした。氷ノ山が西方樹間に望め、東南方は明るく開けておりました。下り道で、もう一度、光に包まれてさらに見事なお姿を裏に焼き付けてから、振り返り振り返り再びつづき回廊を通過してお別れと致しました。

どうかこの後も春来たりなば純真無垢なままで日の本の心、爛漫の桜花をいつまでも咲き揃え、国中の私奴ら桜恋人共を魅了し続けて、さらに数百年の天寿を全うされんことを心よりお祈りすると共に伏してお願ひ申し上げます。それでは又の会う日まで。敬白

平成十三年五月八日 高砂市の桜恋人 人 稲岡茂 みづめ桜様

というようなわけで、本文をもって「みづめ桜」見物に行ってみようかな、と間違っただけか拍子のヒョットかにも感じられたとしたら、貴方貴女は既に「みづめ桜恋人」になってしまったわけで、そして立派な花花恋人と言えよう？

がつがつエイコライコラとひたすら名山高山に囚われるのは若気の突き当たりの。百名山でも三百名山でも勝手に決めてくれ。てなもんで当方は木々や花や虫や鳥や生き物に目を見張り、滝や渓谷や奇岩に見惚れ、風や雨や光や音におののき、いつもキョロキョロしながら、できることなら徒党を組まず、足は向くままにして寄り道を厭わず、そこらの隠れた迷山ヤブ山を目指して、悠々たる山歩きをする。こんな山男に私はなりたいわけで、今後自分流を通して花花恋人でもあり続け、自然体で森羅万象に取り組みたい、と考えている老春ハイカーです。どうぞよろしく。

(平成13年4月15日歩く)

△コースタイム▽
 糸原登山口(1時間20分) みづめ桜(20分) 御鞍山頂上(3等三角点糸原)(1時間20分) 糸原登山口
 △地形図▽
 5万Ⅱ大屋市場
 2万5千Ⅱ大屋市場
 *登山口まではマイカーによる(駐車場あり)。

九州百名山を歩く

白嶽と有明山

高柳生雄

対馬

平成13年のNHK大河ドラマの舞台を訪問。北条時宗の激闘と元寇の史蹟を追って、福岡・佐賀・長崎の三県を訪れた。その際、対馬にある九州百名山の白嶽(519m・対馬の民謡にも歌われている)と有明山(558m・一等三角点の山)に登った。

博多港を夜遅く出港し、翌朝、上対馬の比田勝港に着き、国民宿舎「上対馬荘」で朝食をとった。その後、韓国展望所に立ち寄ってから国道382号線を南下し、鶏知から洲原白嶽登山口バス停へ。そこから洲原川沿いの道に入ると、白嶽が正面に見え西へと進む。登山口の案内板を見てさらに車で林道を奥に進み、沢を渡っ

た所で車から降りた。

川沿いに登り、流を捲く急坂を登ると、川は杉林のなかのゆるやかな清流に変わった。前岳から北にのびる尾根に取りつく手前の沢が最後の水場だ。白嶽中腹を斜めに登って行くと、石の鳥居と道標が立つ分岐に到着する。直進すれば三角点ピークおよび上見坂方面へ行く。山頂へは右へ鳥居をくぐる。大木がうっそうと茂るなか、ロープを張った急坂を登って行く。と小さな広場に出た。そこから少し右に入ると見晴らしのよい岩場に着くが、頂上に行くには直進する。高さ40mの二つの岩峰の鞍部を越えて左へ曲がり、白嶽神社石祠を過ぎると岩場で、右方向に6

討ほどトラ
パース気味
に慎重に登
る。さらに
右に廻り込
むと西岩峰
(山頂)に着
く。東岩峰
には登路は
ない。
霊山とし
て崇められ
た白嶽。古くは修験者たちの修行の場であつた。



日本と大陸系の高山植物が混在する原始林が残っており、太古の昔、地殻変動で日本海が陥没する以前は、この一帯が高山であつたことがしのばれる。

山頂からの展望は雄大。東から北にかけて、眼下に浅茅湾を囲むリアス式海岸の岬や島々、対馬空港などが見え、そのはるか先には対馬北部の山々。空気の澄んだ晴天時には韓国山並まで望める。西から南には、対馬最高峰矢立山(649m)や有明山から上見坂峠まで南部の山々が見渡せる。

婦路は往路をくだって再び車に乗り、厳原の八幡宮神社まで行く。

有明山の登山口の厳原八幡宮は、清水山山麓の老木の茂る神域に静かに鎮座している。古くは和多津美神社といひ、神功皇后の伝説に基づいて創建されたもので、明治24年八幡宮とその名を改めた。境内には、対馬聖人と称された農聖陶山訥庵の頌徳碑が建っている。

有明山は「対馬の嶺」とも呼ばれ、「万葉集」にも詠まれた歴史ロマンあふれる名山で、厳原市街の背後にそびえる山頂は広い草原で、風光にも恵まれている。



るので、ハイキングコースとして島民に親しまれている。天気がよければ老枝の鳥影、松浦の山が見えることもある。八幡宮神社境内西側から住宅地を通過して行くと、対馬歴史民族資料館からの道と合流し、清水山城、有明山登山口の案内板の所に出る。

ここからは三の丸から一の丸経由の道を通らず有明道を進む。照葉樹林や檜林のなかを通り、有明山と成相山の鞍部に着く。山頂へは鞍部から道標に従って左折し、有明山から東にのびる登山道を登りつめる。有明山まで385mの案内板のある久田道(旧道)の分岐に出る。アカガシ林を抜け、草付きの急坂を登り切ると広々とした山頂の草原に到着した。山頂からの展望はすばらしく、北から東にかけて先ほど登ってきた白

嶽や対馬北部の御岳まで見渡せ、眼下には厳原の街が広がっている。南から西にかけて晴天の日には老枝の平の鳥影と、眼前には矢立山が見える。

婦路は久田道(旧道)もあるが、道が荒れているとのことなので往路をくだった。(平成13年5月12日歩く)

▲コースタイム▼

▲白嶽 登山口(1時間)鳥居分岐(1時間)白嶽(1時間30分)登山口

▲有明山 八幡宮(15分)有明山・清水山分岐(1時間15分)有明山・成相山鞍部(30分)久田道分岐(20分)有明山(1時間30分)八幡宮

▲地形図▼2万5千阿連・厳原

▲問い合わせ先▼

美津島役場水産商工係

092005(4)2271

厳原町観光協会

092005(2)7700

津島交通株式会社

092005(2)1810

津島タクシー

092008(6)2131

九州郵船

092(128)6636

神津嶽

木村 太郎

生駒

河内国一の宮、枚岡神社から生駒山へのハイキングコースとして、摂河泉と神津嶽の道がよく歩かれている。摂河泉道は生駒山上への直登の道、神津嶽道は枚岡神社本宮のピークを踏み、暗峠をまたいで生駒山上へ向かう道である。

枚岡神社の南側に神津嶽の登山口に当たる枚岡梅林があり、早春には梅見の散歩を楽しむ人々で賑わう。紅梅の「道知辺」や白梅の「春日野」などの品種が見目形を競い合う、美しい梅花の園を抜けて登山道にとりつく。

広く歩きやすい道をたどると、ほどなく枚岡山の展望台に着く。河内平野が一望の下に眺められ、遠く摂津の六甲山地

から和泉方面の家並まで見渡せる。摂河泉と呼ばれる街の風景が、難波の海岸あたりを遠望に視界いっぱい迫ってくる。

神武東征伝説によれば、日向の國、高千穂の宮より旅程を重ねた磐余彦命は、生駒山を越えて大和の地に入ろうとした。大和川と淀川の大河が内海に流れ込む難波の碕に船団を進めたときに、海路を逆流する早瀬に遭遇して浪速と名付けた。それが難波の名の起こりとされている。

古代には、生駒山の麓近くまで河内湖といわれ、難波の海の入江を成していた。磐余彦命は草香村の白眉津に上陸し、孔舎衛坂で長髓彦命と戦端を開いた。こ

て社殿を立てさせた。これが枚岡の地名の由来になった。うっそうと樹木が生い茂った神津嶽(315m)の山頂には、立派な祠が坐していた。延喜式で名神大社に名を連ねる神階高き社の本宮らしいたたずまいである。

天児屋根命の神霊を勧請した神津嶽の地より、現今の地に枚岡神社の本殿が奉遷されたのは、孝徳白雉元年(650)のことだという。神護景雲年間(767~9)には主神を奈良春日神社に分祀し

ており、元春日とも呼ばれる中臣・藤原氏の祖先神と伝えられている。

神津嶽から生駒山の高みへと明るい自然林の道を登りつつも、磐余彦命が長髓彦命の矢弾をよけるために、森の太幹を楯にした光景が浮かんできた。そのとき戦場となった枚岡の森は、母のふところのように衆軍の人々を守って救ったという。以前にあった中河内郡枚岡村母木邑は、その古跡だと伝承されていた。



府民の森管理棟に出席されていた。

へいさなう階段を上がって行く先に、「なるかわ園地」の芝生広場があった。季節はずれの淡雪を敷きつめた園地に立ち、仰ぎ見る紺青の空を映した生駒山は、記紀が伝える「東方の美しい園を囲んでいる青い山々」そのものであっ

神津嶽登山口の枚岡梅林



の戦いで磐余彦の兄五瀬命が手傷を負い、これが河内から熊野へ東征の道を転じる糸口となったという。

はるかな昔、人皇のいまだ定まらぬ時代の伝説に思いを馳せて、神津嶽の森へ歩いて行った。

神武天皇は畝傍山の東南に橿原の宮を築いた後に、神津嶽に天種子命を遣わした。古戦場の山林を平らな岡に切り拓い

た。

妹に逢はずあはばすべなみ岩根踏む

生駒の山を越えてそ我が来る

(巻十五・三五九〇)

妻と離れ、逢わないでいると恋しさが増して、岩根険しい生駒の山を越えて私は歩いて来た。旅立ち前のわずかの日数をさいて、生駒山を直越えした道白羅使人の歌である。

河内と大和の国境にそびえる生駒山は、往来する人々にとって、行く手をさえぎる厳しく険しい山と思われていた。けれども生駒山を背景にして詠まれた古歌は、峻険な山岳をステージにしたながらも、不思議なことに恋愛歌が多かった。

君があたり見つつも居らむ生駒山

雲なたなびき雨は降るとも

(巻十二・三〇三二)

あなたの家のあたりをいつまでも見たいのです。生駒山に雲がたなびいても雨が降り出しても景色をかくさないでください。この作者未詳の歌は、在原業平を想う女人の歌として『伊勢物語』にも収録されている。

府民の森のまわりには万葉の道と名がついた環状の遊歩道が敷かれている。丘

陵の南端には万葉植物展示園がつくられている。「万葉集」に詠まれた多くの樹木と草花に触れ合える、府民のオアシスなのである。

「ぼくらの広場」という愛称のついた園地から、信貴生駒線走路へ進んだ。暗峠への道を背にして大原山(5233m)を通り過ぎ、椿の林に包まれた横峰山を抜けると鳴川峠に出合う。生駒山上の方向をとらずに、鳴川峠へ歩いてきたのは理由がある。この日は長岑の令嬢であった、悲劇の万葉歌人長屋王の墓に寄りたという思いがあったからだ。

峠の片隅で旅人を見守ってきた石仏に手を合わせ、鳴川千光寺へくだり始めた。道は二筋に分かれており、右は谷筋への道、左は尾根伝いに道がのびている。ためらうことなく左の道をとって、芽吹き間近な短枝を白く光らせた雑木林の尾根道を進んだ。行場への入口を見送り、山峡の棚田を過ぎて舗装路に出ると千光寺は近かった。

役行者が大峰に入峰する前に修行した霊場であるが、大峰山とは異なり、女人の参籠を許した古寺でもある。それゆえ千光寺は元山上とも女人山上とも呼

ばれてきた。その女人寺の門前に似つかわしい、花の多い集落を通って鳴川溪谷に入った。清滝石仏群に感心し、溪流沿いの地道を楽しんで歩いた。

生駒山系は河内側の道は急峻だが、大和側はなだらかな道が続く。棚田の広がる田園風景や矢田丘陵の山並を見つめながら、ゆっくりと元山上口駅へ歩いた。伊古麻山口神社をやりすし、竜田川に架かる櫻原橋を渡れば元山上口駅だった。が、今回は竜田川沿いの道を平群駅の方向に舵を切り替えた。

前方で呼んでいるふうな二上山や葛城連山を追いかけようように、生駒と平群の山々に挟まれた平群谷の風景のなかに身をゆだねて歩く。椿本神社の手前で竜田川を渡り、清流街道と近鉄線を横切って、御陵苑内の住宅地に入った。

天武天皇嫡孫孫長屋王と王妃吉備内親王の双墓は、御陵公園を間にして、同じ道沿いの少し離れた場所、それぞれ久遠の時を過ごしていた。

大君の命かこみ大殯の時にあらねど雲隠ります
(巻三十四四二)
この挽歌は、左大臣長屋王の死を悼んだ

王の才能が途中で断られたことは何とも無念である。

岩が根のこごしき山を越えかねて
音には泣くとも色に出でめやも
(巻三十一〇一)

岩根の険しい山を越えるときに、辛さで泣けそうな気持ちになっても、表情には出さないでいることだ。

泣き言の一片も決して他者には悟られ



長屋王墓

まいとした、男振り凛々しい長屋王の歌である。この歌に詠まれた山は生駒山ではなく平城山だと解釈されている。いずれにせよ、この歌に流れる貴公子然としたダンディズムこそが、長屋王の生きざまであった。

私学左道・欲傾國家の王と指彈されたときにも、ことさら申し開きをするでなく、藤原氏の罪に身を任せていた。高市皇子の嫡子であればそれなりの軍も動かしたはずなのに、王妃や王子膳夫王とともに、素直に運命に殉じてみせた。花と生きてはかなく散り果てても、汚れた色を見せまいとした。長屋王の男らしい潔すぎる生きざまに、滅びの美学というもののさえも感じられるのである。

漫画家の里中満智子さんが描いた「長屋王残照記」の絵物語の王は、まるで宝塚歌劇の舞台上に現れる主人公のように清らかで美しい。ただ里中さんの考えでは、長屋王は世に伝わる絵死などではなく、貴人らしからぬ自らの刃で身体を傷つけている。

里中説のように激昂して死んでいったか、死に臨んで冷静であったのか、真相は不明である。だが陰謀をめぐらせた藤

観光バスなら 確実第一の
太陽観光開発(株)へ!!

- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)

いずれもサロンカーからアラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市満池本町1-20 オカゲビル4F
電話 06(6745) 3911・FAX 06(6745) 3983
夜間・電話 06(6242) 2371・FAX 06(6242) 2372

で倉橋姫女王が詠んだ歌である。長屋王の変については、「続日本紀」の聖武の条に詳しい。密告により謀反の濡衣を着せられ、自尽の憂き目にあつた王と妃の屍は、生駒山に葬り捨てられたという。

先年、平城京跡の朱雀門にほど近い平城城内で長屋王邸跡が発掘された。大量の木簡が見つかり、往時の王族の生活ぶりがうかがえるなど、考古学上の貴重な発見がなされた。伝えられるに長屋王邸では詩歌の宴が催され、万葉文化の華が開いていた。「懐風藻」や「万葉集」に知られる長屋王の詩歌に親しむときに、

原四兄弟は当時の流行病でみな倒れていた。長屋王の嶽りだと都の人々は噂したという。

生駒山の由来にふれた河内の伝説では、その昔、船旅で弱り切っていた唐からの献上品の駒(子馬)を、山の麓に放し飼いとすると駒が生き返ったためとされている。それが事実であるならば、生駒山は生命をよみがえらせる神祕の山そのものであった。

生駒山に葬られた後に、平群谷に改葬された長屋王は、神祕の山で死後を過ごしたためか、永遠の命を得ていたのだ。現身は滅びても、その面影は「万葉集」に残された歌によって、今日の人々の前に浮かび上がるわけである。

(平成13年3月10日歩く)

- ▲コースタイム▼
- 近鉄枚岡駅(5分) 枚岡梅林(20分) 枚岡山展望台(10分) 神津嶽(40分) ぼくらの広場(5分) 大原山(30分) 鳴川峠(30分) 千光寺(40分) 櫻原橋(20分) 長屋王墓(10分) 近鉄平群駅
 - ▲地形図▼ 2万5千 生駒山・信貴山

キナバル山紀行

高島伸浩

マレーシア

平成13年10月31日、電車の遅れもあって関空に30分も遅刻してしまっただが、村田代表始め、皆さんはにこやかに待っていてくれた。私にとっては皆初対面だが、ベテランの面々。女性も5名。大阪を中心に関西の人ばかりで、北陸からは私1人である。

沖縄・台湾・フィリピンの海岸を眼下に南下して行く。何時間飛んでも青い海、白い雲、広い空。そんな窓外を見ていると、地球の一面で戦争をやっているなんて信じられない。

林立する油椰子の段丘をかすめ、首都クアラルンプールに着いたのは夕刻迫る17時30分。関空から7時間の飛行だった。

島から帰り、民族村を見学した。昔の風俗・生活が再現され、竹や椰子でつくられた高床式の家屋には、首狩り族の頭骨が吊してある。子どもの頃本で読んだジャングルの世界があった。

街の中はマレー語・英語・中国語の極彩色の看板が目を引く。物があふれ人があふれている。東南アジアを席捲する日本車がここでも目立つ。

キナバル山へ向かう。山に向かうにしたがって雲は厚くなり、小雨からどしゃ降りになった。今は雨季で午後からは必ず雨が降るそうだ。

コタキナバル市街から2時間半で国立公園本部に着いた。登山手続きの後、われわれ15人に対して登山ガイド2人とポーター4人が付くことになり、バスの中で紹介される。夕闇に包まれる頃、公園内



キナバル山はボルネオ島の北端にあるため、21時10分発の国内線に乗り換えてコタキナバルに向かう。乗り継ぎターミナルでは、濃いひげにターバンを巻いた男の人や、女の人には「ブルカ」を頭からスッポリかぶり、回教徒の国へ来たことを実感する。コタキナバルへは現地時間24時に着いた。

飛行機の空調やホテルの冷房などでどうやら喉風邪をひいたらしい。

一夜が明けた「ハイアットホテル」から見ると、裏庭に続いて南シナ海が広がっていた。対岸に国立公園の島々が浮かんでいる。その一つ、フィリピン人の水上

のコテージに落ち着く。しかし冷たいシャワーでさらに風邪は悪化の気配だ。雨は夜中まで屋根を叩いていた。

3日目、6時に目覚めると前夜の雨が嘘のように晴れ上がり、ボルネオの朝日は熱帯植物の葉影を透かして輝いていた。「キー、チィチィ」と小鳥の囀り。ロッジの前からきょう登るキナバル山の岩峰群がムクムクと大きく迫っていた。

バスで登山口まで移動、標高1800m。登山開始8時。ポーターたちがわれわれの荷物を担いでくれる。うち2人は女の人で、小柄なマリナとブリーナという可愛い名のおばちゃん。1人分の荷物を持ってみたら20kg位あった。思わず「ありがとウリレマカシー」と言った。チップは150円ほど、ニコニコして受け取っていた。

登山ガイドを先頭に、幅広く整備された登山道をゆっくり歩く。「ガサガサ、キーキー」と立ち木が揺れ、猿軍団のお出迎えだ。滝のしぶきがかかる。ガイドは次から次へと現れる花の名前を教えてくれる。白い花のジンジャー・可愛いピンク色のキナバルサン・オケリー・

ラバンラタレストハウスとキナバル山の岩壁



集落の島へ渡って見学した。

島中子どもばかりと思うほど子どもが多い。カメラを向けると無邪気にはしゃいだり、元気にサッカーで遊んだりとなつっこく皆明るい。漁に出かけるお父さんたちも手を振ってくれる。学校の教室やモスクも住居ももちろん海の上だ。どうしてこんなに子どもが多いのかと聞くと、娯楽が何にもないからだと言う。

細かく白い花のフリーピーアーシーなど。

きょうの行程は、標高1890mの登山口から8時、標高3350mの「ラバンラタレストハウス」までだ。ほとんどが熱帯雨林のジャングルのなかで鬱蒼としている。植物が何もかも大きい。およそ1m毎にトレイル・東屋・水タンクが整った休憩所(シェルター)があり、ガイドは休憩をとってくれる。

朝とはいえ熱帯雨林のなか湿度が高く、ジワーと汗がにじんでくる。Tシャツ一枚、登山ズボンも膝までまぐさる。植物のなかでも見物は様々なランや食虫植物のウツボカズラで、沿道に時々姿を見せる。その度に感嘆の声があがりフラッシュがピカピカ。さらにこの山には世界一大きな花の「ラフレシア」があるというが、ジャングル奥深くにあるのだから、とても目にするにはできない。

11時、スコールがやってきた。第5シェルターが一番大きく三棟あり、スコールのしぶきに濡れながらサンドイッチ弁当をとった。熱帯とはいえ標高が上がるにつれて、まして雨のなかでは涼しいのを通り越して寒さを覚える。以降長袖にゴ



アの合羽を着る。
第6番目のシェルトターは高い樹が灌木に変わってきた。
晴れていれば見晴らしもいいのだろ

うが、あいにく雲のなか。3000mを超えた第7シェルトターあたりから呼吸がつかなくなってきた。頭も少し痛い。どうやら高山病らしい。スコールはおさまり細かい雨に変わったが、汗が引くと寒い。もううんざりという頃、ラバンラクレストハウス(山小屋)に着いた。

山小屋は二段ベッドの蚤部屋。私は上のベッドとなると暖かいというより熱い。寒いやら熱いやらでますます喉によくない。雨はいつしかやんで、雲海に沈む夕陽が真っ赤だ。明朝が早いので19時には

就寝。

4日目、いよいよ本峰登頂の日だ。日の出に合わせて登頂するので、夜中1時45分起床。温かいお茶を飲み、2時15分出発。暗闇のなかをヘッドランプの行列だ。目が覚めても頭痛が治らないので出発前にケロリンを飲んだら、しばらくしてケロリンと治ってしまった。

夜中だが思ったより寒くなく、風もなく穏やかだ。30分も歩くと汗がしたたり落ちる。深夜の街明かりがコタキナバル方面からキラキラ。……ということは晴れているのだ。ウワーオ、ラッキー。

昨日の山小屋までの道とは様子が変わって、ゴツゴツ岩を足場を選びながら登る。木製階段では手すりをつかんで身体を引き上げる。空気が薄いのでさっさと歩けない。息を長く吐いてから吸うという呼吸法でゆっくりにゆっくりに歩くと、1時間位歩くと森林限界となり、花崗岩の一枚岩の上を歩く。以降登山ルートの岩盤上に太いロープが渡してあり、それをたどって行くが、それがなかったら迷ってしまうだろう。岩盤といってもザラザラで滑らず、ゆったりとした勾配だ。

頂上の峰は「ロウズビーク」だが、他に様々な岩峰ビークがある。なかでも特異なのは「ドンキーズイヤーズ」だ。いわゆる「ロバの耳」をおぼろに照らしている。足元も月明かりで明るい。

中間の「サヤサヤ小屋」にも10人位寝ていた。ここは素泊り小屋だ。ここで標高3810m、もう富士山よりも高い。頂上直下は大きなガラガラ岩が累積した急登であった。サンライズ寸前の5時50分、ロウズビーク(4100m)に着いた。ボルネオ島の全てがわれわれの足下にある。南洋の山にあって、旭光が奇峰群の一面にピカッと光った。強烈な光はダイレクトに私の脳裏を貫いた。周りを見ると意外と近くに海岸が見える。東側の足下は鋭い角度でえぐられている。北側目の前にすくと尖った「ビクトリアビーク」。狭い頂上にはマレー語・英語二枚の標識。それを囲み皆で記念写真。マレーの若者とも肩を組んで一枚。

こんなに高い所でも氷河に削られたというのだからびっくり。地球の不思議も味わって6時半に下山開始。

明るい日差しの方前には、はるかに続

くボルネオ島の山並。登るときは暗く見えなかったが、ロッククライミングの箇所は深い崖であった。

3時間30分かかった上りも、下りは2時間で山小屋に着いた。8時30分。もうお腹へこべこ。ガツガツ朝食の後9時40分山小屋を出る。昨日のポーターたちは山小屋に泊まらず、いったん登山口まで下山して朝早くまた登ってきたのだという。標高差1500mを往復である。ヒューッ。

10時頃ガスがかかってきた。下りはシェルトター二つおきに休憩。11時にはまたまたスコールに見舞われる。

登るときには抵抗がなかったが、下りはけっこうきつい。今度は筋肉痛になった。登山口着13時。夜中から800m登り、一気に2300m登ってきたのだ。ストックを二本持つてくるべきだった。

公園本部で立派な登山証明書を買って、ガイド・ポーターたちと別れる。本当に「テレマカシー」だ。

13時30分、遅い昼食は中国風鍋料理であった。もちろん再び賑やかに「カンパニー」。かくしてキナバル山登頂の行程が全て終わった。

コタキナバルへ戻る途中、みやげもの屋に寄り、Tシャツを3000円で買った。いや2400円に値切ったとか言って、見せ合いをしていた。マンガステンが役にいっぱい詰まって1500円。市街へ戻り、ホテルは変わって、岬のリゾートホテル「タンジュナルホテル」。初日のホテルよりもさらに高級だ。

20時からの夕食時には、民族舞踊ショーがあり、ケチャダンスやバンブーダンスなど、お客さんを交えて南国の夜はいやがうえにもボルテージが上がった。

キナバル山登山の翌日はすばらしいバケーションが待っていた。山の後はマリンスポーツだ。男性は再びモーターボートで無人島へ渡る。女性軍はお買物意欲を満たして市内へ繰り込んだ。

山では寒かったが海岸では朝からガラガラと熱い。昨日登ってきたキナバル山が微笑んでいる。皆思い思いに木陰で寝転んだり、シュノーケリングを楽しんだり、昨日までとはガラリと違ふのんびりさだ。

海に潜った後は空を飛ぶことになる。若かりし日を思い出してパラセーリング

に挑戦。モーターボートからロープのはび、南シナ海の風を満帆に受けて浮かび上がる。われは今一羽の鳥になって南の海を飛ぶ。私の後のO氏、降下中ロープが滑車から外れて一時巻き取り不能になった。空中のO氏の青い顔。海水に不時着も覚悟したとか。必死の作業でどうにか巻き取りに成功。結果15分も長く飛べたじゃないか。よかったな。

昼食は別の島へ移動し、椰子の浜辺でバイキング。カニはジャングルの木に登るカニだという。食べ方を皆に披露すると「さすが敦賀やな」とほめられる。

昼食後、再びフィンをつけて泳ぐ。透き通る海中で熱帯魚に誘われてついて行く。海亀が現れた。自分の速度とほぼ同じ。しばらくいっしょに泳いだ。そのまま竜宮城へ連れて行かれるのではないかと考えた。時間を忘れて泳いでいると、皆帰る支度をして棧橋に向かっていた。竜宮のおみやげに白い髭ならぬ、真っ赤な日焼けを買った。

南国のサンセットはガラガラと大きく揺らめいて、旅の終わりを告げていた。(平成13年10月31日〜11月6日歩く)

花尽しの山旅

藤原岳

花尽し旅行の第1日目は、鈴鹿七岳の一つ、藤原岳の登山で始まった。

夜通し高速道路を走り、関ヶ原インター手前のサービスエリアで仮眠をとり、午前7時前、聖宝寺の登山口に到着いた。ドアを開けた瞬間、少し肌寒いと感じたが、見上げるとよく晴れて登山日和だとわかった。駐車場にはまだ車は一台もなく、意外だと首をひねりながらも、有名な山の匂を静かに楽しめると、ほくそ笑んだ。

しかし、登り始めると、その気持ちはすっかり覆されてしまった。聖宝寺の前まで登って行くと、先行者の声が森の奥で響いてきた。やがて彼らに迫り着き、

ひと息入れた場所は、杉林から芽吹き前のオニグルミなどの自然林に出た所で、商店街のアーケードを抜けたときのように上からの圧迫感がとかれた。自然光が注いで、じわっと噴き出した汗にさえもとても清々しさを覚えた。健康に暮らせていることに改めて気づかせられ、安心した。

雑木やササがおおう無作為な自然の領域にようやく踏み込んだ。車から見上げていたずしりとつかみどころのない巨大な山容の、どこまで達しているのか見当はつきかねたが、紛れもなく核心部に



尾野益大

鈴鹿

また次のグループの背中が見えた。2人組はザックから耳障りな鈴を垂らしていた。その首から逃れたい一心で2人を追い越した。

北海道の羅臼岳へ登ったときには、さすがに鈴を買ってザックに結んだが、藤原岳でどうしても必要なのだろうか、と疑問に思った。どこの山でも鈴を鳴らしながら歩く人はいるので慣れていないと言えれば嘘だが、好ましくは思えなかったし、今後も慣れそうにない。四国のやぶ山でも「鈴は有効だ」とすすめられながらも、実は使った経験はなかった。野生のクマに人の居場所を知らせたり、同行メンバーとはぐれるのを防ぐ利点は認めても、あ

近づきつつあった。斜面のあちこちに大小無数の石灰岩が散らばり、虎ロープのなかにはすでに花を落とし、長けてしまったような草花も見えた。

途中、大勢の登山者を見てきたし、徳島からの遠路はるばるの旅だけに頻繁には来られないから、時期を逸したかもしれぬというふうにはあえて考えたくなかった。

そして、やはり諦めは不要だった。大貝戸道との合流点になった八合目の鞍部からはアズマイチゲやエンレイソウのほか、お目当ての黄金色の福寿草の花が現れ始めたのだ。登るにつれ、その数は増え、やがて広大な斜面を花々が埋めた。徳島の寒峰という山にも四国一の規模といわれる福寿草の群落があるが、藤原岳ほどエリアは広くはない。

花尽し旅行のスケジュールは、藤原岳だけが行き先でないこともあって、藤原山荘と呼ばれる無人避難小屋に着いたころには十分に満ち足り、「山頂まで行かなくても構わない」という気持ちになっただけだった。

下山後、夜までに長野県駒ヶ根市まで行き、翌日は伊那の高速城跡の桜を見る

天狗岳から見た藤原岳



の独特の甲高い音が不愉快で、「静かな山に入って来たのではなかったか」と、後悔してしまふ始末だったからだ。

しかし、別の意味で鈴の2人には感謝しなればならない。チリン、チリンという音が聞こえない所まで一気に飛ばしたおかげで、普通なら何度も顎が出る杉林の胸突き坂を無我夢中で登り切ったのだった。

手筈だった。そして翌々日は岐阜県根尾村にある樹齢千五百年の日本三大桜の一つ「淡墨桜」に初めて出会う計画だった。その桜は継体天皇が植えたと言えられ、枯死寸前の危機を医師や作家の宇野千代さんらの救援活動で命をつないだエドヒガンの名桜だ。宇野さんは「淡墨桜」のことを小説に残している。

小屋でおにぎりやゆで卵を食べて一服すると、山の花を愛した劇作家の田中澄江さんがアワコパイモを初めて見た山が藤原岳だったことを思い出した。田中さんは、藤原岳について「季節を変えてそれぞれの花の盛りに何べんもまた来たい」と書き残していたことも浮かび、登行欲がよみがえった。空腹と疲れが意欲をそいでいたのかも知れない。

避難小屋周辺は準平原のササ原で、指呼の間に丸い山頂が見えていた。ササをかき分けて進む地勢で、地肌には福寿草などの花は小さい生えておらず、一部ぬかるみにあった道をたどると、ひょっこり頂に出た。

急激に切れ落ちた北面から風が絶え間なく吹き上げてきて、とても寒かった。遮るものはなく、周りの山々はよく見え



天狗岳周辺の福寿草の群落

て着替えをしようとしたとき、無事ではなかったことを知った。4万円余りの現金・種々のカード・免許証などを入れた財布を黒いフリースごと山頂部に忘れてきていたのだ。一瞬、体はこわ張ったが、逆に気持ちには冷静だった。信じられないが「仕方がない。もう遅い」と他人ごとのように思ってしまったのだ。10キロ余り離れているが、最も近い員弁署にとりあえず連絡を入れ、万が一、届いたら携帯電話に連絡してもらおうようお願いした。

念のため聖宝寺口からもう一度、登り

た。伊吹山は霞で隠れていたが、気にはならなかった。それ以上に木地師の里・茶屋川上流の雑木林が僕の胸を締めつけた。四国にもある滋味あふれたやぶ山とよく似ていた。ひと気はなく、落ち葉と土と見分けがつかない茶色の樹々に包まれた、静かで深い名峰たちだった。

南に「治田峠へ」と書いた標識があり、尾根をのぞくと明瞭な道はなく、つい足が出てしまふような魅力があった。尾根の先で次々に頭をもたげている山々は、どうみても僕を招いているようにしか見えなかった。

せつかくだから天狗岩にも立ち寄りことにした。山頂と正反対の尾根は、ササの密度が薄く、一面、福寿草の園をつくっていた。メインの登山路から枝分かれしているためか、道は細く人も極端に少なかった。しかもほとんどの人が天狗岩まで行かずに引き返している。福寿草の規模は中腹に匹敵して圧巻だった。後半、バイカウツギの林が続いた。バイカウツギは故郷、徳島の剣山にも多く、初夏に白い花を咲かせる。看板が白瀬峠方面では山崩れのため通行不可能と知らせていた。その峠へ向かう分岐点を過ぎ、避難

小屋から約20分も歩いたところ、ゴツゴツとした岩の真ん中に来た。立て札に天狗岩と記されていた。

天狗岩とは、突き出した岩を天狗の鼻に見立てて付けられた名前だろうか。岩の先まで慎重にくだって行くと、予期せぬ大展望が待っていてくれた。特に驚いたのは藤原岳山頂の容姿だった。避難小屋から見た穏やかさとは異なり、端正な三角形に見えて、いかにも凛々しい。ほんのわずかに眺める角度を変えただけでこれほど表情を変える山も少ないのではないか。悪く言えば「ジキルとハイド」だが、1100メートルの低山としては値打ちがありすぎる。

藤原岳は、「福寿草にしても展望にしても、天狗岩を省いてしまうとエッセンスに触れられない」と確信した。下りは八合目から大貝戸へのルートをとった。道幅は聖宝寺ルートより広がったが、人工林が続く、もう楽しみは尽きたのかと諦めかけたころ、山桜やクロモジなどの自然林が現れ出した。不思議なことにくるほど自然林が増えるようだった。

12時30分、無事下山。車のドアを開け

直そうと覚悟し、車から降りたまさにそのときだった。「ピピッ、ピピッ」とベルが鳴った。「財布がみつかりましたよ。ほんの10数分前、受話器越しにやりとりした若い警官の声だった。

藤原岳の花畑が保護されているのは、心優しい登山者のおかげだろう、と思えた。もし、拾った財布を届けられぬような人ばかりなら、これほど花は美しく残らないだろう。花があるということ、登山者の倫理感が優れているということなのだ。登山中、行き交った300人、500人の老若男女が全員等しく聖人だったと、感謝せずにはおられなかった。財布を拾ってくれたのは名古屋からきた男性だった。

員弁署から関ヶ原インターへ向かう途中、「ジキルとハイド」に例えたことを思い出し、藤原岳が怒ったか、と苦笑いした。ともかくひと安心していると、左手の白い断崖の山が視界に入った。石灰岩を削り採っていることは直感できたが、藤原岳の半身だとすぐには気づけなかった。

「ああ、むごい」
こんな顔も持っていたのか。藤原岳は

私達におまかせ下さい。待っています！



●詳しくはホームページを見て下さいネ。

登山用品専門店
山とスキーのヨシメ

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL 06 (6772) 7231



<http://www.di.dion.ne.jp/~hyoshimi>

JR天王寺駅北出口
より東へ強歩5分

天狗岩で感動した僕に、もっともっと別の一面があることを知らせたかったのだろうか。すぐ解決するような「忘れ物騒動」を仕組み、汚点を自ら包み隠さず正直に見せてくれたのだと思えた。

計画通りなら、聖雲寺の登山口からまっすぐ関ヶ原へUターンするのだから、帰り道の反対側にある痛々しい藤原岳の表情には出会えないはずだった。

2000年5月、台高山地の明神平から池小屋山を往復した帰り、ふもとの温泉で腕時計を落として大騒ぎしたこともあり、2年経って忘れられぬ思い出ができてしまった。

もちろん、財布が出てきたことで気分をよくし、高遠城跡の桜・根尾の淡墨桜とも非常にいい出会いだったことは言うまでもない。(平成13年4月14日歩く)

▲コースタイム▼

聖宝寺登山口(1時間30分)八合目(40分)藤原山荘(20分)藤原岳展望台(15分)藤原山荘(20分)天狗岩(20分)藤原山荘(30分)八合目(1時間10分)大貝戸

△地形図V2万5千II竜ヶ岳・蓑立

新ハイ関西63号

標高△△63mの山

金ヶ岳 (1763m)・山梨
 雨飾山 (1963m)・信越
 忠別岳 (1963m)・大雪
 早川尾根の頭 (2463m)・南アルプス

金ヶ岳

日だまりの山頂だった。明野村や葦崎市の穴山方面の山村風景を見下ろす、のどかな里山的景観。その上には逆光気味の甲斐駒ヶ岳から鳳凰山塊、そしてその奥に白く光る北岳、右へ目を転じれば葉を落とした林のなかに日を浴びた八ヶ岳が見え隠れしていた。

あの高い山々は厳しい寒さのなかにあるのかも知れないが、とてもそんなことが実感できないこの山頂は暖かさ、なごやかさに満ちていた。年の瀬もおしまった日だが、きょうは日曜日、10人以上の

人が山頂で憩っている。このあともっとたくさんの人たちになるのだろう。まだ11時なのだから。

私はすぐ隣の茅ヶ岳の山頂に泊まって、ここへ一番乗りでやってきた。ちょっとはずれた所で南アルプスの絵を描いているうちに、小広い山頂は賑わっていたのだ。

茅ヶ岳の山頂は夕方にも夜も朝もずっと快晴で、甲府盆地の夜景に大空の星のきらめきがとても美しかったが、夕闇迫る頃、北方の麓から聞こえる獣のうめき声が耳にずっと残って気分がすぐれなかつた。鉄砲のあの乾いた音を聞くだけでも憂鬱になるものだが、苦しんでいる声

闇の中からいつまでも聞こえてきて、落ち着けなかった。

でも、この日だまりの山頂で半日近く過ごせたおかげで、幸せな気分を取り戻すことができた。

(平成9年12月28日歩く)

△コースタイム▽

大明神登山口(3時間30分)茅ヶ岳(40分)金ヶ岳(5時間)浄居寺バス停

△地形図▽2万5千Ⅱ茅ヶ岳・若神子

雨飾山

人の多い山だった。でもそれで美しさが損なわれることはなかった。途中に荒菅沢を渡る所がある。そのあたりの紅葉が見事だった。快晴の深い青色と白くて滑らかな曲面のフトンピシの岩壁との対比、岩壁を彩る紅葉、清らかな沢の流れが岩にくだけて間断なくはじける光など輝かしい美景だった。加えてフトンピシの岩峰の左上には残月まであって、華を添えていた。

樹林帯の急登のあと、広い山頂一帯のササ原への変化、これも雨飾山の魅力のひとつだろう。

小広い山頂は多くの登山者でひしめき合っていたが、私も単独ではなくて、4人の会山行だったから、賑やかな山頂も



岩菅沢へおりの乗越より雨飾山(本峰は右奥)

また楽しい気分だった。

(平成5年10月9日歩く)

△コースタイム▽

鎌池駐車場(2時間)荒菅沢(1時間50分)雨飾山(2時間10分)鎌池駐車場

△地図▽昭文社Ⅱ「妙高・戸隠」

忠別岳

高山植物の女王といわれるコマクサ。私は南アルプスに行くことが多かったのですが、それまでまだコマクサを見ていなかったが、多くの写真に登場するから、見たような錯覚に陥っていたふしもあった。ただ写真を見る限り、女王と呼ばれるほどのものでもないように思っていた。

しかし、それは大きな間違이었다。忠別岳の北にあるスレート平の砂礫地一面に点々と、まさに点々とコマクサが咲いていた。気品があった。濃いピンク色は絵具に置き換えると卑俗になりがちなのに、高貴な美しさがあつた。写真を撮ってみたが、とてもその気品は表現できなかった。

(平成5年8月4日〜8日歩く)

△コースタイム▽

早川尾根の頭

早川尾根の頭は三度登っている、というよりも三度通過しているというほうが正しい。早川尾根は仙水峠から白鳳峠あたりの間を指しているが、その中程の樹林帯の高まりにすぎない。

早川尾根の頭から南へくだった所に早川尾根小屋がある。旧の小屋、今の小屋に比べ6泊したが、素朴な風情は今も変わらない。最初の1979年の2泊目の朝に、屋根の上に登らせてもらって朝日の北岳の絵を描いた。ここからの北岳の姿は実によかった。小太郎尾根の迫り上がる形、吊尾根の張り出し方、パットレスの横からの表情、両側への尾根のたわみ具合、風爽としていて高潔だった。そして実に堂々とした重量感があった。

△地図▽昭文社Ⅱ「甲斐駒ヶ岳・北岳」

新ハイ例会・自然観察山行

夏焼山・兀岳・南木曾岳

木曾

鷺見守康

南木曾岳は、御嶽・木曾駒ヶ岳とともに木曾三岳に数えられている。標高は1677mと必ずしも高くはないが、日本山岳会の三百名山に選定されるなど、けっこう人気のある山だ。人気の秘密は、おそらく頂上部の山岳景観にあるのだろう。青空のもとで歩けば、すがすがしくてどこか牧歌的な風景が永く脳裏に残る。

新ハイの例会でも1996年の11月、日帰りマイカー山行として実施したが、2001年の春、再び例会山行として計画した。関西からの参加を考えれば日帰りは困難なので、1泊2日の山旅とする。南木曾岳は十分時間のとれる2日目にすると、1日目の山をどこにするか。

いろいろ思案しているとき、新ハイ誌54号で松田敏男氏の夏焼山と兀岳の紀行文に接した。

兀岳は、ガイドブック等の情報では道のないやぶ山とのことであり、ずっと未登のままであった。自然観察山行にやぶ山は不向きだから、新ハイ例会山行の山として取り上げることもなかった。だが、紀行文を読めばササは切り開かれているらしい。「されば……」ということ、初日を夏焼山と兀岳にしたのである。

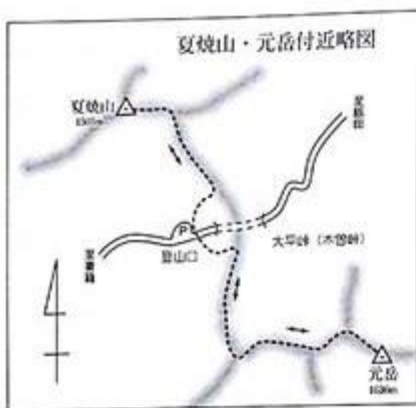
夏焼山と兀岳

中央道を中津川インターで降り、国道19号線を北上。長野県南木曾町妻籠から

昼食は見晴らしのいい夏焼山山頂でとることとし、さっそく歩き出す。

峠からすぐブナ林だ。一帯は「太平洋県民の森」となっている。道はよく整備され、まさしく遊歩道である。繁茂しているササはシナノザサ(クマイザサ)だろうか。

ちょうど正午に山頂着。あすの南木曾岳、そして中央アルプスの摺古木山から安平路山が間近だ。昼食休憩はゆっくりとって1時間。アルコールはとんと弱く、ふだんの生活のなかでは晩酌もしないのに、山では必ずビールなどを呑む。



プロムナード気分で大平峠に戻り、今度は道を隔てて反対側の山に入る。沢に沿って登り、やがてササの山腹となる。踏み跡はあるものの汚れたササがおおい、埃のなかのやぶ漕ぎ状態となる。休憩できそうな小広場があり、そこから少し登ると唐突に直角に折れて少しくだる。そして、まもなく完全な切り開きの道となる。嘩然とするほどだ。前方には樹々の間から山頂方面が望まれ、多少南方面の視界が開ける所がある。そこから先月歩いた梨子野山の稜線が見えた。

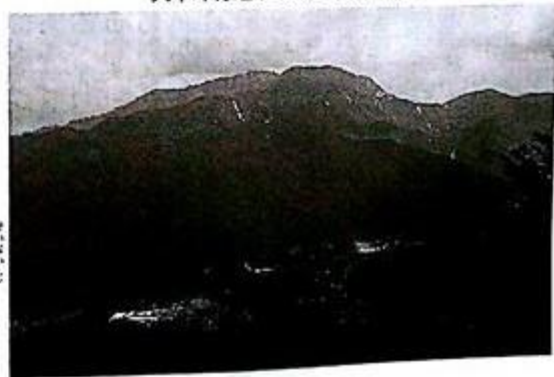
およそ1時間ほどで兀岳山頂に到着。見晴らしも平平凡凡な山だ。夏焼山も兀岳も花には縁の薄い山であった。

南木曾岳

メイン山行の当日、天気予報は芳しくなかった。妻籠宿から再び国道256号線を東へ。南木曾岳登山口の大きな案内板を左折し、園地区に入る。「園」とは情趣を感じさせる名だが、樹木のイチイの別名である。また、野草のノビルの名でもあるようだ。

バスはキャンプ場を抜けてさらに林道を進み、ほぼ突き当たりとなって駐車ス

大平峠付近から望む南木曾岳



国道256号線に入って清内路峠へ向かい、やがて大平峠への案内標識を見て県道8号線へと分岐する。途中に一軒の茶店があり、左手の視界が大きく開けて南木曾岳が姿を現した。

大平峠に到着したのは午前11時半を回っていた。トンネルの手前には休憩所や水場、トイレの設けられたレストエリアがあるが、夏焼山へは20分ほどで登れる。

ベースの広場をもつ避難小屋の前に出た。すでに乗用車が数台駐車していた。県外ナンバーの車で昨夜から仮眠していたようだ。

身支度をして出発。自然探索園広場の看板があり、樹林のなかに遊歩道が設置されているが、すぐ林道に出た。道沿いには、キブシやシロモジ・コウヤミズキ(ミヤマトサミズキ)の小さな花が咲いている。

キブシやシロモジは美濃の山では普通に見かけるが、コウヤミズキはめずらしいほうだ。マンサクと同じマンサク科であっても花形はかなり異質である。これらの樹木の花は早春の花だ。暦の上では春爛漫だが、このあたりの季節はまだ春浅い。

道沿いの斜面の上部にはイワウチワが咲いている。日本海型野草であるイワウチワが内陸の木曾山中にあるというのは意外だった。

30分ほどで登山口に到着し、ここから樹林に入る。まもなく分岐点となり「左 登山道 右 下山道」という指導標がある。指導標にしたがって左へ進み、金明水という水場にいたる。

南木曾岳も野草類には乏しい。道沿いにイワカガミの葉が見られたほかにはバヤオウレンが咲いていた程度である。ただ、バヤオウレンの花は多く、ほとんど山麓から頂上付近まで続いていた。今回の自然観察のテーマは「木曾五木」。木曾五木とは、木曾の山中に自生し、江戸時代、尾張藩によって有用材として保護された針葉樹たちである。ヒノキ科のヒノキ・サワラ・アスナロ・クロベとスギ科（最近ではコウヤマキ科に独立）のコウヤマキをいう。

ヒノキ科のヒノキとサワラ、そしてクロベは葉形・木肌ともに大変よく似ており、慣れないと区別がむづかしい。私は



ヒノキ科三兄弟と呼んで説明する。サワラとアスナロは沢筋に多く、ヒノキは尾根筋に多い。クロベは木曾地方ではネズコとも言い、亜高山帯に暮らしている。アスナロは「明日はヒノキになろう」という言葉が名の由来として知られているが、実物を見たことのある人は決して多くない。やはり葉形も木肌もヒノキに似ているが、明らかに葉は大きく、裏側は気孔の白さが目立つから、他の三種との区別は容易である。コウヤマキの木肌はスギそのものと見えるが、特徴のある葉形からコウヤマキとすぐわかる。実は、南木曾岳はコウヤマキの原生林で有名なのである。

水場を過ぎ、ジグザグの急登を息を切らせて進むと、あたりの雰囲気独特な感じとなり、見上げるとコウヤマキの原木が並んでいる。大変見事な景観である。息を整えるために立ち止まって振り返れば背後には恵那山が見え、登るにつれて次第に迫り上がってくる。

私は思っている。白山、御嶽、乗鞍連峰、焼岳、穂高連峰の西穂・奥穂・前穂、さらに中央アルプス、南アルプス南部の荒川三山・聖岳・光岳と、わが国の主要な山岳が目白押しである。とりわけ中央アルプスは見事であり、これほど間近でかつ、全てのピークが列をなしている光景はなかなか見られるものではない。御嶽と乗鞍連峰の位置関係は、御嶽が乗鞍連峰より西となり、ふだん美濃地方から遠望する構図とは逆になっている。

心配した天候もなんとかもちそうだし、高曇りのような状態で、見晴らしは晴天時よりむしろ優れているようだ。南木曾岳に登ったら、この頂上部の自然庭園の風景と山岳展望とをぜひ味わってもらいたいと願っていただけに、きょうの天気には心底から感謝したい。

時刻は9時前。時間はたっぷりあるので、大休止のティータムとする。アルコールを口にしたり、お茶を飲んだり、おやつを食べたり、写真を撮影したり、山座同定に努めたりと、メンバーの皆さんは思い思いの時を過ごす。山で天気に恵まれ、澄んだ空気の下でくつろげるのは本当に幸せなことだ。

40分ほど休憩し再出発。ササの草原をさらに進む。出発しすぐクロベの低木を発見。やはり標高1500m以上の亜高山帯に入らないとクロベには出会えない。高木は見られないものの、ともに木曾五木の全ての樹木たちに出会えたのだ。

イモック山遊くらぶ

2月17日(日)
湖北 伊吹山(1377m)
真冬の大雪原を登ります。
詳細はお問い合わせ下さい。

イモック山 山で下ろす!

IMOCK. KOBE

〒653-0229 神戸市長田区白谷町3丁目1番30号
カフノビル2F
TEL (078) 621-5851
FAX (078) 621-3528
■営業時間/10:00~20:00 ■定休日/日曜日

オリジナルザック & 登山用品専門店

神戸ザック

http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac

◆ピークハンター◆

1~2泊ハイキング、トレッキングに最適。耐久性にすぐれた、ナイロン高密度織を使用。軽量、強度を増し、デタッチャブルの様なフロントポケットは、サブザックにもなり頂上往復に大変便利です。

◆カラー◆
フインレッド×モノクロ
ネイビー×モノクロ

◆容量◆ 35L
◆重量◆ 1750g
◆素材◆ 高密度ナイロン
◆価格◆ ¥15,500

の葉がびっしりと地面をおおっている。傾斜がゆるみ、まもなく山頂に着いた。樹木に囲まれたところがない所だ。山頂だというのに、リーダーが休憩をとる素振りも見せない。後に続くメンバーはとまどったようだ。「写真を撮る人は撮って、先に進みます」と告げて、私はサッサと行く。この山頂は、名目上のものだと私は考えている。

すぐ「南木曾嶽山大神」がまつられた大岩があり、反対側の巨岩は木製梯子がつけられた見晴台となっている。この巨岩の下は絶壁で、落ちれば生命はないが、木曾谷を隔てて御嶽の威容がすばらしい。歌声をあげて大騒ぎのメンバーを私はさらに先へと促す。残雪がササを倒し、地面は雪解け水でぬかるんで歩きにくい。けれど、南木曾岳の真髄はこの先にあるのだ。

やがて、シナノザサの草原に、白い花崗岩の大岩と立枯れの木が点在した天然の大庭園が広がった。その庭園のなかには遊離小屋も設置され、さらに近くには小広場がある。

この小広場からの展望は、木曾の山々の中でも群を抜いているのではないかと

岩谷集落跡からの最短ルート

上谷山

金谷 昭

湖北

湖北の上谷山は江越国境の盟主として君臨し、東西に江越・越美の两国境尾根を従えている。その姿は王者の貫禄にふさわしく、特に積雪期の純白のその山容は登頂意欲をいやがうえにもかりたてるものがある。

ただ、登山道といえるものはない。無雪期は名にしおう激しいやぶのため、湖北の山の中でも登りにくい山とされ、快適な登山はやはり残雪期に限られる。

上谷山には過去二回挑戦し、いずれも途中敗退の苦杯をなめ、以来、宿願となっていた。最初は大阪の岳友M氏と2月末、北麓の広野より長い尾根をたどった。山頂近くに達しながら、目撃物のない大雪

原で悪天候と時間切れで引き返した。二回目は近江側より、やはり彼と挑戦した。早春であったが、雪の多い林道歩きに時間をとられ、やむなく途中で引き返さざるをえなかった。

登頂のチャンスは、できるだけ奥までアプローチの林道に車を乗り入れ、そしてルートオブッシュが隠れる程度の残雪の状態がよいときに限られる。

湖北の山々の山行を岳友I氏と約束し、土蔵岳を楽しむにしていたが、彼が急用で延期せざるをえなかった。しかし、その週末の天気予報は快晴とのこと。彼には出し抜いたことになり申しわけないが、

早朝、名神・北陸道を利用し、今庄インターから広野ダムに向かう。さすがに雪深い越前地方、付近の田畑にも雪が残っている。広野ダムまではダムの管理上、予想通り除雪されていた。問題はダムより奥の岩谷林道のどこまで車が入るかであり、入って行くと、何と林道両側にはブルドーザーの除雪による雪の壁ができ、舗装区間は完全に路面が出ていた。万一、除雪されていなければ、広野ダムの休憩トイレの所より目の長い尾根に取りつく覚悟であったが、幸い除雪の

終点は「岩谷山荘」から約300m下流



の所であった。なお、トイレの所には尾張小牧ナンバーの車が止まっていた。後でわかったが、この車は早朝にトイレ前の尾根をたどって、山頂で出会ったナンバーのものであった。

また、除雪終点には大阪ナンバーの車が一台止まっていた。帰途出会ったこの車の持ち主のパーティは三周ヶ岳を目指したが雪が深く、夜叉ヶ池でも登れなかったとのことであった。

登山準備の際、ワカンを持っていくかどうかで迷った。ワカン歩行はけっこう歩きづらく、数日前の雨と、その後の低

永年の宿願と同じ湖北の上谷山に、単独で登ることにした。

先年の春、奥美濃の黒壁山(高丸)に登り、夜叉ヶ池からの帰りに、上谷山の登頂ルートを調べておいた。広野ダムからの岩谷林道の途中にある旧岩谷村(現「岩谷山荘」)の対岸にのびている尾根が、急登であるものの最短ルートだと思われた。

上谷山山頂



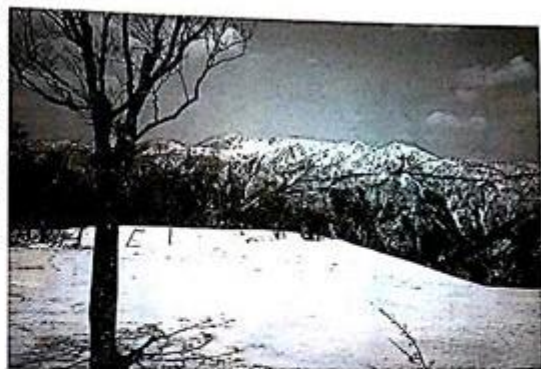
温のため雪が硬く締まっていると考え、壺足で行くことにした。結果は雪が適度に締まっていた正解であった。

「岩谷山荘」の対岸の、まだ一面雪の駐車場の山寄りの古びた階段を、かぶさる木をくぐり抜けて尾根に取りつく。尾根というより急な山腹の斜面で雪はない。杉の巨木が多く、その下生えは雪のため完全に谷間に覆っている。はなはだ登りづらい。右の方は浅い谷となつて雪が残り、ブッシュが隠れている。急傾斜でスリッパしそうなので、そのままやぶのなかに突進。枝をつかみながら登って行く。

しばらく行くとシナノキの巨木が二本出てきたあたりから椿のやぶとなった。北陸沿岸には暖かい黒潮が流れているためだろうか。

急な登りは変わらないが、椿のやぶを抜けると少しやぶが薄くなってきた。

登り始めて30分、上方に支尾根の稜線が見えてきた。稜線に達すれば踏み跡でもあろうかと期待したが、登り着いた稜線には人の歩いた形跡はない。雑木の二次林で、稜線の向こう側の斜面は小さな



岩谷支尾根とのジャンクションピーク

谷に急激に落ちていく。

ここで木にテープを巻く。帰途、ここを通り越して、そのまま尾根をたどってくだると岩谷川に降りられるだろうが、そこは林道が対岸にあり、徒渉を余儀なくされることになる。

この稜線を少し登ると雪が出てくる。傾斜が少しゆるやかとなり、雑木の二次林から徐々にブナを混えた原生林の様相

を呈してきた。

右上方には手倉山の頂上付近が仰がれる。今まで登りにはかり気をとられ、前方しか見ていなかったが、多少ゆるやかになってきて心に余裕が出てきた。振り返ると美濃俣丸であろうか、純白の双耳峰が光り輝いている。早速、カメラのシャッターを押す。

さらに登って行くと、ブッシュは完全に雪の下で、ブナの巨木の疎林となった。周囲の山々の見通しもきき、天気は快晴。単独行の不安もふっ飛び、ルンルン気分。これだから雪山登山はやめられない。

さらに登るにつれ、尾根の斜面は広くゆるやかになった。立木も少なくなり、山スキーに最適な斜面となってきた。この光景を同行できなかった1氏に話せば、山スキー大好き人間だけに悔しがること請け合いだろう。

手倉山との稜線に出ると、そこは高木の少ないゆるやかな大雪原となっている。ブナであろうか、老朽した巨木があり、掃路でのよい目標となった。

この雪原を少し行くと、何と真新しいトレースが手倉山から山頂に向かって付けられている。きょうは私一人で金山貸

し切りと想っていたが先客がいたのだ。見通しがよいので、山頂方向をよく見ると3人ほどの登山者がうごめいている。仲間がいてひと安心。雪は深いものもぐることなくどこでも歩けるが、彼らのトレースを利用していただく。

1069m峰を登り、いったんくだる。そこは二重山稜の広大な雪原で、その中央は窪地となっている。おそらく無雪期には池沼かめた場となるのであろう。登り返した尾根はやせてきた。西側はゆるやかな斜面でブナの疎林となっているが、東面は大きな雪庇ができ、急激に岩谷川に落ちている。

三國岳からの尾根とのジャンクションピークに達すると、先行パーティが頂上をピストン後の昼食中であつた。女性1人を含む3人のパーティで、やはり、午前7時に広野ダムのトイレの前の尾根に取りつき、5時間かかって登頂し……、これから三國岳を経て三周ヶ岳に縦走する。今夜は夜叉ヶ池に幕営するとのことであつた。リーダーと覚しき人は40歳代の男性。あとの2人は20歳代だろうと思われる若い男女であつた。

中高年の登山者が大半を占め、若い人

至福のひとつを過ごした。

帰りは、日が傾き始め気温が下がってきたためか、腐りかけていた雪が締まっている。長年の宿願を果たせた心地好さも手伝って、雪上の歩行は快調であつた。支尾根から最後のブッシュ帯に入る所は間違えぬよう、目を皿にして登りのときの風景を思い出しつつ、慎重にルートを追った。

無事、「岩谷山荘」の駐車場に降り立つことができた。単独行の緊張が一度にふっ切れてどっと疲れが出た。

雪の中で冷やしておいた缶ビール(ノルコール)を、きょうのすばらしい山行と岳人たちとの出会いを思い出しつつ、一気に飲み干した。

(平成13年4月7日歩く)

△コースタイム▽

「岩谷山荘」駐車場(2時間15分) 1069m峰(45分) ジャンクションピーク(15分) 上谷山(2時間15分) 「岩谷山荘」駐車場

△地形図▽2万5千1広野・板取
*道標・テープなし。上級者向き



上谷山より三國岳(左)と左千方(右)

頂上は360度の大展望。冬の眠りから覚めつつある越後国境の山々の一大パノラマが展開している。右方(西)遠くには伊吹山、左方(東)遠くには能登白山であろうか。さらに東北に目を転ずれば、部子山、銀杏峰の白い巨体が望めた。

の影の薄い最近の登山界では、ちょっとめずらしい。この若い2人をよく見ると、彼らの眼は生き生きと輝き、実によい顔をしている。驚き覚悟の詰まった重いリュックを背負って全力投球をしているせいだろうか。街で見かける無気力な眼をし、その行いにひんしゅくを買う若者が多いなか、何ともすばらしくて頼もしい。こちらも何だか嬉しくなってきた。「男は中高年になったら、自分の顔に責任を持って」というが、果たして自分は登山中どんな顔をしているのだろうか。

初対面であつたが、山談義の楽しいひとときを過ごし、お互いの健闘を祈りつつ彼等と別れ、頂上に向かった。ジャン

クションピークよりいったんくだって、登り返したピークのさらに奥のピークが上谷山(1196.7m)の頂上であつた。頂上はほとんど木のない大雪原で、お目当ての2等三角点の標石は雪の下。わずかに雪の上に出ている灌木に山名板が一枚付けられているだけ。過去二回とも登頂が果たせなかつた岳友M氏は、いつも山頂で三角点標石に、好きなウイスキーを注いで2人で乾杯するのを思い出した。その彼とあつたとき悪天候下、登頂を強行していたら、目標物がなくリングワンデリングで遭難の憂き目になっていたかもしれない。途中で引き返したのは正解であつたとつくづく感じた。

旗振り通信の研究 ⑦

連載
三田ルート

柴田昭彦

【神戸・姫路・岡山方面ルート】の資料】
★「旗振信号の沿革及仕方」(明治42年、『明治大正大阪市史第七巻』所収)に「大阪(二里) 尼崎(四里) 御影(五里) 須磨(六里) 金崎(四里) 宝田(三里) 姫路」とある。

★明治初めごろ、神戸への通信ルートが作られ、明治10年ごろに使われたルートは、「海老江(福島区)、天保山(港区)、尼崎、御影、神戸」である。また、姫路ルートもあり、「大阪、尼崎、御影、兵庫、須磨、金崎、宝田、姫路」である(近藤論文)。

★読売新聞大阪本社社会部「おおさかタイムトネル 浪速写真館」(明興社、昭和45年)には「堂島―尼崎―(六甲山南

和60年)には、「天保山―尼崎―西宮―六甲―須磨―明石―姫路」とある。

★篠崎昌美「浪華夜ばなし」(昭和29年)と松永定「北浜盛衰記」(昭和34年)には、「大阪―神島―尼崎―西宮―灘―兵庫―須磨―金崎―宝田―姫路」となっている。

★岡長平「岡山太平記」(宗教文庫、昭和5年)には、「堂島―尼崎―兵庫―須磨―黒金―龍野―赤穂―寒河―熊山―岡山橋本町 以上十ヶ所で、受次をやつた」とある。黒金がどこなのか不明である。

★渡辺久雄「忘れられた日本史」(創元社、昭和45年)には「堂島―尼崎―(六甲山南

所)の刊行物は、神戸市総合インフォメーションセンター(三宮駅南側交差点南西角、毎日9時〜19時開館)で入手可能である。

★「史跡と坂のまち 神戸散歩」(神戸市、昭和53年)の「旗振り山」の項目には「大阪・尼崎・武庫川堤・東灘・錠山・須磨などに、その中継地があった」とある。

★兵庫探検総集編「旗振り山」(昭和55年5月27日付、神戸新聞)には、中継所は「堂島、尼崎、武庫川堤、金鳥山、諏訪山、高取山、須磨旗振り山、明石和坂、国包、

さんしょう山(左)、羽東山(中央)、甚五郎山(右)



東)の旗振り場―錠山―高取山―旗振り山―国包―龍野―赤穂―寒河―熊山―岡山」という手旗信号コースが地図に示してある。

★岡長平氏が「黒金」と記している地点を、渡辺氏は加古川市「国包」としているが、根拠が明らかでない。金ヶ崎神社は、もと黒岩神社と呼ばれたという(川口陽之「赤石のくに」みるめ書房、昭和49年)。

黒岩・金ヶ崎と黒金は何か関係があるのだろうか。

★田辺眞人「東灘の史跡と木かげ」(東灘区役所、昭和50年)の「旗振り山」の項目には「大阪・尼崎・武庫川堤・東灘・錠山・須磨などに、その中継地があった」とある。錠山は、錠山(錠山)が正しい。

★その改訂版、田辺眞人「東灘歴史散歩」(初版、昭和55年。新版、平成4年)では、「東灘」が「金鳥山」に修正されている。

★その最新版である「東灘歴史散歩」

山と高原地図シリーズ

定価 各750円(税込)

- | | |
|------------------|-------------------|
| • 1 利尻・白・斜里・阿寒 | • 35 白馬岳 |
| • 2 ニセコ・羊蹄山 | • 36 鹿島崎・黒部湖 |
| • 3 大雪山・十勝岳・城成岳 | • 37 磐立山 |
| • 4 十和田湖 八甲田 奥山 | • 38 上高地・穂・穂高 |
| • 5 八幡平 奥平山 奥山 | • 39 奥穂高岳 |
| • 6 奥駒・早池輪 | • 40 御坂山 |
| • 7 蔵王 奥山 奥山 | • 41 中央・南アルプス総図 |
| • 8 奥羽山 | • 42 木曾駒・空木岳 |
| • 9 朝日・出羽三山 | • 43 甲斐駒・北岳 |
| • 10 碓氷山 | • 44 塩見・赤石・聖岳 |
| • 11 磐梯・吾妻・安達太良 | • 45 白山 |
| • 12 妙高・塩原 | • 46 富士・伊吹・御坂 |
| • 13 日光 奥山 奥山 | • 47 御在所・鎌ヶ岳 |
| • 14 尾瀬 | • 48 比良山系 |
| • 15 越後三山 奥山 奥山 | • 49 京都北山 1 |
| • 16 谷川岳 奥山 奥山 | • 50 京都北山 2 |
| • 17 志賀高原 草津 | • 51 京都西山 |
| • 18 妙高・戸隠 | • 52 北阿の山々 |
| • 19 軽井沢・浅間 | • 53 六甲・摩耶・有馬 |
| • 20 赤城・雲海・筑波 | • 54 恵城高原・二上山 |
| • 21 西上州・妙義 | • 55 金剛山・岩湧山 |
| • 22 奥武蔵・秩父 | • 56 紀伊高原 |
| • 23 奥多摩 | • 57 大峰山脈 |
| • 24 大菩薩連嶺 | • 58 大台ヶ原 大台ヶ原・奥山 |
| • 25 奥秩父 1 奥山 奥山 | • 59 赤目・御嶽等高原 |
| • 26 奥秩父 2 奥山 奥山 | • 60 氷ノ山 奥山 奥山 |
| • 27 高尾・陣馬 | • 61 大山・蒜山高原 |
| • 28 丹沢 | • 62 阿蘇駒山 |
| • 29 箱根 | • 63 石鐘山 |
| • 30 伊豆 | • 64 福岡の山々 |
| • 31 富士・富士五湖 | • 65 阿蘇・九重 |
| • 32 八ヶ岳・群峰 | • 66 祖母・樺 |
| • 33 美ヶ原・霧ヶ峰 | • 67 屋久島 奥山 |
| • 34 北アルプス総図 | • 68 霧島・阿蘇岳 |

(★印は新仕様の地図です)

●昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春発行します。ご山行の際はなるべく最新版をご使用下さいませようお願いします。
●2000年度版は「大雪山」「甲斐駒・北岳」「塩見・赤石・聖岳」「阿蘇・九重」を全面改良し、新刊として「霧島・阿蘇岳」を刊行しました。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区麹町3-1
電話03(3556)8111(代) 千102-8238
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23
電話06(6303)5721(代) 千532-0011

(インターネットで情報発信中)
http://www.maple.co.jp/

通信の経路を实地に当たって調査して
れる人はいないものか」と記されてい
る。

★芦屋旗振場というのは、落合氏の誤解
のようである。実際、『神戸の史跡』の
旗振山の項目に掲載されている「芦屋旗
振場」は、田辺眞人氏により、「金鳥山
北の旗振り場」に訂正されている（『歴史
と神戸』第20巻第5号、昭和56年10月）。

★落合重信氏による「旗振山」（『日本地
名ルーツ辞典』創拓社、1992年）には
「堂島―尼崎辰巳橋―武庫川堤―金鳥山
―殿山―高取山―須磨旗振山―国包―龍
野―赤穂―寒河―熊山―岡山」とあり、
これが落合氏の岡山ルートの最終結論と
思われる。

★田中眞吾編著『六甲山の地理』（神戸新
聞出版センター、1988年）の209頁
には「武庫川の堤からは六甲山地の南に
派出する見晴らしのよい尾根の突端に旗
振り場を設け、ごろごろ岳（西宮）↓旗
振り合（東灘・北摂）↓東山（旧葦合・中
尾）↓諏訪山（旧生田・中宮）↓旗振山
（須磨）から明石を経て岡山まで伸びてい
た」とあり、兵庫女子短期大学講師（当
時）、小林茂氏の執筆である。



さんしょう山の山頂からの展望
（左が大船山、中央に三角形の高畑山が見える）



いる。（歴史教育7の一）小林茂「都市近郊
農村の場合」とある。

★西村忠致『北摂 続 羽東の郷土史誌』
（六甲タイムズ社、0795-621-2353、
平成12年）の「米相場と旗振り山」には、
次のような注目すべき記述があり、「堂
嶋ノ旗振り」（『大阪商業史資料』第二十巻、
大阪商工会議所編集・発行、昭和39年）も転
載されている。

「大阪ノ尼崎ノ武庫川堤ノ剣山ノ北畑
（東灘区）ノ諏訪山ノ須磨旗振り山ノ加古
川方面へと続いていたと言います。

さて、北摂・羽東地方の手旗信号によ
る中継順は、次の一、二、三の三つの山
頂でした。三の次は多紀連山へ向かい、

★角川日本地名大辞典『兵庫県』（昭和63
年）の「旗振山」には「旗振り場は大阪・

尼崎・武庫川堤・剣山（雷岳）・北畑・
中尾東山・諏訪山を経て旗振山に至り、
明石の旗山・神出旗振山へ続いた」とあ
る。田中眞吾氏に問い合せたところ、
大辞典の「旗振山」と「金鳥山」の項目
は小林茂先生（故人）の執筆という。こ
ろごろ岳（565・3尺、もとの呼称は剣谷
山）と中尾東山の旗振りについては他の
文献に見られず、伝承も未確認だが、田
中氏は「先生は戦前からの県立中学にお
務めで大変な研究者でしたので、御見解
も先生、独自のものと考えます」とい
う。

【三田方面ルート】

★『通信協会雑誌』大正3年2月号の記
事には、旗振りの行われた場所として、
「尼ヶ崎、伊丹、西ノ宮、灘、御影、神
戸、兵庫、三田、須磨、明石」姫路、
曾根、網干、岡山、倉敷、津山、玉島、
尾之道」とある。他の文献に見られない
通信地点として、伊丹と三田があげられ
る。伊丹への中継地点は不明だが、千里
山から伝達されたものか、北西方面へ伝

達されたかのいずれかであろう。

★落合重信「埋もれた神戸の歴史」（神戸
史学会出版部、昭和52年）に「神戸の奥の
平野街道に旗振山というのがある、とき
いたが、それは三田方面への通信の経路
であろう」とある。これは神出旗振山
（神戸市西区）を指しているが、宝塚を経
由せず、須磨を中継したことになり、遠
回りである。立地は適しておらず、裏付
ける資料も得られていない。

★三田市教育委員会教育総務部生涯学習
振興課の山崎氏によれば、「市中（陣屋
町）において地方相場が立っていた可能
性」があり、「また、確証はありません
が、市域東部の高平地域（旧川辺郡、麻田
藩領）で「旗振り山」なる噂話を耳にし
たことがあります。相場に関するもの
かどうかわかりませんが」とのことであ
った。『三田市史下巻』（昭和40年、499
頁）には「幕府は享保十九年から摂津の
石代直段の決定に大阪の外に、新たに尼
崎、高槻、富田、三田の四ヶ所の米相場
を算入することに決めた。このことはこ
れらの地域に、大阪堂嶋米相場とは銘柄
を別にした所相場が立ち、それが無視出
来ないまでに成長してきたことを示して

大坂から日本海へ抜けるコースの一角を
占めていました。

一、西宮市山口町金仙寺にある畑山（畷
山）。昔・松茸がよく採れた山で標高
五二八メートル。

二、三田市香下にある通称さん志よう山。
別称旗振り山（中略）標高五〇〇メートル。
三、三田市小柿にある通称感応寺山（比
叡山）（中略）北は摂丹境。標高六〇〇
メートル。

「昔の人は視力が三とか四とかの優れた
遠視者がいて、信号手を務めたので
す」。

★『北摂 続 羽東の郷土史誌』の3頁
に、羽東山頂付近土地図があり、羽東山
の北西の500・5尺峰のあたりは「字
さん志よう」であって、山名（さんし
ょう山）のもととなっているようである。
500・5尺峰（三等三角点）には、宰相
ヶ岳（有馬郡誌下巻、昭和4年）と三四郎
山（伊達領誌「季節の道」のじき文庫、昭
和39年）の別称があるが、地元名「さん
しょう山」からの転訛と思われる。こ
の山は高平地域にあり、三田市教委のい
う旗振り山であろう。なお、さん志よう山
の出典の情報は、羽東山についてのホー



羽東山登山口からさんしょう山

ムページ検索で得たものである。宰相ヶ岳については慶佐次盛一氏より教示を得ました。

★「かねちゃんのホームページ」の「初春の羽東山 散歩記」(1998年1月2日)に、香下寺の住職の話として、西の峰を「さんしお山」と呼んでいると紹介されている。これをカネタケ氏は「山椒山」と想像したことであった。「地名用語語源辞典」(東京堂出版)からも、山椒・算所の可能性が考えられるが、安易な推定は慎むべきかも知れない。

●山口町の畑山は三田ルートを考えるうえで、気になっていたが、旗振り場かどうか確認できずにいた山である。「有馬郡誌下巻」の山口村の山岳名に旗山があり(二六〇頁)、畑山のことであろう。堂島との間の中継地は不明だが、畑山からは三田の市場にも送信したものと考えら

れる。中庄谷直「関西周辺 低山ワールドを楽しむ」(ナカニシヤ出版、2001年)に畑山山地が紹介されている。

●さんしょう山は、羽東山の北西にあり、平成13年11月23日に基五郎山(六丁峠の南西、浪土の名前にちなむ山名)と共に、登ってきた。三田駅から東部行きのバスに乗り、香下バス停下車。香下寺を経て、鞍部に達し、左の踏み跡をたどれば、山頂に着く。三角点から北東に高畑山(482m)が富士山型に見えている(「北摂の山々」昭文社)。高畑山は高旗山ではないかと筆者は考えるが、旗振り伝承の裏付けはとれていない。さんしょう山の山頂からは、北側は見えにくいのが、南西方向に展望があり、南に畑山が確認できた。

●感応寺山は、比叢山感応寺の背後にある山で、小柿の北西に、三田市・篠山市境にかけて長く連なる山塊である。最高地点の697.7m峰は点名「天上畑」であり、慶佐次盛一「兵庫丹波の山々」(ナカニシヤ出版、平成4年)によると、山名は三國ヶ嶽、別称は比叢山・感応寺山・峰山となっている。「有馬郡誌上巻」には、比叢山感応寺(四八七頁)とあり、

「比叢山」の表記は正しくないようだ。

ただし、西村氏によると、普通一般には比叢山とは呼んでいないとのことである(平成13年11月6日付返信)。地形図の三等三角点(天上畑、三國ヶ嶽)が旗振り場であろうか。残念なことに、長く連なる山塊なので、実際の旗振り場所は特定できないと西村氏は言う。ここから多紀連山のどこかに送信されたわけである。日本海へ抜けるコースは、筆者の推定では篠山・鞍部(又は福知山)を経て、舞鶴方面であろうかと思う。

★多紀連山の小金ヶ嶽は三嶽・西ヶ嶽と併せて畑山三山と呼ばれ、しかも、その南には畑山という山名がある。ただしこれは、南方に畑という地名があり、畑氏と関連したものかも知れない。三嶽も別名を畑山といい、南方の感応寺山から受信して、北方への伝達が可能であろうが、旗振り伝承は不明である。なお、和歌森太郎「山伏」(公文庫、1964年。復刻版、1999年)の付録「信仰対象の日本の山々」に「畑山」が掲載され、三嶽寺址があり、修験系の山とする。

★西村氏が聞き取りをした古老は殆ど亡くなっており、詳細はもう知ることがで

きなくなっている。西宮市の畑山はどこから受信したのかを考えてみると、六甲山系の東端部(たとえば大平山、681.2m)を中継点として、伊丹か武庫川堤と連絡すれば可能であろうが、裏付ける資料は見えてきていない。

★西村「北摂 羽東の郷土史誌」(平成7年)には「米と価格」の項目があり、明治以降の米価について、守田志郎「米の百年」(御茶の水書房、1966年初版、1984年新装版)からの引用がある。

【大阪府下の旗振り山について】

★吹田千里山中継所が「二本松」であることについては、本誌57号で示した通りである。池田半兵衛「ふるさとの想い出 写真集 明治大正昭和 吹田」(圖書刊行会、昭和60年)に、「二本松の桃林」の写真があり、花見客の絶えない眺望絶佳の名勝として紹介されている。旗振り山にふさわしい地点と言えよう。

★「大阪50山」(大阪府山岳連盟、平成10年)には「石堂ヶ岡と阿武山が「旗振り山」として紹介されている。

★慶佐次盛一「北摂の山(上) 東部編」(ナカニシヤ出版、平成13年4月)には、石

堂ヶ岡と阿武山が旗振り場として紹介されている。天王山と(柳谷西山に該当する)大沢山(向谷山、向井谷山)もあるが、旗振りについての情報はない。地元で向谷と呼ばれるこの山については、本誌57号(平成13年3月)で紹介した直後に、この本でもガイドされたので、偶然とはいえず驚かされた。

★ホームページで検索すると、「石堂ヶ岡」北摂(大塚)唯一の「一等三角点」が見つかる。本誌57号の記事等を参考にし、クラブハウスにある石碑や三角点を豊中市の高畑俊生氏が平成13年3月3日に訪れたことが報告されていた。

★「高安城と峰 基本資料集」(高安城を探索会、平成13年6月)には、久安寺のソパフリ山(122、145頁)と南畑の旗振り山(117頁)が地図に示されて紹介されている(本誌61号参照)。久安寺のソパフリ山では、大阪から大和へ中継したことが示されているが、残念ながら具体的な送信地にはふれていない。また、26頁には、高安山頂での旗振りにふれた昭和6年の記事(保井芳太郎、高安城址についての私見)が収録されている(資料集の問い合わせ:〒581-0873八尾市黒谷

4の94坂上弘子)。

★「探訪ブックス(城5) 近畿の城」(小学館、昭和56年)に、高安山頂三角点が大和への旗振り中継点「ソパフリ」であったことを記している(高安城を探索会長、棚橋利光氏の執筆)。

★「報道記事より見た 幻の高安城を探る」(高安城を探索会、平成13年6月)に収録された新聞記事によると、平成11年6月に発表された高安城のものらしい石壁については、否定的な見解もあり、まだまだ決着はつきそうにないようである。

●池田末則「地名伝承学」(五月書房、2002年刊行予定)の「飛鳥「鉄砲塚」考」は、古代の烽火通信と小字「鉄砲塚・十三塚・火振塚」の関係を論じたものであるが、関連して近世の相場振山・旗振り山の話題も取り上げている。筆者の提供した「併置職業尽」や近藤論文、川合論文等の資料も紹介されている。

★本誌61号で、奈良の中継所を「現近鉄奈良駅北側」(「新訂王寺町史」本文編)と記したが、「地名伝承学」では「現近鉄奈良駅北方中筋町に物見櫓があった」と更に詳しく示している。

★本誌57号で紹介した旗振り実演につい

新ハイキング選書

一等三角点は、山のダイヤモンドだ。それぞれの山の上で輝いている。第9巻、第18巻、第20巻の3冊で一等三角点の山280座がそろそろ。

◀第4巻▶ 改訂第2版 一等三角点のすべて

多摩雪雄 編

B 6判・350頁・定価1890円(税込)

都道府県別に一等三角点を地図上に明示。一等三角点の詳細な解説、高度順100座一覧表など、一等三角点研究の決定版。

◀第9巻▶ 第3刷 一等三角点の名山100

安藤正義/市川静子/多摩雪雄
/富田弘平/松本浩 共著

B 6判・336頁・定価1632円(税込)

100山すべてコース図と写真入りで実用性が高い。新ハイキング社の一等三角点の本は、どれを見ても良い山が多い。

◀第18巻▶ 改訂2版 一等三角点の名山と秘境

安藤正義/多摩雪雄/富田弘平
/松本浩 共著

A 5判・340頁・定価1837円(税込)

全国一等三角点の地方別の配置図と全国の一等三角点の総覧が付いている。一等の山100座を紹介。地図が大きく見易い。

◀第20巻▶ 一等三角点の山々

山口ゆき子/横山隆/高柳生雄
/川越はじめ/岡村美邦 共著

A 5判・310頁・定価1680円(税込)

一等三角点の山シリーズ、280山の総索引と高度順一等三角点100座が付いている。80座を紹介、有名な山が多い。

●本紙添付の振替用紙でのご注文は送料当社負担

発行所 **新ハイキング社**

〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13

電話/FAX 03-3915-8110

ては、「地名伝承学」に次のようである。

「平成三年六月十四日、日本テレビが関西大学の協力を得て実験を試みたことがある。まず、堂島から千里山(吹田市)→阿武山(高槻市)→天王山(京都府大山崎町)→大岩山(京都市伏見区)→小関山・追分(大津市・旗振山)までの各所に見張台を設け、旗振実験の結果、堂島・大津間四七キロメートルを六分四五秒で送信することができた。つまり、時速四〇〇キロメートルとなることから、江戸までは約一時間二十分で送信することができ

るという。」

これは、5回分の送信の結果であるから、1回分は9・4キロを1分21秒で伝えることになり、分速7キロということになる。

★箱根の関の制限のあった江戸時代はともかく、明治期に東京への通信が行われただけ、一時間余りで伝達できたわけだが、実際には、本誌59号で示したように、静岡までの通信であったようである。箱根越えは、関所というよりも、地形上の制約から飛脚に頼らざるを得なかったのかも知れない。

【三重県下の旗振り山について】

★本誌60号で紹介した、伊賀町の旗山と鳥山(小平山、717メートル)については、松井志津子編「名古屋から行く 隠れた名山64」(全書出版、平成7年)にガイドがある。この中に、地元では「鳥山」という山はない、という趣旨の注意が示されている。

★「伊賀町史」(昭和54年)付図「伊賀町大字小字名略図」によると、小字「鳥山」は、鴉山池付近からその北側斜面をいい、地形図で採石地となっている一帯である。その東隣に当たる、旗山から鳥山(小平

山)にかけての稜線から南方の一帯を小字「寒風」と呼んでいる。従って、「鳥山」というのは、山名でなく採石地一帯の小字名であり、これを717メートルに用いるのはおかしいというわけだろう。

★伊賀町の柘植では、旗山付近一帯の笹の広がる平らな山塊を「コベラ」と呼んでいるようである(柘植からは、717メートルは見えない)。そこで、717メートルを「コベラ」と呼ぶように呼ぶようになったのかもしれない。

★伊賀町では、717メートルに確かな山名はないようだが、関町教育委員会に問い合わせたところ、「近くに住む町職員の談」として、「地元ではカラスマヤと呼んでいる」とのことであった。伊賀町・関町境の山であり、関町での呼称についても精査が必要だろう。

★本誌60号で紹介した、かつて旗山にまつられていた役行者像は、西尾寿一「鈴鹿の山と谷6」(平成4年)の215頁に掲載されているものと同一のようである。

★本誌60号で、塔の峯が旗振り場であることを示したが、その情報源は上野市文

化財専門委員の山本氏であることを述べた。その後、山本茂貴「遺産と心」(平成13年)を近鉄上野市駅南東(東町)の岡森書店で入手した。多くの文化財が紹介されているが、塔の峯の情報は記載されていない。山本氏に手紙で問い合わせたが、ご高齢のため、情報は得ることができなかった(平成13年8月)。

★本誌60号で、上野市三軒家の見遠山(313・0メートル)について述べた。上野市教委の山崎寧子氏に問い合わせたところ、「長田郷土史」(中村竹次郎氏遺稿一、長田公民館発行)に次のようにあることを教

示いただいた。「見当山 長田寺内区にあり(中略)眺望まことに佳し(中略)旧藩時代に見当を振りたるに依り此の名起る。」文中の「見当を振る」の意味は不明である。寺内は三軒家から東へ峠を越えた麓の集落であり、見当山と見遠山との関係もはっきりしない。ただ、上杉喜寿「越前若狭 続 山々のルーツ」(安田書店、昭和62年)によれば、越前各地にある「見当山」は、江戸時代の半ば(18世紀頃)、日本海の外国船を監視する見当場(見当場)を設けたところであり、見当場

(見当場)で狼煙をあげて、福井城下に急報するところであったという(21頁、160頁)。船の発見の際は、村々の寺社の鐘や太鼓を打ち鳴らして急を告げ、出現の場所はあらかじめ決めておいた本数の旗を山上に立てて知らせる手筈になっていたという(22頁)。しかも、古文書によつては「見遠山」「銀頭山」とも書かれたという(23頁)。上野市の見当山の場合、船の監視ではないだろう。軍用入夫たちによる監視が行われ、何らかの合図をした山であったと思われるのである。

★「朝日町史」(昭和49年)の254頁には、埋蔵の小字地図があり、本誌60号で旗振り場として紹介した、八幡山の位置が、「八幡」という記載で確認できる。この北谷の八幡という地点が八幡神社の跡(合祀のために廃止された)であることについては、町史23頁に解説がある。本源は九州宇佐の八幡宮である。小字地図でみると、善照寺の東100メートル付近に「八幡」と記されている。

(平成13年4月26日成稿・9月2日補訂
(平成13年12月13日追補)

連載

三角点を訪ねて ⑮

よこやま だけ
横山岳前衛の山、墓谷山へ

はかたに やま
湖北

磯部 純

「今年から湖北の三角点峰に登る」と仲間宣言していたのだが、4月になったというのに一つも踏んでいない。冬の間は雪が多くて登るのを諦めていたのだが、雪が解けてから、最初に登ろうと計画していた七七頭ヶ岳へは結局行けずじまいだった。いっしょに鈴鹿を歩いている仲間の女性たちの誘いに負け、ポンポン山へ花を見に出かけてしまったからである。

そんな時の連休初日、村田リーダーが新ハイ例会で横山岳へ行くのを思い起こし、9年前横山岳へ登ったとき、登り損ねた横山岳前衛の山・墓谷山へ一人で登ることになった。うまくすれば、鳥越峠あ

たりで新ハイの皆さんに出会えることを期待して……。

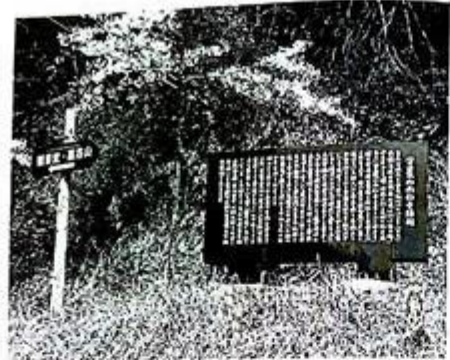
9時25分、杉野農協横の「こぶし会館」前に車を置く。連休初日で、名神高速道が込んでいるとの情報があったことと、一人山行での経費節減から、高速道に乗るのは彦根インターから木之本インターの間だけとしたので、思っていた以上に時間を要してしまった。この日は南から墓谷山へ登り、鳥越峠・コエチ谷経由でくだらうとするもので、花を楽しみながら歩いたとしても、時間的には余裕ありそうなルートだった。

車道から北へのびる林道へ入ると、両側は田んぼ。最近では聞かれなくなって



墓谷山の山名板

きた蛙の合唱に迎えられる。山間からは、これから登る杉野富士と呼ばれている墓谷山の頂上が鋭角に覗いていた。林道分岐までくると山の中腹にある南卦寺の案内板が立っていた。その分岐を道標に従って左の道に登ると、やがて南卦寺観音堂へとたどり着く。古ぼけた観音堂と釣鐘塔・法輪塔だけが残っていて、どう見ても有名な寺跡とは思えない。南卦



登山口と南卦寺の案内板

寺は平安時代、伝教大師・最澄が十一面千手観音像を彫って一寺をなしたと伝えられている古い寺であり、観音堂は33年に一度開帳されるといふ。25年前、延べ1000人も人が訪れ賑わったという境内も、今日その面影は全く残っていないかった。

ここでひと息入れて、観音堂の裏から杉林のなかの踏み跡を北へ向かう。薄暗い林ではイワウチワが盛りで、あたり一面に薄紅色の花をいっぱい咲かせていた。杉林が切れると、左側は杉の植林帯、右は雑木の急坂が続く。このルートを登る人が多くなつたのか、所どころ急な斜面

にザイルが固定されている。登るにつれ明るくなって、後ろには木々の間から崩谷のピークが見え隠れする。足下にはイカリソウの花がピンクの花をつけていた。多くなってきたブナの枝先には新芽が吹き出し、緑に萌え



墓谷山・横山岳付近略図

始めている。標高点403mを越えて尾根に出ると、正面には谷筋に白く雪を残した横山岳がドッシリと構え、後ろには山頂を雪におおわれた金粟岳が重々しく横たわっていた。

北西に方向を変え、いったん少しく下って墓谷山南尾根へ登り始めると、突然上の方でガサゴソとやぶをかき分けるような音。一瞬、「人かな?」と思ったが、それにしては音が不規則すぎる。林道取付き地点で熊糞を見ているだけに、「熊か? 猪か?」と想像するだけで、あまり気持ちのよいものではない。笛を出す間を惜しんで、声を出しながら登って行くが、いぜん音は前方の上の方から聞こえてくる。やっと、主尾根ののって木の間に透かして見ると、何と、二匹の狼が前方10mほどの所を、私と同じように山頂へ向かっているではないか。写真に撮れるかもしれないとカメラを構えた途端、二匹とも左の斜面を下の方へと消えて行ってしまった。

主尾根への道はしっかりと刻まれていた。道の傍らには点々と紫のクイチツボスマレが行き先を示すように咲いている。時折、チゴユリやヤブレガサも見

ことができた。

急斜面を登り切り、幕谷山(738)山頂到着は11時30分。下から見たとき、山頂は鋭角に見えていたので、さぞかし山頂は狭いだろうと想像していたが、平らな東西に細長い山頂。三角点広場の北は杉林、南は雑木林に視界を阻まれ、東のはずれから横山岳を見るだけ。三角点は広場の真ん中であり、標石は南向き、15度東へ振っていた。

山に登る人の多い連休の初日、だれもいないたった一人の山と喜んだのも束の間、杉の木陰から若い男の人が一人姿を現した。武生から来たという。彼曰く、「人の多い横山岳を避け幕谷山へ登ったのに、6人ものパーティに会ってしまった」と。同じように静かな山を求めて歩く人がここにもいたと思うと、親しみがわく。彼はその後、観音堂へとくだってしまい、山頂には私だけでほかにだれもいない。

少し早いですが、横山岳を眺めながらの昼食とする。空は曇一つなく快晴。陽は暖かく春そのものの陽気だった。ゆっくりと食べ、バーナーでコーヒーまで沸かし、飲んでの片付け終わってもまだ12

時過ぎ。これからどんなにゆっくりに

ても13時半頃には下界へ着いてしまう。こんな上天気なのか、このままくだってしまふのではもったいないような気がしてきて、横山岳まで登ってみようという気になってしまった。新ハイのメンバーが10時半過ぎから白谷を登り出したとして、山頂まで3時間。14時までに山頂に着いていけば、いっしょにくるることができるかも知れないと思ったからである。

12時10分、幕谷山山頂スタート。山頂直下は登りと同じ急勾配。下のゆるい尾根までくだると踏み跡も不確かになり、尾根をはずさぬように歩くのが精一杯。あたりを見渡すどころではなく、何も目に入らなかったが、峠近くになって心に余裕ができ、ヤマブキ・イチリンソウ・ヒトリシズカの花が目にとまる。鳥越峠まで20分の下りだった。

鳥越峠から横山岳への登りは最初から急勾配。以前、白谷から登ったときはバテてしまうほどの急坂だったと記憶しているが、こちよからの直登ルートもちょっとやそっとの坂でない。木々の新緑は登るにつれて少なくなっていく。急斜面を

頂。14時05分の到着だった。

山頂には1層もの雪が積もっていて、三角点の姿は無い。ただ、山名の標識だけが覚えていた。雪を掘って三角点を探すにはあまりにも雪が深過ぎ、今回、三角点標石の写真を撮るのは諦めざるをえなかった。9年前に標石を写していたに比べ、悔やんでも悔やみ切れなかったに違いない。

雪の上であたりを見渡すと、東を除いて大展望が開ける。北に安蔵山・谷山・三國岳と連なり、白山がわずかに顔を覗かせている。南には金鷲岳・深谷山・扇



幕谷山から横山岳を見る
(これを見て、登る気になる)

山・己高山が波打っていて、山の間から余呉湖が光っていた。

「さて、新ハイの人たちは？」と見渡すが、多くの人が坐り込んでいて、それらしい姿はない。と思う間もなく、村田さんたちが登ってきた。参加人員は36名だとか。二班に分け、ゆっくりに登ってきたつもりだが、足の弱い人がいて、トップとラストとの間が空いてしまった。「この山行は中級向けと案内しているのに、どうなっているんだろう」とボヤクことボヤクこと。次々に登ってくる人のなかに、多くの見知った人の顔、顔、顔。しかし、なかなか全員が揃わない。幸いにして快晴だったからよかったものの、天気が崩れたらどうなっていたのだろうか。思っただけで、背筋に冷たいものを感じた。

村田さんは、16時に杉野学校前にバスを呼んでいるとのことだったが、この調子では全員下山するのは18時前になってしまふに違いない。それを感じたのか「磯部さん、先にくだってバスに運ぶな」と連絡してよ」との村田さんからの依頼。皆といっしょにくるのを楽しみに登ってきたのだが、いつも世話になっ

登り、ゆるい尾根へ出ると、雪が残っている横山岳の山頂が目の前にそびえている。目の下には白谷が深く刻み込まれ、経ノ滝や五跳子ノ滝からゴウゴウと流れている滝の音が、ここまで聞こえてくるような気がする。前週は雨のために増水し、谷道は登られなかったというから、この日の登山者は多いに違いない。すでに山頂を踏んでこちらへくだってくる何組かのパーティにすれ違う。こんな時間なのに、普通なら下りに使うこのルートを登る者がいるのかと、不思議そうに見つめられ、視線が痛い。

再び、急斜面の登りとなる。すでに標高800mは超えているのだろうか。登るにつれ、イワウチワが姿を現し、やがて、斜面一帯がイワウチワの花園と化する。さらに登ると、カタクリも見られるようになり、イワウチワとカタクリの共生群落斜面となった。あまりの花の多さに写真を撮る気もしない。その斜面は足が上からなくなるほどの急勾配。ただただ、足を休めるために花を眺めるのだと、自分に言い聞かせ立ち止まる。

道がぬかるんできて、背丈ほどのブッシュを抜けると横山岳(1132)山

ている人に頼まれたのでは仕方がない。心ならずも先にくるることになってしまった。村田さんが嘆く通り、私が14時50分に一人下山を開始するときまでに、最後の集団の姿を見ることはなかったのである。

鳥越峠を15時35分に通過し、15分でコエチ谷林道へくだる。その後、長い林道を歩き、学校前で待つバスの運転手へ「ここへくだってくるのは18時前になるのでよろしく」との村田さんの伝言を伝え、杉野農協前へ戻ったのは16時35分のことだった(*注グループの到着は17時10分だった)。

湖北の三角点を優雅に歩くつもりが、思いがけずハードになってしまったが、数多くの花にも巡り会い、満足できる山行だった。(平成12年4月29日歩く)

AコースタイムV

杉野農協前(40分) 観音堂(1時間) 幕谷山(20分) 鳥越峠(1時間35分) 横山岳(45分) 鳥越峠(15分) コエチ谷林道(35分) 杉野学校前(10分) 杉野農協前(地形図) 2万5千・木之本・近江川合・美濃川上

1等三角点峰(500m以上) 548座完登の記録(第30回)

平成6年北海道への春山登山

坂井久光

い。約6ヶ先で昼過ぎとなる。目前に神威岳の銀嶺やピリガイ山を望見したが、前途はなお遠く、時間的にも無理だと判断して登頂を断念した。

本流の幹線林道へは支線を少しくだった所から砂防ダムへ向かって急斜面の小谷を降下し、浅い川を渡渉して対岸の林道へ出て駐車地に戻った。三石温泉で汗を流し、駅前旅館で泊まった。夜中に降り出した雨も朝にはすっかりやんだ。

13日、朝食後8時過ぎに出発。きのう偵察した幹線林道とその支線が、ピリガイ山の奥深くまでびびているのが見えたので、再び挑戦することにした。きのうは通れたソエマツ沢の橋の手前で崖崩れ

平成6年4月10日、舞鶴港深夜発のフェリーで出発し、12日の早朝、小樽港に上陸した。同行の山崎大造氏(JAC・京都山の会)と久馬さんとの3人である。山崎氏の愛車バジエロで高速道を苦小牧インターで降り、太平洋岸沿いの国道を静内を経て、三石町との境界近くの浦河町萩伏に行った。ここから北に向かい、上野深から元浦川沿いの宮林署の林道を渡る。約15ヶ先のピリガイ山から流下する支谷の支線林道に左折し、橋を渡ってから約2ヶ先で崩壊と残雪にはばまれて駐車した。快晴のもと元気に出発したが、残雪が多く気温が上昇したので、雪が腐ってワカンが沈みがちで歩行がはかどらな

知床岳山頂にて



があり、ここから前進不能で橋の手前に車を置いた。9時出発。約4ヶ先までは除雪してあったが、それより先は雪道で一同ワカンを着けて歩いた。橋を渡って流水のため露出した林道を登りつめ、支線林道のヘヤピンカーブの箇所は小沢を登って近道をとったりして悪戦苦闘の末、やっと稜線に着いた。ニセオマイ橋10時25分通過、稜線13時40分。稜線一帯はシ

ラカバ林で明るく、日当たりのよい所には雪はない。日陰や谷には50cm位の積雪があり、ヒグマの足跡も一ヶ所あった。たどり着いたピリガイ山(1167m)の山頂は東西に平坦で、静内町と浦河町の境界をなしている。山頂からはピリカヌプリ・神威岳・中の岳・ベテガリ岳と、日高山脈の銀嶺が神々のおおむすごとく荘厳な輝きを放っていた。3人で感激の握手。万歳三唱後、強風を避けて風下で休憩がてら、展望を十二分に味わって下山した。この山は夏季はやぶがひどく、最近の測量ではヘリコプターを使用したと「点の記」にある。山頂14時20分、35分。

林道除雪地17時05分、駐車場へ17時55分着。その夜はアホイ岳のキャンプ場で野営した。

14日、6時に出発して国道を東に走り、機楽町の追分峠から林道に入った。道宮牧場を通って豊留岳登山口へ7時に着いた。登山口には三枚岳2時間の標示があり、夏道があるらしい。ふと牧場を眺めると、エゾジカ約10頭の群れが見え、牧標を次々と軽く飛び越えるのが見えた。また中腹には反射板が望見できた。ワカンを着けて7時45分出発し、急坂を登る。

五合目に9時17分、25分。汗をかいて標高1000m以上の稜線に出ると、右に反射板左に朽ちた山小屋が雪に埋まっている。風が強く曇ってきた。途中にピークがあり、シラカバ林の稜線をたどって豊留岳(1105m)の山頂へ11時15分到着。一同万歳三唱。展望広大で北に日高の頭嶺が白銀の雄姿を現し、南は襟裳岬や太平洋の波濤を見晴らす。風がひどく風を避けてひと休みして下山。登山口に14時着。その夜は浦幌町の秘湯留真温泉で泊まった。無色透明の湯で美肌効果があるらしい。夕食は豪華な山菜料理で、食後は山崎氏と碁と将棋をして就寝。

15日、本別町から阿寒一弟子屈一虹別一標津と走り、知床半島の羅臼町の相泊路を偵察に出かけた。あすはヒグマに食べられるかも知れない。それならと「熊の穴食堂」で、夕食にヒグマや海馬のすき焼きを食べた。その後、車で「熊の湯」の露天風呂に行った。ここまでは除雪してあったが、知床岬方面へはゲートがあって通行止めだった。温泉の源泉は98度で煮炊き可能。橋を渡り雪で滑る夜道を通して入浴した。地元の人も多く入浴してい

て談笑の楽しいひとときを過ごした。車に戻り、シュラフに入って寝た。

16日、8時相泊を出発。きのうの偵察の結果、クズレ沢とカムイウンベ川の境界尾根を登るコースは急峻な露岩のピークが見えたので、これを避けた。泊川の右岸の尾根を登り、相泊沼を経て斜里町との境界の、太平洋とオホーツク海の分水嶺のコースをとることにした。海岸から約80mの急崖を苦労のすえ登り、ゆるいシラカバ林からエゾマツ林を通して相泊沼に出たが、一面水におおわれていた。途中にエゾジカの足跡があった。12時に分水嶺に着き20分休憩。途中のコルを横切ったと思われるヒグマの足跡もあった。ピリガイ山でもピクマの足跡を見たが、いたって少なくまだ冬眠中だろうか。知床岳の2ヶほど手前でテントやシュラフ等をデポした。一帯はハイマツで一部露出していた。知床岳(1254m)へ16時30分ようやく登頂できた。北に知床岬の造成地が見え、南に硫黄山が雄姿を見せ、東西に太平洋やオホーツク海の海原が見下ろせ、北面は爆裂火口らしき黄色の露岩の急崖が見えた。また三角点は露出していた。強風のためか積雪はない。

3人で感激の万歳三唱。少憩後デポ地へ下山し、ハイマツの枝を敷いてテントを張って露営した。

17日、テントを撤収し、7時下山出発。尾根を縦走して急峻な谷をくだって見上げると、15日偵察のときに岩峰に見えた露岩はハイマツが茂ったコブにすぎないことがわかった。10時頃にクスル川とカムイウンベ川の境界尾根に出た。その後ハクオンベ川の境界尾根に出た。その後「熊の穴食堂」で馬鹿ラーメン(海馬とエゾ鹿とアイヌ葱)を食べ、清里温泉に行き泊まった。途中斜里町の北の美術館を再訪して山崎館長としばらく対談し、コーヒをいただいた。夕食後、山崎氏と碁と将棋を楽しんで就寝。

18日、網走―常呂―紋別を走り、ウツツ岳を試みたが林道が未除雪であきらめた。奥部から名寄へ走って美深で休み、函岳も無線塔ができ、車道が通じていることがわかり、夏に来ることにした。朱物内湖畔を通り、幌加内―北竜―留明と山間部の国道を走って、増毛駅前の多田商店で浜益岳のルートを開き、ユースホテルに泊まった。

19日、浜益村の幌に行き、残雪のため

林道の途中に駐車。ゆるい坂の林道や尾根を登ると、スノーモービルの跡があり、急坂を浜益御殿(1039.9m・3等三角点)に出た。ここから10分先が見えないほどの濃霧のなかの登山となり、地図と磁石が唯一の頼りで進む。モービルの跡もどこまで行っているのかわからない。その先の下りでまた自分たちの足跡に出て、リングワンデリングとわかりびっくり。

広い尾根を過ぎ、急坂を登ってやっと浜益岳(1258.8m)に登頂。感激の握手と万歳三唱。少憩後往路下山。その夜はバス停小屋で泊まった。

20日、安瀬山の偵察をしたが、除雪してなくあきらめた。支笏湖の奥の漁岳や樽前山を試みたが、こちらも残雪が多くてあきらめ、札幌・小樽を通過して美国のキャンプ場で泊まった。

21日、積丹半島の最高峰余別岳へ三度目の挑戦を試みた。林道に入ったが、国道から1.5km位入った林道は未除雪でここで駐車。長い林道を重荷を担いで12時過ぎに山小屋へ着いた。ひと休みしてまずは積丹岳へ向かった。山頂の1.5m手前で荷物をデポして軽身で積丹岳へ着いた。14時20分。頂上で少憩後、間近に見える

余別岳1等三角点にて



余別岳へ向かってコルにくだって、急なやせ尾根のピークを越し、コブを上下して待望の本峰にとりついた。風が強ク、クラストしてビッケルもきかないほどの所や、ハイマツの枝の上ののって落ち込んだりした。急斜面でのワカンは無理だとそこへデポして、蹴り込んでステップを切った。ビッケルやストックを使い、ともすれば崩れそうな難所を山崎氏の先導で無事、余別岳(1298.8m)に16時に登頂できた。山頂は積雪少なく、三角点や標柱が出ていた。3人で万歳三唱。感激の瞬間だ。展望は360度で、天狗岳・環内岳・鉢山が見えた。

(文中の本字は今同登った1等三角点の山を示す。)(次号へつづく)

近江湖北を歩く

賤ヶ岳と余呉湖一周

コースとコースタイム JR余呉駅(35分)―中山清養寺(55分)―賤ヶ岳(30分)―国民宿舎「余呉湖荘」(西側湖岸経由)1時間30分 〔余呉駅(徒歩約3時間30分)〕

① JR余呉駅周辺(余呉町下余呉) 北国街道は余呉湖の東側を南北に通じる。国道365号線が並行し、北陸自動車道は街道の東側を、JR北陸本線は西側を通り、下余呉から西へ廻って余呉トンネル手前に余呉駅がある。

駅から県道へ出て、まずは下余呉江土集落の乎弥神社へ参る。式内の伊香郡乎弥神社に比定する説もあるが、江戸中期に合祀された乃弥神社も式内の乃弥神社に比定されている。乎弥神社は醍醐天皇の御代に創建され、臣知人命・梨津臣命・海津見命をまつり、近世初期には海宮社を招き、海宮神として尊称された。早稲穂時には、川下の黒田・木之本・干田・

中村敏文

唐川の村民が参詣し、引水していた。乃弥神社は現在地の南方奥の堂より、積雪による被害を避けて平地の乎弥神社へ合祀された。祭神は梨津臣命で境内社の大名持神社も同時に移されている。

江土集落のはずれに自然探勝道の道標、賤ヶ岳・山本山歩道の案内がある。大岩山登山道は余呉湖東側の植林地帯山腹を伝い、ゆるやかに高度を上げていく。小型車も上られる舗装された山坂道だ。

余呉湖は賤ヶ岳の北麓にある陥没湖で海抜134m、湖の面積二平方、湖底は南岸近くで六千から八千年前の二層と、北岸近くでは三千年前の埋没林が発見され、三回の陥没が確認されている。

賤ヶ岳より余呉湖



湖の北東部に狭い平野が開け、湖岸沿いに平地が見られる。三方を山々に囲まれ、北部の遠方には1000m級の山がある。昔から湖の東、余呉川沿いに北国街道が越前へ通じ、南部の低山を越えれば琵琶湖へ通じる軍事・交通の要所であった。

大正十一年(1922)の賤ヶ岳の戦



残ヶ岳山頂

陸道が通じ、木之本の東西交通は大変便利になった。現在は大音からの登山リフトが観光客を多く運ぶので、山上公園として整備された。説明板もあり、ベンチも40〜50人は利用できる。
北側は余呉湖、西側は奥琵琶湖と比良山系の山々。東には近江最高峰の伊吹山が坐し、遠くに鈴鹿の連山が見える。展望を楽しみながら昼食を済まし、下山は

④ 国民宿舎から西湖岸(川並)
山頂から西南へ30分ほどくだり、北へ向きを変えて20分もくだると、国民宿舎「余呉湖荘」へ着く。このあたりは飯浦の飛び地で、余呉湖の南岸だけが湖沿いに木之本町の町域である。
余呉湖の南西端から北西部の川並集落間では湖岸に自然が残されている。整備された湖岸の遊歩道に植えられた草木を見たり湖を眺めて、われわれしか歩いていない道は1時間と長いが退屈しない。余呉湖畔の残ヶ岳石像石碑は、なるほど残ヶ岳の山容がすばらしい所にある。
「青少年憩いの家」を過ぎると川並の集落が見え、斎部路通歌碑と説明板がある。新羅崎の森深案内板がこもりもした自然林の森への細い道を示し、川並地区には新羅王子天日槍の関連の伝説が

残る。
蛇の目玉石説明板が目につくと、菊石姫関連の「蛇の目玉石」が石欄内にある。少しくつと優美な天女の石像が見え、羽衣伝説の天女と説明板がある。その先の整然と整地された一角には京都北野神社旧社地の看板がある。少し離れて羽衣伝説衣掛柳の古木が枝を四方に垂らす。説明板を読んで漁夫桐畑大夫と天女の伝説、天女の子を菅原道真とする伝説に納得する。
新羅王子天日槍が当地を開拓したという伝説や、川並近辺で天神信仰が盛んな意義を確かめてみたいと、山の手、仏谷の北野神社に参詣する。北野神社の相殿である白木神社は新羅の森から移した社で、地藏堂に合祀してある白木観音と同様に、当地を開いた天日槍をまつ。
北野神社のすぐ東北に近世初期に創建された真宗本願寺派の観明寺。すぐ東側の禅宗正源寺はもと真言宗吉祥坊で、残ヶ岳の戦いで焼失したが、豊臣秀吉の命で加藤清正が再建し、近世初期に曹洞宗洞寿院末となり改称した寺とある。
正源寺からくぐって県道33号線に入り、20分ほどで簡素な余呉駅に着く。



中川清秀墓

いでは余呉湖周辺が主戦場となり、下余呉の北に接する中之郷村にも羽柴方練須賀一党の構えた砦跡や、小川裕忠の構えた笠上城跡がある。下余呉の西側、八戸にも羽柴方の木村・山路・大金氏の砦が設けられ、大岩山には高山重友・中川清秀が陣を張り、残ヶ岳の砦を守る桑山重晴と羽田正親の前方を押さえ、北国から南下する柴田勝家勢を待ち受けていた。

② 中川清秀の墓(大岩山山頂付近)
江土の登山口から大岩山を目指して登ると広葉樹の樹間から余呉湖が見え、自然のよく保たれた登山道を30分も登れば中川清秀と配下の墓へ着く。



天正十一年(1583)
4月、柴田勝家は佐久間盛政に大岩山から残ヶ岳襲撃を許した。羽柴秀吉が織田信孝と大垣城で対戦中に北近江制圧を目指した佐久間軍の急襲に、余呉湖周辺に分散していた羽柴軍は救援に参加できず、大岩山の中川清秀と配下一同は奮戦して全

③ 残ヶ岳(余呉町・木之本町の境界)
余呉湖からの標高差3000呎、三角点422呎。残ヶ岳山頂は百数十人は坐れる起伏のある広い平坦地で、琵琶湖八景の一つに入る風光明媚な地としてよく知られる。
明治十一年に「残ヶ岳戦跡」碑が建立され、昭和二年には南尾根を貫通して大音と山梨子を結ぶ残ヶ岳陸道が完成した。その後、昭和四十三年に国道8号線の新

員討死したといわれる。大岩山頂近くに
ある中川清秀と配下の墓は、一武将の墓所とは思えぬ立派さでよく手入れされている。下余呉村の十二の家が中川組を組織し、清秀を偲んで毎年供養を続けたといわれる。

中川清秀は北摂津池田衆の武将として次木氏を破り茨木城にいたが、山崎の合戦では羽柴軍の先鋒として功績をあげた人物で、将米を囑望されていた武将であった。
清秀墓付近では首洗池、猿の馬場の説明板が残ヶ岳の戦いを物語り、木之本への分岐点を過ぎると急坂混じりの登りとなり、50分ほどで残ヶ岳へ着く。

東山七条界隈に秀吉を訪ねて

松永恵一

京都国立博物館

東山の山麓を南北に走る東大路と七条通が交わるあたりには、平安末期には後白河法皇の御所法住寺殿や平家の六波羅探題があり、桃山時代には豊臣秀吉の方広寺大仏殿や豊国廟があった。博物館の南隣には往時の名残として三十三間堂があり、北隣には豊国神社・方広寺がある。明治二十八年(1895)10月に竣工し同三十年5月開館した煉瓦造の建物は、赤坂離宮(現、迎賓館)などを設計したことで知られる宮内省内匠寮技師片山東熊博士の設計である。フレンチ・ルネッサンス様式の美しい建物は昭和四十四年(1969)、赤煉瓦の正門、礼売場及び袖櫛と共に重要文化財に指定された。

開館当時は「帝国京都博物館」と呼ばれたが、三年後に「京都皇室博物館」と改称された。その後、大正十三年(1924)に京都市に下賜されて「恩賜京都博物館」と改称され、昭和二十七年(1952)に再び国に移管されて「京都国立博物館」と呼ばれるようになった。

方形の敷地の東側に赤煉瓦の本館があり、西北に新館がある。中央の噴水の東側には本館をバックにロダンの「考える人」が置かれている。

本館は大規模な特別展覧会の会場として用いられ、新館は主として日本美術を中心とする東アジアの美術の常設展示場として用いられている。設計者は京都大学名誉教授森田慶一博士である。

京都国立博物館本館



新館の常設展示は、京都を中心とする近畿地方の社寺等からの寄託品が並べられている。2階に展示されている絵画・書蹟・染織・漆工等は、保存の観点から原則として毎月、全ての陳列品の展示替えが行われる。他は適時に展示替えが行われている。また、年に数回、特定のテーマを設けた特別陳列が行われ、その予告は3ヶ月毎に発行される「京都国立博物館だより」に掲載される。

三十三間堂

正しくは妙法院境外仏堂蓮華王院とい、本堂の柱間が三十三あることから三十三間堂と呼ばれる。後白河法皇の御所法住寺殿の千一体の観音様を安置する御堂として、長寛二年(1164)に創建された。北方に平氏の六波羅邸があり、当時の政治・文化の中心地であった。

建長元年(1249)、大火で類焼し灰燼に帰した。その後観音堂の再建が始まり、仏師湛慶を始めとする名だたる仏師によって千手観音像が彫刻され、文永三年(1266)に落慶供養が行われた。

堂内をびっしりと埋め尽くすようにして立つ千手観音像。中央の須弥壇に「中尊千手観音坐像(国宝)」が端座し、その左右に五百体の「十一面千手千眼観世音菩薩」の群像(重要文化財)が列立している。

千手観音に供奉する「観音二十八部衆像(国宝)」、依屋宗達の名画のモデルにもなった「風神・雷神像(国宝)」が安置されている。

築地塀(太閤塀)と南大門(いずれも重要文化財)は、豊臣秀吉が三十三間堂を方広寺の管理下においたときに建造された。

養源院

三十三間堂の東向かいにある。秀吉の側室淀殿が、父浅井長政の追善の為に文禄三年(1594)に建立した。名称は長政の院号。その後焼失したが、元和七年(1621)淀君の妹で徳川秀忠夫人の崇源院が伏見城の遺構を移し再建した。本堂の左右と正面の三方の廊下の天井は、世に血天井といわれ名高い。伏見城落城の際、鳥居元忠らは城を死守し自刃した。その将士の血で染められた廊下の板を天井に張り、その霊を吊っている。血痕が生々しく残っていて、手の指や人の姿などに見とれることができる。

本堂の襖絵と杉戸絵(いずれも重要文化財)は依屋宗達の筆で、自刃した将士の霊を供養するために「お念仏、御回向」にちなんだ絵を描いたもの。杉戸の象や獅子や麒麟などのめずらしい行動を描いており、表現の奇抜さでも知られる。本堂の廊下は左甚五郎作と伝えられる緊張り。玄関の左に秀吉が学問所とした牡丹の間がある。狩野山楽が牡丹の折枝の散らした図案的な襖絵を描いている。

庭園は小堀遠州作。「十文字」「一文字」二種の手水鉢がある。

智積院

真言宗智山派の総本山。五百佛山根来寺智積院と称す。紀州根来山は天正十三年(1585)豊臣秀吉に刃向かい滅亡した。一山の学頭であった智積院の玄宥僧正は、難を京都に逃れた。玄宥僧正に帰依した徳川家康は、慶長六年(1601)に豊国神社境内の坊舎と土地を与え、元和元年(1615)5月大坂城落城後、秀吉が長男・乗丸(鶴松)の菩提を弔うために建てた祥雲禅寺をそっくり寄進した。

収納庫では長谷川等伯一門の障壁画が展示されていて、絢爛豪華な桃山文化に出会うことができる。桜図・楓図・松に秋草図・松に立葵図・雲松図等で、なかでも等伯の子久盛筆の桜図と等伯筆の楓図は桃山時代の代表的障壁画で国宝に指定されている。何れか不慮の災禍に遭い、いくらか切り縮められているが、当初の豪壮な気分を伝える。

また、庭園は利休好みといわれ、中国廬山を形取ってつくられている。築山をつくり庭木を刈り込み、その前面の池が建物の下に入り込んで寝殿造の泉殿を思わせる。池泉廻遊式名勝庭園である。



豊国神社唐門

コース概観

東山七条周辺は豊臣秀吉ゆかりの地。秀吉が奈良東大寺の大仏殿を模して建てた方広寺。奈良の大仏より大きいものであったと伝えられているが、地震で破壊され、その後再建されたものも災厄によって失われ、今では大仏も大仏殿もなく、残っているのは豊臣家を滅亡させる口実となった問題の梵鐘のみ。豊臣家の夢の跡を訪れてみた。



京都・東山七条界限付近略図

まれた路が白く開かれている。豊臣家の将来を暗示するように迷走を続けた方広寺は、駐車場と化している。一昨年8月、大仏殿の基壇と台座が発掘調査によって明らかになった。豊国神社の東側で、公園として整備されている。豊国神社のすぐ西側に見上げるような土盛りの上に安置された五輪塔がある。秀吉の朝鮮出兵にまつわる遺跡。武将たちは軍功の証明として首級ではなく、耳や鼻をそいで秀吉のもとに送った。秀吉は供養のため一ヶ所に集めて塚を築いた。

博物館の正門を出て右に進む。向かい大和大路の西側の街路樹はサルスベリ。淡紅・白・紫と咲く花の色を添えて植えられている。方広寺大仏殿の城郭を思わせる巨石の石垣は、往時の寺勢の壮大さと天下人の豪華盛衰を語りかける。石垣の上の社が豊臣秀吉をまつる豊国神社。地元の人からは「ほうこくさん」と慕われている。正式には「とよくに」神社という。慶長三年(1598)、秀吉が62歳の生涯を閉じると、遺言により遺体は東山の阿弥陀ヶ峰(193m)に葬られた。当初の豊国神社はその麓に建てられ、秀吉は正一位と豊国大明神の神号を与えられ神となった。

のち、徳川の世になり、家康は秀吉の神号を廃止し、社は破壊された。明治十三年(1880)に再興され、秀吉ゆかりのこの地に社殿が造営された。正面の豪華な彫刻が施され金の装飾の美しい唐門(国宝)は、伏見城の遺構と伝えられる。西本願寺・大徳寺と共に国宝の三唐門と呼ばれる。唐門左右の八基の石燈籠は慶長燈籠といわれ、創建当時の遺品である。境内には秀吉夫人・北政所をまつる摂社貞照神社がある。

のが、この耳塚といわれている。妙法院の南側、東山七条の交差点から東へ長い石段を上りつめた阿弥陀ヶ峰に豊国廟がある。途中で京都女子学園があるので、女坂と呼ばれる。565段の石段を上る。NHKの大河ドラマ「秀吉」で、幼い日吉丸が力一杯かけのぼっていった石段。上りながら秀吉の時代に浸っていた。

元和元年(1615)豊臣氏が滅亡すると廟は家康によって破壊され、一部が琵琶湖竹生島の宝厳寺・都久夫須麻神社に移築された。明治三十年(1897)秀吉の三百年忌に際し、墳上に巨大な五輪石塔が建てられた。妙法院は天台宗門跡寺院。秀吉が大仏殿を造営した際にその経堂となった。その縁で豊臣ゆかりの品々が伝わる。庫裏(国宝)は、秀吉が大仏殿の千僧供養を行ったときの遺構。大玄関及び大書院(いずれも重要文化財)は、元和六年(1620年)徳川秀忠の息女東福門院和子(後水尾天皇中宮)入内時に造営した殿舎を、のちに下賜移築したものと伝える。障壁画は狩野永徳・光信の筆とされ、桃山期の豪華な特色を残している。

宝物館には「豊国祭礼図屏風(重要文化財)」等、秀吉ゆかりの品々が納められている。慶長九年8月に行われた秀吉の七回忌の「豊国大明神臨時大祭」の様子を狩野内膳に描かせた屏風は、右隻に14日に行われた騎馬行列・奉納田楽や猿楽、豊国神社の壮麗な社を描く。左隻は明けて15日に行われた五百人にも及ぶ町衆の風流踊りが市中に繰り出したときの熱狂的な様子が描かれている。

豊国神社の北隣に残るのが方広寺。天正十四年(1586)、秀吉は奈良東大寺のそれを凌ぐ大仏殿の造営に着手した。奈良の大仏より大きい木製金漆塗座像は大地震で破壊され、秀頼が復興を進めるが銅造大仏造途中に火災して焼亡。さらに再建された大仏殿で行われるはずの開眼供養は、鐘銘事件によって延期。これを契機として豊臣家は滅ぶ。

大仏は落雷により失われ、「寛永通宝(大仏銭)」に变身した。「京の京の大仏さんは天火で焼けて」と童歌に歌われた。「東海道中膝栗毛」で弥次喜多がお参りする大仏はここ。豊臣家を滅亡させる口実となった82・7ノの大きな梵鐘が残る。「国家安康」「君臣豊楽」と刻

非公開寺院であるが、例年秋に期間を設けて特別に公開されることがある。行かんとすれば東山 嶺の秋風身にしみて 妙法院の鐘の音も…… 久坂玄瑞

▲コース▼

JR・近鉄京都駅(市バス10分) 博物館・三十三間堂前、東山七条

京都七条駅(東へ徒歩7分) 博物館

▲地形図▼2万5千||京都東南部

▲費用▼

市バス均一区間運賃 220円

京都国立博物館観覧料 420円

(特別観覧会は特別料金)

三十三間堂拝観料 600円

養源院拝観料 500円

智積院拝観料 350円

豊国神社宝物館入観料 300円

豊国廟入山料 50円

▲問い合わせ先▼

京都国立博物館

三十三間堂	075 (541)	1151
養源院	075 (525)	0033
智積院	075 (561)	3887
豊国神社	075 (541)	5361
豊国神社	075 (561)	1720

〈山のレポート〉

山の地名を歩く②

谷と沢

西尾 寿一

山の地名を探索する場合、まず最初に取り上げるべきことは、登山を考へるうえで基本となる「山と谷」の概念である。「〇〇の山と谷」などと、過去に出版された山岳関係の本の題名に多いことは、そのことを証明してあまりあるが、反面、山と谷の実態がよく知られ理解されていくかという点、必ずしもそうではない。この項では、まずそのことを説明したうえで、各論に移りたい。

忠臣蔵で討入りの際、敵・味方を識別するために「山と川」を使つたと伝えられているように、山の反対、つまり対極にあるのが川(河)であるかのように思われている。「山川草木」などの四字熟語があるように、人々は山があれば必ず水が流れ、浸食されて川が発生するものと考へている。しかし、このことは火山性島国特有の地形的特徴と生活慣習によ

るところがきわめて大と思われる。

世界的なレベルでみると、山と川は必ずしも直結するものではない。水の全くない大地形の巨大なリフトバレー(地溝)は、雨期に水が一部で流れる程度であるから川というよりも谷と言ふべきである。植物の生育しない荒々しい大地形の自然では、山はあるが水の流れる川はなく、巨大な谷があるだけである。

流水がない川は河原であったり川床であったり、季節的な川と言つたりするが、谷は水がなくても谷である。

木曾谷・伊那谷という場合には木曾川や天竜川のことではなく、御岳と中央アルプス(木曾山脈)の間、あるいは中央アルプスと南アルプス(赤石山脈)間の大地形の全体を表しており、その地形の底の水の有無に直接関係はない。このように川には必ず水が流れていなくてはならないが、谷はアフリカ東部の大地溝のような巨大なものから極小のものまである。川は水そのものを表現するのに対し、谷は地形を表現するものと考へられる。

このようにみると、谷と沢を同列にみることは危険で、単にわが国の東西で使途が分かるといったことでは済ま

定する場合が多いが、谷と沢を同じレベルで使うのは適当でないことがわかる。

しかしながら地名研究者の間では、この考へ方は定着したかみえて登山関係者の比でなく、もっと断定的である。

その一例として『地名の由来』(吉田茂樹著)では「谷と沢が対立することは早くから注目され、柳田国男・鏡味完二もこれにふれている。(中略)鏡味は主として溪谷名を用いて谷と沢の分布図を示したが、私は集落名を用いて中央日本のどのあたりが境界線なのかを示した。(中略)北アルプスの尾根伝いに南下し、御岳山から木曾川中流に延びて岐阜市・大垣市あたりを経由して三重県北端の養老山地を経て、桑名市あたりから伊勢湾に達するラインを設定した」と述べている。おおむねこのラインは「OK線」と呼ばれ、他の民俗文化の分布と一致している。たしかにこのラインは、人間の交流の濃淡にも明らかに表れている。北陸地方が近畿に近いのは列島の開発過程を物語っている。近畿は、中国・四国・北陸を加えて関東に対抗しうる文化圏をもつのに対し、東海地方は西と東の中間にあって、どちらかに属するとすれば東に

れないような気がする。

小生の見解では、谷は山に対する地形語であり、川と沢は水の有無に関係している。沢は古くは「サハ」の擬音で、騒音(ここでは自然音の水流の音か)と思われ。「東日本では谷川と同義で使われており、関西では湿地の意である」(『古代地名語源辞典』)と述べる通り、古くは岩盤をサラサラと音を立てて流れ落ちる小さな谷水を称したのではないかと推測される。したがって、語意からみて巨大な滝を連続させたものや圧倒的な廊下帯をもつ場合は、沢の表現では似つかわしくないように思える。

関西での沢は、湿地や池などに使われ、現在でもその名残がある。京都北山の医王沢は長い間、なぜこの地に沢があるのか不思議だったし、鈴鹿の雨乞岳山頂の池を「大峠の沢」と言うのも納得できる。

先の辞典では「サハ」は周防・石見・伊豆などの旧国内の郷の名に「佐波・佐婆」があり、これを沢に当てている。必ずしも東西に明確に分かれて分布している状況にはない。

それどころか、石見国の佐波郷は東日

属する傾向を示してきた。

登山関係で知られるのは、黒部川の右岸と左岸で沢と谷が分かれていることである。これは現実の地名に表れているから「OK線」は確定され動かないものとされる。吉田茂樹氏はこれをもって「ある時期までは(少なくとも弥生時代)部分的に言語を異にする、少なくとも二種類の日本民族がいたことは十分考へられる。(中略)以東の日本民族を「アズマ族」と呼び、以西の日本人を「ヤマト族」と仮に呼んでいる」とまで発展させるのである。「OK線」は各方面の絶対的支持を得て固定化されてきた感があり、このデータをもって、次々と歴史上の未解決の問題を解こうとする動きさえある。

小生が不思議とするのは、「OK線」が動かないとするなら、例えば黒部川の兩岸で谷と沢が別々に存在するのはなぜか、ということである。衆知の通り黒部川は北アルプスのど真中で、だれもが知りうる所ではないはずなのに、地名が明確に分割されている。この地名をいっただれが名付けたのか明らかにされなければならぬ。

黒部川を始め、北アルプスの今の後立

本の沢と解釈してもよい地形であり、ある時代に沢はこの国でかなり統一した地形用語だったと考へられている。その後中央(畿内)で、沢は湿地や池など庭園と類似したものに變化してゆき、「沢は辺境に残つたと考へる方が自然であろう」(先出辞典)となる。

この説の正当性にはむろん異説もあると思われるが、関西で使われる「谷」の場合の元は段(タンまたはダン)とみられるところを見ると、現実性を帯びてくる。谷を(タンまたはダン)と呼ぶのは近畿地方のほか北陸・美濃でも使っている。もしかすると、丹沢の「丹」もこれを段とみれば(丹→谷)説も浮上してくる。

近畿地方の丹波は地形として「谷端」が合っているが、東の丹波はどうか。全国に「丹」の字を用いた用例は限りなく存在するから、これをいちいち「谷」と解釈することもできないので、一つの用例を全国の類似した地名に適用するばかりでなく、各地方で地形と名称とが合致するが精査することが求められる。

登山関係者やガイド本などで、「沢」が関東で「谷」が関西で使用されると断

山連峰の尾根を境に、西側はすべて旧加賀藩領とされ、毎年「黒部奥山廻り」の巡見がなされていたのであった。この時代は信州から若干の狐師や盗材の徒が出入りしたらしく、その出入口は針ノ木と東沢であったという。藩政時代の文獻や絵地図では、黒部川の右岸（信州側）も沢でなく谷であるのに、今日出回っているものは信州側の名称で沢が使われる。これはなぜか。つまり、近代登山の先駆者たちが信州側の人夫を使っただけからにはかならない。

地名採用の段階で地元優先は原則であるが、ここでは一方的に信州側が使われ、後立山という例外を除きなせ古い越中側の呼称を使用しなかったのかを不思議としなくてはならない。

黒部川の本流を境に「OK線」が走るという説には若干の変更が必要である。例えば黒部奥山廻りの歴史に詳しい広瀬誠氏の『立山黒部奥山の歴史と伝承』には次の一文がある。「黒部川の支谷の深層谷はまるで地質学の学術語のようである。かめしい字づらだが、これはシンソウでなくフカソと読む。サハがちままってソとなったもので深沢の意である。古い図

〈山のレポート〉

山のゴミはだれが捨てるのか

平 一郎

最近の登山道はゴミが少なくなってきた。地元の人たちがゴミを持ち帰るキャンペーンを行い、登山グループがボランティアで清掃登山を実施している成果が表れているようである。

しかし、山の中でも部分的にゴミの多い所がある。自動車で近くまで行けて、ごく短い歩行距離でのキャンプ・ピクニック（特に花見）・ハイキング等ができるコースはゴミが多い。

京都北山の杖敷ヶ岳へ向かう雲ヶ畑街道のゴミの多さには、まったくあきれた。自動車で捨てにきたと思われる電化製品を中心とした粗大ゴミと、ハイカーやキャンパーの残した食品包装材を中心とした川原のゴミである。しかし、杖敷ヶ岳の志明院登山口から上にはゴミは全く見当たらない。

北摂の竜王山から摂津峡に至る東海自然歩道は、見上げれば桜のトンネルが長

くは深層とあるが、ソの意味が分からなくなっただけで、後に谷をつけて深層谷と書いている。片見川南又の枝谷の「ノ宗・二ノ宗の宗もサハのちまったソウであろう。こうしてみていると、越中側にも沢地名の痕跡はかなりあるわけで、越中谷・信州沢と簡単に割り切っているものか慎重に検討したい」とある。藩政時代に資料として記録されている地名では、黒部川流域の大部分が「谷」派であるのに、その後信州の沢が進出するだけでなく、古い地名でも沢があることに對する説明が得られていないが、今後の課題の一つかも知れない。

こうしてみると、「OK線」の確定作業のうえで沢名をとった鏡味説より、集落名を集めた吉田方式のほうが優れていることがわかる。

しかしながら、「OK線」が黒部川を中心とする北アルプスの部分で顕著なのは、吉田説のように東西に異なる民族が棲み分けていたのではなく、天険として日本アルプスが壁となり情報の交流が容易でなかったにすぎないのではないかと。

したがって、谷と沢の区分も言語の分布・民族の棲み分けよりも、情報の伝達

く続き気持ちのよい道だが、下を見ればゴミがいっぱいで、気分が悪くなるサイテーの道である。自動車を通れる舗装された道なので、単に弁当や空き缶のゴミだけではなく、トラックでしか運べないような大型ゴミが多くて、明らかに産業廃棄物である。

世界最高峰のエベレスト（チョモランマ）の清掃登山をしたところ、膨大な量のゴミを回収したという。海外の高山に登る一流の登山者も、高度な登攀技術を習得する前に、山ではゴミを捨てないというの山歩きの初歩的なマナーを学ぶ必要があるであろう。

ところで、山にはもっとほかにも大きなゴミがある。

山歩きの途中で必ず目にするのが廃屋である。朽ち果てて今にも倒壊しそうな建物があるまま放置されていることが多い。汚くわびしい廃屋を風雨にさらすのは差し支えがないが、登山者の目にさらすのは不愉快である。

最近、近江富士という異名のある三上山に登ったが、やはり山腹に神社らしい廃屋が放置されていた。地元ではクリンキャンペーンを展開

の濃淡ということではないか。もっと正確に言うならば、地域で習熟した口語としての「タンとサハ」が谷と沢に振り分けられたとき、若干の見込み違いが生じた可能性を排除できないのである。

「タン」は本当に谷でよかつたのか、「サハ」は本来の沢だったのかは、さらに考察の必要がありそうに思える。関西でも沢が一部分、特に庭園関係に残っていることは、関東と違った用法ながら注目しておいてよい。

また、「OK線」の東にありながら木曾谷・伊那谷などの存在を見落とすことのないようにしたい。

登山ではかつて「沢登り」が東で、「谷歩き」が西で使われたが、沢登りの価値が認識されるにつれ「沢登り」に集約されつつある。この「谷歩き」は「沢登り」より一段軽い登山であるように思われがちであるが、本来は同じもので実際の行為に軽重はないのである。

言葉も表現法も時代とともに少しずつ変化してゆくと、これが実態を反映しているかどうかは別の問題なのである。

なお、谷地・矢地などは東西とも同じ用例なのは注目される。

そして、所どころで登山者に対して「ゴミは捨てずに持ち帰ろう」という看板が目についた。ところが皮肉なことに、その看板のすぐ横に廃屋という巨大なゴミが平然と捨てられているのである。

将来、再建の計画があるなら、とりえず建物は撤去して、再利用のできるような建設資材は残して保管すべきである。この神社は、三上山そのものがご神体であると聞いている。神社がご神体をゴミ捨て場にしていたのでは、神罰がくだりそうである。

むろいけ園地の権現川ハイキングコースにある権現の流のすぐ近くには、建物の跡らしい廃墟がある。建物は撤去したのか朽ち果てたのかはわからないが、舗装がそのまま残されている。そのためにその部分だけは草木が育たず、コンクリートが剥き出しの無残なスペースになっている。

山の中では、建物はもちろんのこと、舗装が不要になれば撤去して自然に戻さなければならぬ。舗装は放置していても朽ちることがないので、むしろ建物よりもやっかいな存在である。

山中の最大のゴミは、廃屋である。

〈山のレポート〉 今、北近江が面白い！

高島 伸浩

美浜山遊会や今津町産業振興課や今津山上会によって、北近江の山域が開発整備されているという情報がある。昨年、12月4日に今津町産業振興課の落合さんにお話を聞くことができ、全体の概要がわかったので報告しておこう。地図上の太い点線が登山路だが、まだ全部整備されたわけではない、細い点線は未整備である。

三十三間山について

三方町倉見から三十三間山への登路は最も知られたコースだが、山頂手前のサ原から南県境尾根を伝い、国道303号線の熊川や天増に至るルートは、町境まで未整備で、南尾根は開発済み。また、三十三間山より北へのびるルートは一般には知られていなかったが、十村山岳会が以前からハス川に戻るコースを整備していたのと、今津山上会が9月

7日に整備し、天増川林道まで開通した。以降、能登野の頭へ通じ、美浜町の大日開拓地手前からのルート（険しい）と合流した。さらに大御影山への路は昨春に今津山上会によって整備された。このコースを近江坂という。

武奈ヶ嶽について

石田川ダムより300mの所から杉植林に入るルートに加えて、角川から赤岩山を通り武奈ヶ嶽頂上、さらに三重嶽への200m行程が、10月14日に今津山上会によって整備された。後日、石田川沿いの林道からワサ谷をつめて登る路も開発された。

三重嶽について

石田川と河内谷との合流点から西へ200m位の所が登り口で、多少やぶだが踏み跡はある。前述の能登野の頭・大御影山間の尾根に至るルート（北コース）、武奈ヶ嶽と結ぶルート（西南コース）、そして上記のルート（南コース）はここ2、3年以内に整備される予定である。

なお、河内谷上流のヘアピンカーブから直登するコースは整備済みだが急直登。

河内谷上流は福井県境まで悪路のため車両通行不可。

近江坂について

今津町酒波から大御影山を通過して三方町倉見への山越えのルートを近江坂という。路が塞がってから久しいが、昨年度前記の人たちによって全て復活した。

滝谷山について

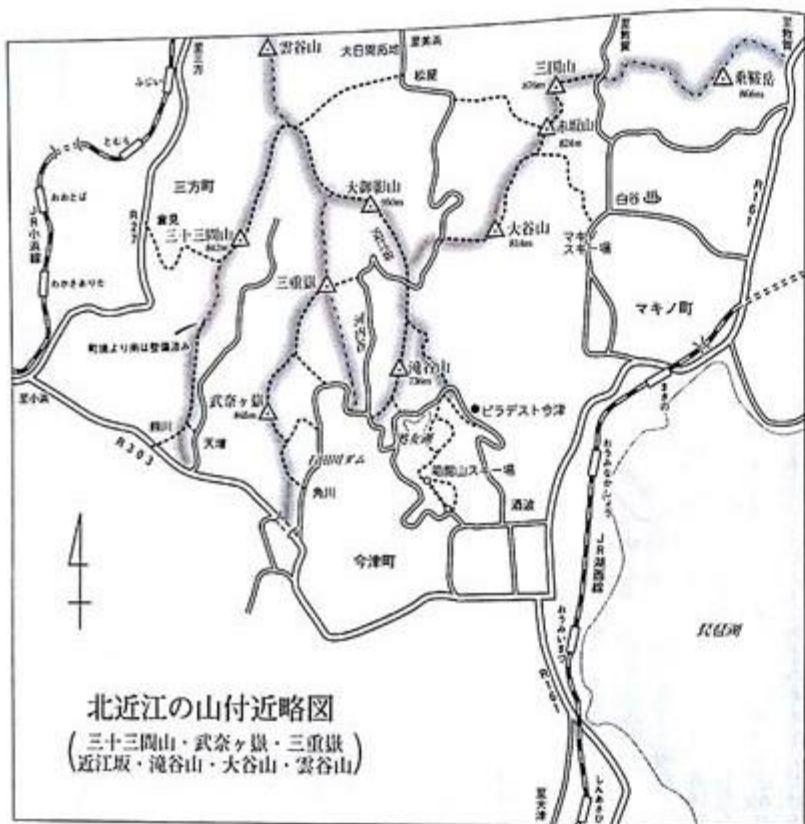
コクダリ谷から滝谷山、さらに近江坂を結ぶルートは11月4日に整備された。河内谷始点からも登り口があり、コクダリ谷からの登りよりも路幅が広くてなだらかだ。

大谷山について

美浜山遊会が昨年からの整備に取り組み、昨春秋に県境から大谷山、さらに赤坂山まで開通した。

雲谷山について

これも美浜山遊会のテリトリーで、屏風ヶ滝からのルート整備、頂上の刈り払いなどに力を注いでいる。昨年屏風ヶ滝の高捲き道をつくられたとか。



北近江の山付近略図
(三十三間山・武奈ヶ嶽・三重嶽)
近江坂・滝谷山・大谷山・雲谷山

信州 戸隠山

日本百名山の宿
森の宿 めるへん

高妻山・黒姫山・飯綱山登山の拠点
早朝に登山口まで送迎いたします
高山の花は6月下旬から咲きだします

長野県上水内郡戸隠村蔵水
Tel:026-254-2081

<http://www.5a.biglobe.ne.jp/~marchen/>

〈新ハイ客の方、宿泊料10%割引〉

ここ2、3年で北近江の山域はガラリと変わる。いろいろなコースも組まれて多くの登山者を楽しませてくれるであろう。右記にない、ピラデスト今津から箱館山へのコース、マキノ町からの荒谷山・二の丸山・大谷山のコースなど、今後整備が進みさらに範囲は広がるであろう。

特選コースガイド①

湖南

（里山シリーズ7）瀬田・大石
万葉ゆかりの静かな山

大石山

一般コース（★）
長宗 清司

『新古今和歌集』のなかで「とやかへる鷹尾山の玉つばき 霜をば経とも色はかはらじ」と詠まれた山かどうか。訪ねた大石山（407・413）は、開発を途中でやめてしまった荒々しい風貌の気の毒



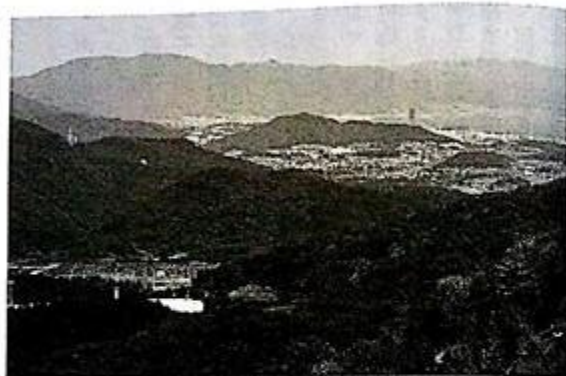
な山である。JR石山駅前から大石小学校前行きのバスに乗る。石山寺、南郷洗堰、鹿跳橋を通り、終点でバスを降りて南の龍門町へ歩く。稲田の広がる田園地帯を抜け、林道に入る手前の八幡神社で一服。山城谷の川沿いをしばらく歩くと右手にコンクリートの橋があり、背高い草におおわれた幅の広い脇林道がある。それをまっすぐ登る。地図に記載のないこの林道は大石山の山頂まで続いているが、整備されないまま放置されている。雨水流が未舗装の赤土道を横切り、道が溝状に掘られて河原の様相を呈している。小さな尾根を切り通しにされた所は、両側の土砂が崩れ落ちてU状に変化していた。風の通る、下界を見通せる所からは、大津市街や琵琶湖の南湖あたりが望める。

一度T点に突き当たるが、左の高みへ向かう。大石山の頂上は、直径20mほどの円形（ドーナツ）状に赤土の台地が広がり、三角点のある部分だけモ

大石山山頂、三角点は円錐の上部にある



ヒカン刈り状に残され、円錐形の小山になっている。勢いをつけて走り上がらなると標石に届かない。この313角の天場からは360度の展望。金勝アルプスの山並越しに、三上山の頭だけがのぞいていた。自生の若松を分けて東に進むとコナラの林がある。今まで歩いてきた林道とは雰囲気が違うので、このあたりを少し散



大石山三角点頂上から大津市街を望む

策すると山の気が味わえる。帰路は、同じ道を引き返す。龍門町では往路と道を変え、大石川沿いに歩くのも一興である。

バス停に戻り、時間と脚力に余裕があれば、近くの桜で有名な佐久奈度神社や、大石東町の浄土寺に立ち寄るとよい。この寺は大石家の菩提寺で、忠臣蔵でお馴染みの大石内蔵助良雄の先祖、五代前の久右衛門良信の住んでいた屋敷跡や墓が裏山にある。

瀬田川に架かる鹿跳橋上からは、先ほど登った大石山への道が赤くあらわに斜面を見せている。橋下の流れには、ゴツゴツした岩間をぬってカヌーを楽しむ人がいて、小渓谷の風情を残す川中の岩の上には、水と戯れる家族連れ姿があち

こちらに見られた。距離が短く、そんなに難しいコースではないので個人で出かけられてもよい低山である。（平成12年1月8日・9月17日歩く）

▲コースタイム▼

- JR石山駅（バス23分）大石小学校前バス停（30分）大石龍門町（20分）山城谷（10分）林道入口（1時間）大石山（45分）林道入口（1時間）佐久奈度神社（20分）浄土寺・屋敷跡（10分）鹿跳橋（10分）大石小学校前バス停（バス23分）JR石山駅
- ▲地形図▼2万5千11朝宮
- ▲問い合わせ先▼京阪宇治交通 0774(22)3939

エレスト 61歳の青春

川田 哲二 著

A5判・二四〇〇円

「ダウラギリ第2巻をはじめ数々の登攀記録を持つ関西有数のアルピニストである著者が、61歳にして憧れのエレストに挑んだ。偉大なる山懐での感動と登山人生を綴る。」

北摂の山(下) 西部編

慶佐次盛一 著

四六判・二〇〇〇円

「京阪神から馴染み深い北摂の山々を写真、地図と共に紀行風に紹介。道標の有無や交通機関など、できる限りの詳細な情報を盛り込んでガイドする。」

★表示の価格は消費税を含みません

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
075-751-1211 〒606-8316

2等三角点のある山

ボンテンと多度山

山形 歳之

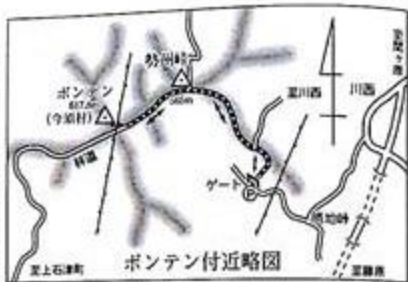
ボンテン (犬ノ尾・点名今須村)

一般コース (★)

鈴鹿山脈の最北端、霊仙山より西の山地で、関ヶ原町と上石津町との境の今須川の源流近くにあり、今須周辺では中心的な山である。

山名はカタカナで表記され、ボンテンまたはボンデンと呼ばれている。宗教用具の「梵天」からきているとのことだが、鈴鹿にはそのほかにコザト・ソノド等カタカナ表記の山がたくさんある。地形図や登山地図には表記がなく、最初は山を探すのに苦労したものである。

初期に購入した地形図やガイド類は古くなり、費用の点からも毎度新しいもの



29番の鉄塔に着く。巨大な鉄塔は折からの風に轟々と鳴って不気味であった。鉄塔を過ぎ、後ろの林のピーク(617・8m)に登る。鉄塔から50m

くらいだろうか。やぶのなかに2等三角点を見つけた。「犬ヶ尾」の標示があるが展望もなく、ブヨがたくさんまつわりつくので、急いで下山する。鉄塔の所は展望もよく、伊吹山がひとときわ大きい。東には養老山脈が横たわり、南には長々と林道がのび、その奥には鈴鹿の主稜線が重なっていた。

(平成13年6月11日歩く)

▲コースタイム▼

林道分岐駐車点(1時間) 勢州峠(40分) ボンテン

▲地形図▼

を購入することもできない。十数年前の地図を使用していると現状と合わないことが多く、登頂計画に苦労する。

名神関ヶ原インターから国道365号線を南下し、上石津町の川西集落から勝地峠林道に入る。勝地峠で下多良からの林道と合流する。折から草刈りをしていた老人に、「山登りに来たのだが」と林道の様子を尋ねると、「林道終点に何とか駐車できるだろう。途中にも造成された空地があってそこも駐車可能で、終点から10くらい手前」と教えられた。車を走らせると途中で林道が尾根に向かって分岐している。右に大きくカーブして、すぐ頑丈な鉄扉で閉ざされていた。

林道終点に車を置き、草むした林道跡を少し歩いたが、すぐ行き止まり。先は深い谷で歩道の跡もない。どうやら道が違おうようだ。先ほどの林道分岐に戻り、道端に車を置く。造成地にはチェーンが張られていて入れなかった。

鉄扉の脇から林道を登る。手入れされたよい道で、ゆっくりりと高度を上げてゆく。私の古い地形図では破線の道である。周囲は植林帯で、高度が上がるにしたがって

20万Ⅱ名古屋 5万Ⅱ彦根東部
2万5千Ⅱ霊仙山

多度山(点名柚井村)

一般コース(★)

養老山地の南端に位置する多度山は、近鉄養老線の多度駅で降りる。山麓には伊勢神宮に次ぐ立派な多度神社がある。濃尾平野を流れる三つの川、揖斐川・長良川・木曾川の大川が最も近く所で、多度山は川と濃尾平野を見下ろす最大級の展望台である。

関西ではあまり知られていないし、三角点ばかりに気を取られているので、山麓に行くまで多度神社も知らなかった。

しかし、地元では有名な神社であり山である。

山頂には公園や神社があり、アンテナ群が立ち、市民ハイキングの山になっている。地形図には山頂まで林道があり、私は歩くことなく山頂



て東北面が広がる。やがて下からの林道が合流する。道標には川西とある。やがて尾根上の一つのピ

ボンテンの三角点



クに登りつくと、鉄塔案内の標柱に「勢州峠」の矢印が張られていた。分岐する林道を15mばかり入ったササのなかに、4等三角点(565m)が見つかった。北から登ってくる林道は車の通行は不可能だろう。

稜線はあまり高低差もなく、展望も開けて鉄塔のピークが見えてきた。どうやらそのあたりが頂上のようなのである。いくつも林道が合流してくるが、草に埋もれて通行できそうにない。今歩いている道だけが整備されている。

30番の鉄塔登り口標示の柱に、ボンテンの矢印が示されている。林道と離れ、小ザサの稜線を登って行く。稜線の雑木にばら布や金属片がいっぱいぶら下がっている。何の跡なのか、意味不明だ。

(403・3m)に到着した。しかし、舗装された林道はハイキング道でもあり、狭くジグザグで大型車は通行できない。ハンドルを切り直さなければ曲がれない所もあり、休日の午後だったが、ハイカーには車が邪魔だったと思われる。私も車を乗り入れないほうがよかったと後悔し、車両通行止めにするほうがよいように思う。30mほどの登りで、ゆっくり歩いて1時間30分くらいだろう。

山頂には小さい神社と休憩舎があり、何十体もの地蔵仏を納めた建物があった。展望台からは三つの大川が眼下に広がっていた。こんなにすばらしい景観は初めてである。

また、この山は霊島の米相場を知らせる旗振山にもなっていたという。

(平成13年6月10日歩く)

▲歩行コースタイム▼

近鉄多度駅(20分) 多度神社(1時間30分) 多度山(1時間10分) 多度神社

▲地形図▼

20万Ⅱ名古屋 5万Ⅱ桑名
2万5千Ⅱ弥富

続・近江側から登る鈴鹿の山々④

霊仙山西南尾根から三角点峰 岩ノ峰を経て行者谷へ

健脚コース(★★★)

磯部 純

霊仙山西南尾根を歩く岩野さんの例会の半分は4月で、フクジュソウやハマソウを楽しむ山行であった。

今回は、あけん原から直接霊仙山西南尾根に取つき(笹峠まで新ハイ40号、48頁に詳しい)、霊仙山三角点、最高点から岩ノ峰を踏んで、行者谷へくだる回遊ルートを紹介する。

国道307号線を多賀の北方、久徳から河内線を東へ走る。登山口のあけん原には駐車場がないので、河内の風穴手前の寺院広場へ車を置こう。広場には10台位駐車できる。広場から河内の風穴を通り過ぎ、尾根取りつき地点であるあけん原へ林道を歩く。道の傍らにはタチツボ

スミレ・ミヤマカタバミ・ミヤマキケマン・スズシロソウ・ヤマエンゴサクと数多くの春の花を見ることが出来る。

あけん原手前の道分岐を右へくんだり、最東の民家を取りつき点である。母屋と小屋の間を通り尾根先端へと取りつく。最初からの急登だ。杉の林を登ると、やがて尾根はナラやブナの本へと変わる。4月の初めといえは、まだ春は浅いのか林は冬枯れだ。だが、足下にはミスミソウの花を見る。しばらく細い尾根を登っていくと、目の前に岩稜が現れる。汗をかき始め、休憩するには最適な場所だといえる。振り返ると木の間から男鬼の南尾根がすぐ近くに見えている。

岩稜を越えると尾根はゆるく広くなる。斜面にはエビネの葉があちらこちらにあり、カタクリの花も見る。ヤブレガサも一面にあり、食い意地の張っている人にはたまらないだろう。ゆるい斜面を登ると、オオジャレノ頭下の平坦な林。岩野さんが「行者の森」と名付けた情緒ある所だ。最適な休憩場所、木々の間からすぐ南に鍋尻山が迫っている。

オオジャレノ頭からは岩稜の尾根。ゴロゴロした岩を踏んでの登りである。それも言えないほどに充実感を味わうことができる場所だ。このあたりで昼食にするのもよいだろう。

尾根の先端から谷へくだり、向かいの尾根を登る。平坦な斜面になったら右へ振り、浅い谷を渡ってひと登りすると霊仙山(1083.5m)2等三角点である。この山頂からの展望は抜群で、360度の景観が楽しめる。

三角点から霊仙山最高点(1098m)を経て、尾根を東へたどり岩ノ峰へ。岩ノ峰はその名の通り岩稜の細尾根。尾根の北斜面は林だが、南は絶壁状の急斜面その尾根に石柱が立っているが、何と彫られているのか読みとれない。

岩ノ峰から20分程度東へくだり、浮き石の多い急斜面を直線的に南へくだる。慎重に一步一步気をつけてくだらないと、岩を崩してしまいそう。尾根にのると古い踏み跡が現れ、それをたどると白谷林道へ出る。

林道へアピンから南へ入る。そのまま尾根を直進すればコザトへ至るが、西南への尾根をくだる。すぐに伐採斜面へ出るが、右手の鞍部から行者谷へとくだる。谷は杉林で、谷に沿って袖道も付けられ

の岩の間からカンズゲが歯ブラシのような花を出している。歩く尾根には、緑といえはササ・杉・檜がわずかにあるだけ。そのなかに黄色に映え、目に飛び込ん



西南尾根から712mの南の笹峠

でくるのがダンコウバイの花。やがて712mのピークを捲いて杉林を抜け、ササ原を泳ぎ北へ向かうと今畑からの一般道へと出る。笹峠から一般道をたどり、背丈ほどのササをかき分けて登り、霊仙山西南尾根へ取りつく。

斜面は急だが、道はまっすぐ上へのびている。登るにつれて高い木はなくなり、風が強い日などは帽子を飛ばすほどにもろに吹きつけてくる。やがて道の傍らに小さな花が現れ、あちらこちらに白い花を見るようになる。スハマソウの群生である。葉が出ていないものが多く、花だけが草に隠れて秘めやかに咲いている。さらに、急斜面を切り切ると近江展望台のピーク。なるほどその名の通り、南から西にかけての山々を一望できる。遠く

には御池岳が横たわり、その左の二つのコブは三國岳と烏帽子岳か。すぐ目の前には鍋尻山・阿弥陀峰も見えて、西には男鬼の山々が広がっている。

南霊岳へ向かうと、福寿草が目につきだす。進むにつれて多くなり、あちこちに群落が見られるようになってくる。

南霊岳のピークを捲いてくだり、西にある北へのびる尾根の先端へ廻り込む。ここから霊仙山三角点峰までが、岩野さんおすすめのルートだ。もちろん、踏み跡はない。尾根の先端あたりには坐る場所がないほどに、所狭しと福寿草の花が咲き乱れている。北には霊仙山三角点峰、その右に霊仙山最高点、それに続く尾根。



霊仙山西南尾根付近略図

先ほどまで流れていた水は伏流となり、谷には白い岩がゴロゴロしているだけ。くだるにつれて両側の山が迫ってきて、両側が屏風のように切り立った谷をひたすらくだることになる。時折、落石が起きるから、早々にこの危険区域を脱出しなければならぬ。

鍋尻山の斜面が近づくと、奥の権現まであと残りわずか。奥の権現へくだる林道の脇には、フサザクラ・キブシ・アブラチャンが春を告げている。そこから道脇に咲く花を楽しみながら林道を歩き、寺院広場へと戻る。

▲コースタイム▼

河内観音寺院広場(10分) あけん原(1時間40分) 笹峠(1時間) 近江展望台(1時間) 霊仙山(15分) 最高点(40分) 林道(1時間30分) 奥の権現(45分) 寺院広場

▲地形図▼2万5千 霊仙山・彦根東部

新ハイキング選書

- 第4巻 **一等三角点のすべて** 多摩雪雄 編
改訂2版/上製本/日6判 350頁/定価1890円 一等三角点の知識をこの一冊に収録
- 第6巻 **花の山に行く** 松本雪枝 著
3刷発売中/上製本/日6判 358頁/定価1835円 山の花を訪ねての紀行文集
- 第7巻 **山旅素描** 足立真一郎 著
3刷発売中/上製本/A5変型判/定価1835円 山岳画家足立真一郎の珠玉の両文集
- 第8巻 **旅がらすの山** 富田弘平 著
3刷発売中/上製本/日6判 368頁/定価1835円 内容豊かな紀行文50編を収めた
- 第9巻 **一等三角点の名山100** 安藤正義/市川静子/多摩雪雄/富田弘平/松本浩 共著
3刷発売中/日6判 336頁/定価1632円 一等三角点峰100座の紀行・案内文集
- 第13巻 **甲斐の山山** 小林経雄 著
改訂2版発売中/日6判 360頁/定価1680円 山梨県の山と時を解説した事典的な書
- 第14巻 **百歳までの山登り** 富田弘平 著
2刷発売中/上製本/日6判 360頁/定価1835円 話題豊富な著者の紀行と随想集
- 第15巻 **日本300名山ガイド(東日本編)** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著
9版発売中/A5判 320頁/定価1680円 新ハイキングの精鋭5氏実地踏査のガイド
- 第16巻 **日本300名山ガイド(西日本編)** 市川静子/岡田敏夫/岡部紀正/川越はじめ/廣澤和嘉 共著
8版発売中/A5判 320頁/定価1680円 地図・写真・コースタイム入りガイドブック
- 第17巻 **城跡ハイキング** 中山権四郎 著
2刷日6判 354頁/定価1680円 歴史を訪ねる城跡ハイキング。紀行と案内の書
- 第18巻 **一等三角点の名山と秘境** 安藤正義/多摩雪雄/富田弘平/松本浩 共著
2刷A5判 340頁/定価1800円 一等三角点の山100座の登山コースを紹介
- 第19巻 **山との出会い** 富田弘平 編
日6判 320頁/定価1680円 山の随想集。55名が執筆の読物
- 第20巻 **一等三角点の山々** 山口ゆき子/横山隆/高柳生雄/川越はじめ/岡村美邦 共著
A5判 310頁/定価1680円 第9、18巻の山と重複しない80座の登山コースを紹介
- 第21巻 **中央線の山を歩く** 藤井寿夫 著
A5判 286頁/定価1680円 あまり歩かれていない中央線の山107コースの紀行と案内
- 深田久弥の研究** 深田クラブ 編
A5判 387頁/定価1680円 深田久弥のすべてを丹念に研究した成果を収録

発行所 **新ハイキング社**

●価格は消費税込み ●原価でのご注文は送料当社負担

〒114-0023 東京都北区滝野川7-6-13
電話/Fax 03-3915-8110
振替 00130-9-146915

せせらび

題字・小林玻璃三

10月14日、サネカズラを探しに太神山へ出かける。不動寺本堂の岩の上にそれらしき赤い実が……と思ったら、ナンキンナナカマドだった。結局、サネカズラには出会えなかったが、クロモジ・ウメモドキ・ヤブムラサキ・ノブドウ等、色とりどりの実を見て、実の秋を実感。さらに、久しぶりに、センブリの花をたくさん見つけた。

11月11日、初めて湖北の山に足をのびし、賤ヶ岳へ。松阪からはリフト下駐車場まで2時間余り、高速道路のおかげで意外に近い。山頂は展望広闊で、まさに絶景。湖も山も見飽きるこがなかった。

11月23日、味をしめて、今度

は山本山へ。紅葉が見頃だった。カエデだけでなく、タカノツメ・コシアブラ・ホツツジ・ナツハゼ・カラスザンショウ等、いろんな色の葉や実があつて美しい。三角点の周りに実がたくさん落ちていた。本丸跡北側には、初めて見る見当杭という木の柱が立ててあつた。賤ヶ岳と違ってほとんど人に会わなかったが、自然に触れたい人におすすめのコースだと思ふ。

(松阪市 藪木伸人)

秋真っ盛りの10月、山形へ行く機会があつた。会議終了後、別行動で出羽三山へ駆け足で登ってきた。全山紅(黄)葉の山姿に出会い、「さのこ」を堪能し

た。山形の人情にも出会え、印象に残る東北の旅であつた。今回の山形行きは「第2回地域学サミット山形」に出席したもので、全国各地で実践活動している人たちの報告と交流の場、仲間に出会うためであつた。それぞれに悩みながらの活動報告であつたが、実践しているという自信が言葉の端々に感じとれる力強い報告で、大いに励まされた。

(姫路市 須藤岡 耕)

裏木曾の阿寺山系の白草山は、広い頂上部から眼前に御嶽を仰ぐ山として人気が高く、休日ともなれば多くのハイカーが訪れている。名古屋や岐阜からは、一般に中津川まで中央自動車道を利用し、中津川から国道257号線を北上する。

11月の日曜日、ずいぶん久し

○新ハイ関西サービスセンター

<p>名峰・二岐登山 小白倉・大森山 1名でも最寄り駅送迎可(要予約) 露天風呂と内湯もまた</p> <p>〒962-1062 福島県南会津郡大泉町一軒温泉 0248-81812 2021 F 0248-81812 2705</p>	<p>富士登山・富士五湖 東海道自然歩道 (石巻山・ハリモミ峠)</p> <p>三沢山の麓</p> <p>ペンション コットンテール</p> <p>〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野 0555-1651-8515</p>	<p>大倉山・岩間山 大倉山・岩間山 大倉山・岩間山</p> <p>バス9分登山口下東徒歩5分</p> <p>山小屋 福ちゃん荘</p> <p>〒404-1002 山梨県南都留郡山中湖村 0553-3131-4639 (山小屋) 030-114-1792</p>	<p>尾瀬 平ヶ岳探検と約りの山小屋</p> <p>尾瀬二山只見国立公園内</p> <p>清四郎 小屋</p> <p>ほんもの手作りお土産</p> <p>〒914-0000 新潟県北魚沼郡津川町 099-022558 0028 099-022558 0028 0257912150026</p>
--	--	---	---

ぶりに白草山方面へ車を走らせ
たが、舞台峠を越えて下呂町に
入ると、びっくりするような道
路標識にぶつかった。よくある
青の新しい大きな道路標識
に何と「白草山」と明記され、
右折を促しているのである。国
道の道路標識が一つの山を正式
に案内するなどということは、
ほかではあまり聞いたことがな
い。

「白草山も有名になったも
んだ……」などと呟きながらア
クセルをふかしたものの、やがて
「うっ？」と首をかしげること
となった。どうも道の様子が私
の記憶のなかのものとは違っ
た。けれども、道沿いの所どころ
には「白草山登山道」という木板
の古びた小さな案内もあり、迷
いづつも進んでみた。

どれほど走ったろうか。や
がて目の前にデーンと頑丈なゲ
ートが出現して、やっと私は気づ
いたのだ。この道は、私の目指
した乗政温泉経由の県道とは異
なり、白草山の南側を走る鞍掛
峠への林道のような道だ。「道
理で道が狭いや、第一、乗政温
泉が出て来なかったもん！」と

わめきながらも来た道を戻っ
た次第である。
現在の白草山登山口へは、国
道257号線をもう少し北上し、
「乗政温泉」の青を見れば右折
する。

それにしても、現在利用する
人もあまりなく、なおかつ、ゲ
ートで車両進入止めになっているよ
うな道にせよ誘導するのだから
うか。ちょっと理解に苦しむとこ
ろである。
(各務原市 鷺見守康)

11月下旬、比良山系の八王子
山(381m)と三石岳(67
6m)へ登った。
JR比叡山坂本駅から日吉大
社の参道を歩き、境内にて日吉
三橋を眺めてから東本宮横の石
段を登り始めた。このあたりは
紅葉の名所であり、しかもシー
ズンの真っただ中とあって、境
内ではもちろん、参道でも穴太
衆積み石垣に沿って真赤な紅
葉の下を進み、期待通り深秋の
気分を満喫できた。

三連休の中日とあって朝から
混雑している境内だったが、さ
すがに登山道には人影は見当た
らない。山中の紅葉もすばらし
く、時々、赤や黄色が実に美し
く交錯しているのが眺められる。
その下を通るのであるが、登山
者がほとんどいないため、山道
に散って、それを踏みながら
の登山だ。他の季節とは異なる
すばらしさがあった。
紅葉は十分に堪能したが、困っ
たのは、通常の登山道と異なり
全くといってよいほど標識が立
てられていないことだった。八
王子社殿から八王子山へは道な
き所をたどってしまったし、三
石岳では幅広の林道が通って
いるものの、逆戻りするようにな
なければならぬ分岐点をうっ
かりして行き過ぎる失敗もあっ
た。しかし、稀に会う登山者に
必ず先々のことを聞いて進んだ
ので大きく迷うこともなく、三
石岳頂上へ到着した。

帰途は、行者が通るとい
う険しい山道であった。安楽院・
西教寺へ立ち寄り、再び最盛期
の紅葉を楽しむことができた。
(枚方市 東谷 宏)

昨年は山本氏の例会で湖北・

朽木村の三山へ登った。

6月百里ヶ岳、9月経ヶ岳、
11月三國峠であるが、いずれも
ハブニングの連続であった。

百里ヶ岳は登山口を間違え、
別ルートで登って皆に追いつい
た。経ヶ岳は中止になったのを
知らない湯浅氏と、雨が降り出
す前に登っておいた。三國峠は
中止であったが、雨は降らなかつ
た。

次週、山本氏と三國峠の予定
ルートを歩いたが、本誌62号の
記事の通りである。なお、文中
の魚「ゴリ」は、カジカの一
種だが、正確な名前にはわからな
い。

三國峠の京都側、芦生の原生
林は行きかかった所で、その水
量の多さに驚かされた。また東
境に近い尾根のすぐ近くに広い
平坦地があるのも驚きだった。
今年6月、ブナの新緑の季節
に自然観察会を芦生の原生林で
開催したいと思っている。

(南濃町 山田明男)

昨年は、1300余りの山に登
り、念願の25000山の登頂を
達成した。

11月4日、四国徳島県の中津
山(1447m)1等三角点の
山であった。西根谷山村田ノ内
から往復コースをとったが、あ
いにくの曇り空で展望はきかな
かった。ほかに登ってくる人も
なく静かな山を楽しめた。
須藤岡さんの書かれた「はり
まハイキング」や「播磨 山の
地名を歩く」等を参考に兵庫県
の山も歩いているので、見かけ
られたら声を掛けてください。
30000山の達成にはあと何
年かかるかわからないが、登り
続けたいと思ってる。
(大東市 阪上義次)

12月、春の青春18きっぷで北
摂の大船山から羽束山に行った。
以前の記憶は定かでないが10年
ぶりだった。
JR三田駅から十倉バス停で
降りて山に向かっていると、見
覚えのある池が出てきた。峠に
は道標があり、この前とは違う
なあと思いながら大船山に着い
た。

山頂から羽束山の木器に出る
尾根ルートはないかと探してみ
たが、それらしい踏み跡はなかつ
た。

山行短歌

(刈谷市 小出良春)

ハイカーの宿、池の平温泉
ナガサキロッジ
百名山を二つ登れる山小屋
黒沢池ヒュッテ
〒949-2100 新潟県中
頸城郡妙高町池の平温泉
0255-186-2261

休憩食入浴も歓迎
10名以上マイクロボスで送迎
箱根仙石原温泉
福 島 館
〒250-0631 神奈川県足
柄下郡箱根町仙石原1339
0460-419041

四季織りなす乗鞍高原のハイク
上高地・乗鞍岳 冬はスキー
けやき造りと味の宿、日観連
温泉旅館 けやき山荘
〒399-0150 長野県
長野市安曇野村乗鞍高原
0263-93-2555

さわやか信州
露天風呂 山吹の湯
湯田中温泉(穂波)
日野屋旅館
〒381-0400 長野県下
高井郡山ノ内町湯田中温泉穂波
0269-33-3578

標高2000m雪上の温泉
湯の丸高峠自然休養林
ハイキングにXCスキー
高 峰 温 泉
〒384-0000 長野県
長野市小諸市高峰高原
0267-25-2000

ハイキングに、スキーに、
志賀高原 石の湯ロッジ
バス 熊の湯線床下車
0269-341242
東京本社・東京新宿区新宿3
1-20-15(新光ビル)
03-3341-0211

樽池高原・八方尾根まで車7分
白馬村内全て送迎します
スノーシュー&歩くスキー開催
大人たちのペンション
白馬・ヴィヴァルディ
〒399-9301 長野県
長野市安曇野村樽池高原
0261-721725
http://www.hakuba.com/white/

塩の道 千園街道
百八十七体「観音原」
ホテル
白馬プランシエ
〒399-9300
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
0261-721452

10月12日 吉野青根ヶ峰
生きているに値せぬ我かも知れなく
蜻蛉の滝にめかりし虹に立つ
10月23日 比良松谷ヶ峰
誰も知らない朝に織女登り来て
燃ゆるがごとき柄の布を織り
10月27日 奥高野渡降壇山
高野龍神スカイライン空の路で
黄金の舞踏会ひられる
10月27日 奥高野伯母子岳
平家の里に遠き悲歌ながれても
この世をたゆたいて時は過ぐ
10月31日 室生留尊山
なかぞらへ鳥飛び去りし草原に
埋めて帰れ若き日の夢想を
11月1日 室生留尊山
突風に岩場のはらははされる
わが傷つきし魂もともに
11月15日 吉野青根ヶ峰
久し振りに出会えた君との視察
夢ごちの秋色に抱かれて
11月20日 六甲西お多福山
あらかじめ失していた僕の青春
落葉の道はどこまでもつづく
11月25日 北摂中山最高峰
結婚記念日に出かけてみようよ
妻よ夫婦岩の風に吹かれに
12月9日 北山大森リーダール公
音楽になることもない山しぐれ
山武者集い来て歌曲に変え

(吹田市 木村太郎)
山行短歌
11月3日 御池岳
紅葉が雨に浮きたら息をのみ
ブナ権現はしつとりとして
雨の中ブナの樹林は青黒く
深山秘境静寂の中
いつまでも年を重ねて山歩き
夢失しなわす自然とともに
11月10日 綿向山の日
笹の尾根マイクの音が彼方より
綿向山は霧に包まれ
11月11日 カクレグサ
静寂の深い樹林に西日差し
向平谷もろじの絨が
11月18日 雨乞岳
ゆつたりと冬枯れの森包み込む
イイナのコバに腰を下ろして
カヤ原は宴会広場大納言
日だまり笑顔話はずんで
11月23日 湖北・武奈ヶ岳
石田川里の道筋赤い花
イモカタミが秋にも咲いて
11月25日 ゴロ谷から御池岳
冬枯れの秘境の樹林急斜面
紺碧の空天に向かつて
12月1日 奥草山山系
忘れられやぶに覆われ道も消え
香坂の池踏の跡が

12月2日 黒尾山
紺碧の空に朝日見える黒尾山
冬枯れ樹林朝日を受けて
12月16日 風越山
岩山に槍の巨木寝て茂り
奇怪な空世の上から
バナラマは思い出の山次々と
鈴鹿の山が丸ごと見えて
(近江八幡市 若野 明)
平成13年10月6日、銚子ヶ口
へ登ってきた。天気もよく、東
峰では広大な展望を存分に楽し
むことができた。紅葉尾からの
ポピュラーコースをたどったの
だが、「鈴鹿の山ハイキング
21世紀の山歩き」や「名古屋周
辺 山旅徹底ガイド」などには、
須谷川の沢を数回ほど横切るあ
たりで踏み跡が不明瞭となって
道を見失いやすいので、テーブ
ルに注意して進むようにとあっ
た。
沢を横断して左岸をたどり、
再び沢を渡って右岸付近に出る
と道は不明瞭となり、迷ってし
まった。そこには、左横方向に
赤テープがあって、沢をもう一
度横切って、植林のなかの登り
道に入るのが正しく、ブナやミ

八ヶ岳南北縦走の中心地 59年新築増築完成全館個室 木の香匂う新浴場露天大湯 オーレン小屋 1泊2食付き 6000円 4月末〜11月末開設 茅野市山平2720 小車勇夫 0266-721-279	北八ヶ岳の登山基地、冬はスキー J.R.北野駅・北八ヶ岳登山口ま で送迎します 茅野市山平2720 小車勇夫 0266-721-279	茅野市山平2720 小車勇夫 0266-721-279	日本百名山の宿 信州戸隠山 森の宿めるへん 高梨山・黒根山登山口まで送迎 クロカン・コースご案内 長野県戸隠村100 0266-254-2081	日本唯一の女人禁制の山「大 峰山」(百名山)の登山口「大 橋村」の女人コースもあり 温泉・名水の里 旅館 紀の国屋甚八 1泊2食付き 7,000円から 〒388-0413 奈良県吉野郡天川村清川 07476-440309	九州の最南端・日本百名山 宮之浦岳に一番近い宿 屋久島安房登山口 屋久島グリーンホテル 089-14311 鹿児島県志布志郡久町安房 09974-63021	御在所登山に 愛知川渓谷沢歩きに 山好き仲間集う宿 朝明茶屋 山小屋 朝明茶屋 0510-12551 三重県三重郡御所町千草 0593-9331789	那岐山麓の町近くには岩山の大山 二百名山の木ノ山・上野山などあり 三百名山 那岐山のみもと 岡山県 那岐山荘 〒708-1330 岡山県備前郡赤松町高円 0868-364154	いては、「ホトラ」「ホトロ」 は、「ホドロ(ワラビが伸びて 葉が開いてしまったもの)」の 転訛語と推測しているという。 つまり、ホトラとは「山で刈り とる肥料用の若い草木」であり、 ホトラヤマは「ワラビが生える
--	---	--------------------------------	--	--	--	--	--	---

ズナラの二次林が谷に見える
尾根に出られるのだが、左横の
テープは見逃しやさい(注意す
ればわかるのだが)。
直進方向と左斜め前方に谷が
あって、その中央の高まりに踏
み跡があり、歩くことができる
ので、左斜めへの谷の右側に沿っ
て進んでしまった。中央の高ま
りの手前に枝が折ってあり、横
にはテープで×印がついてあっ
た。へ、思い返すと、「進むな」
と警告していたことがわかるの
だが、その時は邪魔な枝を取り
除くのに気をとられて×印にも
気づかなかった。そのまま左斜
め方向の谷の右側をたどると赤
テープがあり、少し上で沢の右
側に菓子袋を枝にくくり付けた
地点で、道を見失ってしまっ
た。

ら、「こっちこち」知らせて
る声。こちらが迷っているのに
気づいて、くだって来た男性が
正しい道の方向を教えてください
のであった。
それにしても、菓子袋の目印
の目的は何なのだろう。正しい
道へ軌道修正する道がなければ
いけないのだが、もしかすると
くだりるときに迷い込んだ場合
の脱出用の目印なのかも知れな
い。それなら、手前の赤テープ
もうなすける。
菓子袋の地点から正しい道に
上がるための目印(ビニール袋)
を掃りにつけておいた。多くの
人の利用する道は脱出方法を容
易にしておくべきだろう。
「鏡子ヶ口」の山名は定着し
ているように思えるが、「鈴鹿
の山と谷」の中の考証によると
と、正しくは「鏡子ノ口」だと
いう。その一方で、「鏡子ヶ口
岳」という何だか落ち着かない
呼び方も現地の道標や山と沢谷
社のガイド(「鈴鹿の山」昭和
41年版以降)には用いられてき
ていた。
中京山岳会編「鈴鹿の山」
(昭和23年)の挿入地図には

「鏡子ヶ口」となっていた。
『京阪神から行ける滋賀の山』
には「鏡子ガ口岳」の他、「イ
ワス山」「ブンゲン山」がある
が、「イワス」「ブンゲン」が
一般的呼称である。
この調子で行くと、土坊山・
天狗堂山・日本コバ山・イブネ
山になっていないと語尾の統一
がとれていないと指摘されかね
ないのであるまいか。一徳防
山・大台ヶ原山などの例も思い
浮かぶ。地形図に御在所山とあ
るが、地元では御在所岳である。
語尾に「山」や「岳」が付く
のは有名になってきた(資格した等)
象徴なのであろうが、慎重に扱
うべきだろう。
前号で、「ホトラ山」につい
て述べたが、インターネットの
検索で、海老沢秀夫氏の論文が
出てくる。「フィールドから学
ぶ民俗学―関西の地域と伝承」
(昭和策、2000年)には、
「ホトラ、うのほ、人の腰ぐら
いまで伸びたコナラの若い木の
ことやわ。ホトラがようけ生え
た山がホトラヤマやな」(自然
食通信社「自然食通信」七三)
とある。一方、海老沢論文にお

九州の最南端・日本百名山 宮之浦岳に一番近い宿 屋久島安房登山口 屋久島グリーンホテル 089-14311 鹿児島県志布志郡久町安房 09974-63021	御在所登山に 愛知川渓谷沢歩きに 山好き仲間集う宿 朝明茶屋 山小屋 朝明茶屋 0510-12551 三重県三重郡御所町千草 0593-9331789	那岐山麓の町近くには岩山の大山 二百名山の木ノ山・上野山などあり 三百名山 那岐山のみもと 岡山県 那岐山荘 〒708-1330 岡山県備前郡赤松町高円 0868-364154	いては、「ホトラ」「ホトロ」 は、「ホドロ(ワラビが伸びて 葉が開いてしまったもの)」の 転訛語と推測しているという。 つまり、ホトラとは「山で刈り とる肥料用の若い草木」であり、 ホトラヤマは「ワラビが生える
--	--	--	---

山」だという。牛の敷き草にしたあと、水田の肥料となる草木は、ホソと呼ばれるコナラの幼木が大部分を占めていたといひ、一方でワラビは、ホトラヤマを象徴する植物でもあった。

廃村八丁にかつて、白壁の土蔵があったことは、あまりにも有名であるが、その白壁に描かれていた銀座通りや水着美人の絵が、いつ、だれによるものかについてはほとんど知られていないようだ。

北山クラブ編『京都周辺の山々』(昭和41年)に、「土蔵の白壁の見事な落書き」と題した高島屋付近の銀座通りの壁面の写真があり、「1957、9、26 YOSHINO I.T.」というサインが読み取れる(2と□の部分を支柱らしきものが隠している)。八丁が廃村になったのは昭和16年であるから、その16年後に描かれたことになる。

昭和48年ごろには、土蔵の二階の板の間が仮泊に利用できたという。「京都周辺の山々」(昭和57年)には、土蔵の側面の上部に、水着美人と富士山が写り、下側にはスター食堂といった文

字通りの落書きが見える。

森本次男「京都北山と丹波高原」(昭和39年)では、「銀座・富士山・美人」の壁面の優美さを称賛しているから、昭和32年に描かれたものに違いない。その土蔵の写真には軒下の複数の支柱と側面の板・庇が見えるが、昭和57年頃の土蔵の写真(本誌4号)にはなく、朽ち果てたことがわかる。壁面の絵もかなり消えかけていて、その後、風化は急速に進み、昭和62年5月の某山岳部の報告では、土蔵は崩壊していたという。八丁名物だった白壁土蔵はもう写真でしか見ることができない。

私が廃村八丁を初めて訪問したのは1993年7月26日のことと、土蔵は骨組みの残骸が残るだけであった。廃村八丁の土蔵が崩壊した正確な年代と、その壁面のサインのフルネームをご存知の方がいれば、ご教示いただければと思う。

本誌61号に「カナ山」の紀行がある。私は、本誌59号の金葉岳のガイドで、「近江百山」にあるカナ山への登り道が、掲載地図では霜谷に記入してあるが、

実際の道は榎谷にあることを指摘しておいた。この紀行文は、地図の間違いに惑わされた典型的な例と思われる。私が金葉岳の調査で鳥越林道を通った時、榎谷の入り口に橋があり、そばに登山口を示す目印があったことを記憶している。

なお、点の記「大洞」の平成9年の資料では、榎谷のすぐ北にある尾根伝いの山道から榎谷の頭のピークに出て南下し、約1時間半で3等三角点に達している。この道は一般に紹介されてはいないが、幅0.5mの山道とあるので、十分に利用できる道と思われる。

平成13年3月、山本武人氏に「近江百山」についてお尋ねして、「①「深谷山」は点標名で、浅井町の森林組合では「奥山」と呼んでいること、②ガイド地図にあるカナ山への記入破線は間違いで、北隣の榎谷から登るのが正しいこと、③「夜叉ノ妹池」の表記は間違いで、坂内村の「夜叉ヶ池」と同様に、「夜叉ヶ妹池」が正しいことを確認することができた(本誌31号に「夜叉ヶ妹池」の紀行がある)。

山行計画 (3・4月)

新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加費・代金その他の資料代実費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合は必ず係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救済対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支出していただきます。傷害保険特約内容は次の通りです。(安田火災海上保険会社と契約)

死亡・後遺障害保険金額	1000万円
入院保険金	5000円
通院保険金	2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行。②スキー使用の山行。③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行。④宿泊場所内の事故。⑤病死の場合(詳細は係まで)

(記入例)

(往復ハガキを使用)

山行き申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL (山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」までを記入してください。

北摂・大船山から羽東山

(一般向き)

期日 3月3日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分/②JR福知山線三田駅10時05分
コース 三田駅(バス)十倉一峠→大船山→大舟寺跡→町石道→山越え→木器→住宅地→峠→羽東山→六丁峠→一査下(バス)→三田駅(解散16時頃)
費用 約3300円(青春18きっぷ使用、名古屋から)
地図 昭文社『北摂の山々』
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

★ 御池岳で雪と遊ぶ4 (健脚向き)
期日 3月3日(日) 日帰り
集合 ①JR関ヶ原駅8時25分/②三岐西野尻駅8時35分

★ 御池岳で雪と遊ぶ4 (健脚向き)
期日 3月3日(日) 日帰り
集合 ①JR関ヶ原駅8時25分/②三岐西野尻駅8時35分

地名表記には注意が必要である。

登山に際して、地図で地形を読むことの大切さが強調されるが、登山地図やガイドブックにある登山路が明らかに間違っているものもかなり散見される。地形図に記入された山道が間違っていることに起因するものが多い。山道の精度の向上が望まれる。(榎屋川市 柴田昭彦)

山行例会の実施について

山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも、緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなくご記入ください。申し込みの返信案内は細目が決まり次第、山行日の10日前頃からします。早くに申し込まれた方はそれまでお待ちください。定員のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。
(初心者向) やさしいコース
(初級向) やさしくも歩けます
(一般向) ハイキングの標準コース
(中級向) かなり経験者のコース
(やや健脚向) ・(健脚向) は、危険な所があり、キツイ登りや下りが長く続くコースと、ご理解ください。

分

コース 各集客駅(車) コグルミ谷一丸山奥の平一コグルミ谷(車) 集合駅 交通費各自(車代5000円・10000円)

費用 2万5千円 藤立・竜ヶ岳 地図 山田明男 ○高原芳彦 山田明男まで

費用 約10000円(大阪から) 地図 矢田丘陵(一般向き) 期日 3月3日(日) 日帰り

地図

2万5千円 富貴山・生駒山 5万 大阪東南部 ①聚元一彦 ○中村 登

費用 約6000円(大阪から) 地図 昭文社 赤目・俱留尊 高原

費用 約3500円(大垣駅からバス代等) 地図 2万5千円 谷合

集合

海岸神宮(車) 紀勢町錦 津一姫塚一姫越山一芦浜

費用 約24500円(青春18きっぷ使用 名古屋から) 地図 2万5千円 枚方

費用 約4000円(青春18きっぷ使用 名古屋から) 地図 2万5千円 静岡西部・牛妻

集合

尾崎英五 ○稲垣逸夫 鈴鹿市大久保町2065

費用 約24500円(青春18きっぷ使用 名古屋から) 地図 2万5千円 枚方

費用 約24500円(青春18きっぷ使用 名古屋から) 地図 2万5千円 枚方



申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10

費用 交通費各自 地図 昭文社 御在所・鎌ヶ岳

費用 約22000円(経路駅より、タクシー代含む) 地図 2万5千円 前之庄・寺前

地図

近畿百名山に登る(第35回) 室生・古光山(中級向き)

費用 約6000円(大阪から) 地図 昭文社 赤目・俱留尊 高原

費用 約3500円(大垣駅からバス代等) 地図 2万5千円 谷合

集合

尾崎英五 ○稲垣逸夫 鈴鹿市大久保町2065

費用 約24500円(青春18きっぷ使用 名古屋から) 地図 2万5千円 枚方

費用 約24500円(青春18きっぷ使用 名古屋から) 地図 2万5千円 枚方

集合

尾崎英五 ○稲垣逸夫 鈴鹿市大久保町2065

費用 約24500円(青春18きっぷ使用 名古屋から) 地図 2万5千円 枚方

費用 約24500円(青春18きっぷ使用 名古屋から) 地図 2万5千円 枚方

加古川市平岡町山之上市
684の33・17A403
古賀慶二まで
*定員20名(会員優先)

木々のつぼみがほころび始めた
七種の山をたどりませ。コース変
更あり。雨天中止

奈良・音羽三山(一般向き)
期日 3月18日(日) 日帰り
集合 近鉄桜井駅南口バス①番
のりば9時40分

コース 桜井駅南口(バス)下居
—音羽山観音寺—音羽山
—経ヶ塚山—熊ヶ岳—大
峠—針道—不動滝(バス)
桜井駅(解散14時45分)

費用 約1700円(大阪から)
地図 2万5千—吉野山
係 ◎西上利和 ○中村英雄
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

千数百年の歴史をもつと言われ
る音羽山観音寺から登り、春めく
稜線を縦走する。雨天中止

鈴鹿を歩く1399
残雪の御池岳・奥の平
(健脚向き)

期日 3月21日(日) 日帰り
集合 御池林道小文谷分岐広場
8時30分

コース 分岐広場—小文谷林道—
ノタノ坂—土倉岳—奥の
平—ボタンブナ—南岳—御
T字尾根—ブナ権現—御
池林道—広場(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「葦山・伊吹・
藤原」
係 ◎岩野 明 ○山田景三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
*マイカー山行

毎年恒例の残雪の御池岳山行
(24号9ページ参照)
小雨・雪決行

山科・音羽山から石山寺
(初級向き)
期日 3月21日(日) 日帰り
集合 JR山科駅9時15分

コース 山科駅(電車)京阪大谷
駅—東海自然道—音羽山
—千頭山—石山寺(解散
14時30分)

費用 交通費各自
地図 2万5千—京都東南部

期日 3月21日(日) 日帰り
集合 JR大和山(初心者向き)
期日 3月26日(日) 日帰り

コース 敦賀市—登山口—山の神
—金崎城跡—山崎口—舞
崎山—敦賀駅(解散)

費用 交通費各自
地図 2万5千—敦賀
係 ◎高島伸浩
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
*マイカー山行

敦賀市民に最も親しまれた山
信長・秀吉・家康が同時にいた歴
史上おもしろい山です。だれでも
楽に歩けます。展望抜群(歩行イ
時間)。雨天決行

大和路ハイク2
大和山を歩く(初級向き)
期日 3月26日(日) 日帰り
集合 近鉄橋原神宮前駅中央改
札口8時30分

コース 橋原神宮前駅—橋原神宮
—若狭公苑—歌勢山—歌
勢御殿—本薬師寺跡—天
岩戸神社—天香具山—月

期日 3月24日(日) 日帰り
集合 JR上郡駅9時40分
コース 上郡駅—大酒神社—鍛冶
口坂—大鳥圭介生誕の
地—坂坂の滝—中オ—大
坪(奥境ゴール)—菅坂
(完歩打ち上げ会後バス)
上郡駅(解散17時00分)

費用 約1000円(上郡駅か
ら・打ち上げ会費含む)
地図 2万5千—上郡・上月
係 ◎須藤 細
申込み 〒677-1126
姫路市余部区上余部50の
2の11 須藤園 榊まで

山陽路コースのゴールへ到着
全コース歩いた方にメロンのプレ
ゼント。参加者全員で乾杯。次回
からは新たな挑戦へ。雨天決行

比良を歩く9
寒風峠から滝山・岩阿沙利山
(一般向き)
期日 3月24日(日) 日帰り
集合 JR湖西線近江高島駅8
時55分(58分発バス「畑」
行き乗車)

コース 近江高島駅(バス)鹿ヶ
瀬道—寒風橋—寒風峠—
鶴川越—岩阿沙利山—鳥

費用 約1200円(京都から)
地図 昭文社「京都西山」
係 ◎奥山繁三 ○吉藤孝次
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
*マイカー山行

西山の古戦場の会館より、桂川・
宇治川・木津川が合流し淀川とな
る景観を眺めながら、天王山ト
ネル手前よりくだり、サントリ
山崎蒸留所を訪ねます。小雨決行

ファミリーハイク9
播州・雪彦山(一般向き)
期日 3月28日(日) 日帰り
集合 新大阪駅—階止面口空港
行バスのりば7時30分

コース 新大阪駅(バス)坂根登
山口—洞ヶ岳—雪彦山—
鎌立山—紅ヶ滝—登山口
(バス)千里中央駅まで
は新大阪駅(解散)

費用 約3500円(バス代)
地図 2万5千—寺前
係 ◎木村太郎 ○中村友昭
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
*定員20名(会員優先)
*マイカー山行

北山ちよっと歩き31
西山・善峰寺から山崎
期日 3月27日(日) 日帰り
集合 阪急東向日駅バスのりば
9時00分

コース 東向日駅(バス)小塩—
善峰寺前—観音堂—
願等—サントリ—蒸留所
(目撃・解散)

の誕生石—天香具山神社
—歌尾都多本神社—奈良
国立文化財研究所—藤原
宮跡—耳成山—近鉄八木
駅(解散16時00分)

費用 交通費各自
地図 2万5千—大和野
係 ◎亀本廣治 ○前川和佳子
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

早春の大和路。古代人の一大ロ
マンが秘められている大和三山を
のんびりと歩いてみませんか。
[善具山は、散火を愛しと相争ひ
き 神代より斯くなるらし、古昔
も然なればこそ現身も身を争ふら
しき]と万葉集にあります。
雨天中止

大和路ハイク2
大和三山を歩く(初級向き)
期日 3月27日(日) 日帰り
集合 阪急東向日駅バスのりば
9時00分

コース 東向日駅(バス)小塩—
善峰寺前—観音堂—
願等—サントリ—蒸留所
(目撃・解散)

新ハイキング関西まで
*定員20名(会員優先)
*マイカー山行

約1200円(京都から)
地図 昭文社「京都西山」
係 ◎奥山繁三 ○吉藤孝次
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
*定員20名(会員優先)
*マイカー山行

越えて、一等三角点の雪彦山を指して歩く。下山後は雪彦温泉で入浴予定。雨天中止

自然観察山行84

伊豆山線徒歩道
三蓋山・猫越岳・魂ノ山・棚場山・蓮華山・金冠山(中級向き)
期日 3月29日(日)31日(日)
前夜発1泊2日

集合 (29日) JR岐阜駅23時00分

コース (29日) 岐阜駅(バス)

(30日) (バス) 天城峠
一三蓋山・猫越岳・魂ノ山・棚場山・船原峠(バス) 土肥町(泊)
(31日) 土肥町(バス)

費用 船原峠・蓮華山・金冠山一だるま高原キャンプ場(バス) 岐阜駅(解散) 約25000円(岐阜駅からバス・宿泊・資料代等)
地図 昭文社「伊豆・箱根」
係 昭文社
申込み 50410828

各務原市蘇原村雨町1の9の5 警見守康まで
*定員23名(2月28日)

富士山と太平洋の展望台。天城峠から全長約42kmの被験歩道を2日間て歩きます。雨(雪)天休行

六甲・水島山から長峰山

期日 3月31日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分 ②JR福知山線三田駅10時05分 ③神鉄大池駅10時40分

コース 神鉄大池駅―地獄谷西尾根―水島山―三園池―仙谷峠―長峰山―飯釜六甲駅―JR六甲道駅(解散16時頃)

費用 約29500円(食費18きつ) ぶ使用、名古屋かじ
地図 昭文社「六甲・摩耶・有馬」
係 昭文社
申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

*集合駅を明記ください
地獄谷西尾根は自然林の続く道です。長峰山は三角点もあるように大展望が楽しめます。雨天中止

鈴鹿百山27
高畑山・陣尾山・丸山
期日 3月31日(日) 日帰り
集合 JR米原駅8時30分

コース 米原駅(車) 霜ヶ原分岐 広畑(林道) 高畑山―陣尾山―丸山―佐目集落―霜ヶ原分岐広場(車) 彦根駅(解散16時30分頃)

費用 交通費各自(車代1000円)

地図 2万5千 高宮
係 昭文社
申込み 50310535
海津郡南濃町松山624の19 山田明男まで
*マイカーの方は明記ください
*定員25名

早春の花、ミスソウ・スハマソウは咲いたでしょうか。小雨・雪休行
甲府・蜂城山と茅ヶ岳
期日 4月6日(日) 1泊2日
集合 (6日) JR大津駅8時15分(30分出発)

コース (6日) 大津駅(バス) 中央道釈迦堂SA―蜂城山ピストン(バス) 宿(泊)

(7日) 宿(バス) 深田久弥記念公園―鵜頭峠―防火帯切り開き―茅ヶ岳―金ヶ岳―東光開拓地(バス) 大津駅(解散19時頃)

宿泊 YH甲府ハイランド予定
費用 約20000円(未定)

地図 2万5千 石和・茅ヶ岳
係 昭文社
申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで
*定員30名迄

久しぶりに甲府の眺めを見に行きます。蜂城山は往復3時間。茅ヶ岳は鵜頭峠からやぶ漕ぎの真似事をし、幅10ほどの切り開きを山頂までマイペースで直登します。白銀の甲斐駒がすばらしい迫力です。雨天休行
週末ハイク39
奈良・春日奥山原始林と滝坂道
期日 4月6日(日) 日帰り

集合 近鉄奈良駅改札口9時10分

コース 奈良駅―春日大社―若草山―鶯の滝―欽置大―春日山石室仏―首切地蔵―志賀直哉旧居―近鉄奈良駅(解散)

費用 交通費各自
地図 2万5千 奈良・柳生
係 昭文社
申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

平安時代から伐採が禁止されてきた春日山原始林の周遊と、御生の里へ続く滝坂道で石仏を訪ねながら春の大和路を歩きます。小雨休行

鈴鹿百山28

冷川岳・藤原岳(健脚向き)
期日 4月7日(日) 日帰り

集合 ①JR関ヶ原駅8時25分 ②三岐西野尻駅8時35分

コース 各集合駅(車) コケルミ谷―カタクリ峠―冷川岳―白瀬峠―藤原岳天狗岳―(往路)―コケルミ谷(車) 集英社

費用 交通費各自(車代5000円・10000円)

地図 2万5千 藤立・竜ヶ岳
係 昭文社
申込み 50310535
海津郡南濃町松山624の19 山田明男まで

*マイカーの方は明記ください
今まで鈴ヶ岳・御池岳と二年連続してフクジュソウを見る山行は雪に降られました。今年はどうでしょうか。混雑を避け、御池岳側から歩きます。雨天中止

比良を歩く10
西濃から武ヶ岳・コヤマノ岳
期日 4月7日(日) 日帰り
集合 JR御西線出羽駅タクシーのりば8時40分

コース 堅田駅(タクシー) 坊村―御殿山―武ヶ岳―コヤマノ岳―中山―金ヶ岳―青ガレ―大山口―イーン谷口(バス) 比良駅(解散16時頃)

費用 約25000円(京都から) 2万5千 花背・比良山
地図 2万5千 花背・比良山

北小松 昭文社「比良山系」

係 昭文社
申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

比良山系の1000m峰14座のうち、前回まで10座のピークを踏んだことになりました。残る4座を歩きます。*軽アイゼンを持参ください。雨天中止

北旗 大峰山から中山最高峰
期日 4月7日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分 ②JR福知山線武田尾駅10時05分

コース 山線武田尾駅―JR福知山線 廣瀬峠―大峰山―東道―ゴルフ場―中山三角点―中山寺奥ノ院―飯島清荒神社(解散16時頃)

費用 約24500円(食費18きつ) ぶ使用、名古屋から
地図 昭文社「北旗の山々」
係 昭文社
申込み 61010121

鈴鹿を歩く140

花の雲仙山西南尾根(健脚向き)
期日 4月7日(日) 日帰り
集合 河内線「河内風穴」手前 寺院広場8時30分

コース 寺院広場―あけん原―行者の森―笹峠―近江屋敷台―南雲岳―雲仙山―最高峰―岩ノ峰―西南尾根 林道―権現谷―寺院広場(解散)

費用 交通費各自
地図 昭文社「雲仙・伊吹・藤原」
係 昭文社
申込み 61010121
城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

毎年恒例の花の雲仙山西南尾根と権現谷の早春の花を探訪する山行(公号76頁参照)。雨天中止

敦賀・三内山(やや健脚向き)

期日 4月9日(日) 日帰り
集合 JR敦賀駅9時30分
コース 敦賀駅(タクシー)馬背
時三内山一名子(タク
シー)敦賀駅(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千II敦賀・杉津
係 ◎高島伸浩
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
鉄塔巡視路、一部やぶ漕ぎあり、
敦賀湾・日本海・敦賀市街と白山・
青葉山まで展望(歩行5時間半)。
雨天決行

ファミリィハイク10
鈴鹿・藤原岳(一般向き)
期日 4月11日(日) 日帰り
集合 新大阪駅1階正面口空港
行バス(のりば前)7時30分
コース 新大阪駅(バス)観光駐
車場―聖王寺道―藤原山
荘―藤原岳―大貝戸道―
駐車場(バス)千里中央
駅または新大阪駅(解散)
費用 約3500円(バス代)
地図 2万5千II滝ヶ岳・篠立
係 ◎木村太郎 ○中村友昭

申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員20名(会員優先)
鈴鹿の山でもう一度登りたいと
思って、田中澄江さんが「花の百
名山」に推した。春を称える福寿
草の藤原岳を訪ねます。雨天中止

自然観察山行85
美濃・妙法ヶ岳(一般向き)
期日 4月13日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(バス)谷汲―華
厳寺―奥の院―妙法ヶ岳
―横蔵寺(バス)大垣駅
からバス代等)
費用 約3500円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千II谷汲
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで
美濃の二つの古刹を結ぶ東海自
然歩道を歩き、妙法ヶ岳に登りま
す。小雨決行
三重・矢頭山(一般向き)
期日 4月14日(日) 日帰り

集合 ①近鉄名古屋駅地下7時

45分/②近鉄川合高岡駅
9時30分
コース 川合高岡駅(バス)室ノ
口―中宮公園―大日拝展
望台―矢頭山―矢頭峰―
中宮公園―室ノ口(バス)
川合高岡駅(解散16時頃)
費用 約3320円(名古屋か
ら)
地図 2万5千II伊勢奥津・大
河内
係 ◎小出良春
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
役ノ小角によって開山されたとい
われる伊勢の名山で、頂上直下
には岩尾根といくつもの峰がある。
川合高岡駅は名張と伊勢中川の中
間の駅。雨天中止

近畿百名山に登る(第36回)
鈴鹿・雲仙山(中級向き)
期日 4月14日(日) 日帰り
集合 JR米原駅9時00分
コース 米原駅(タクシー)樽ヶ
畑―汗フキ峠―お虎ヶ池
―経塚山―雲仙山―最高

点―近江展望台―笹峠―

落合―汗フキ峠―樽ヶ畑
―醍ヶ井養蜂場(バス)
JR醍ヶ井駅(解散17時
頃)
費用 約4500円(京都から)
地図 昭文社II「雲仙・伊吹・
藤原」
係 ◎村田智俊 ○安倉止勝
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
雲仙山に登り、花の多い西南尾
根をくだります。雨天中止

吉野・蜻蛉の滝から青根ヶ峰
(一般向き)
期日 4月16日(日) 日帰り
集合 近鉄大和上市駅8時50分
コース 大和上市駅(バス)西川
―枝垂桜咲く公園―蜻蛉
の滝―白倉山―尾根道―
青根ヶ峰―西行塚―金峯
神社―高城山―水神社
―近鉄吉野駅(解散16時
00分頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千II新子・吉野山
係 ◎亀本政治 ○前川和佳子
申込み 〒610-0121

城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで
芭蕉が「ほろほろと山吹ちるか
滝の音」と詠んだ蜻蛉の滝から、
多くのハイカーと別れて白倉山を
経て吉野山へ。奥の千本、上の千
本の混雑きの桜を期待して歩く。
「とくとくと落つる岩間の若草水」
「汲み干すまでもなき住居かな」
西行法師 雨天中止

北山ちよつと歩き32
西山・小塩山からポンポン山へ
期日 4月17日(日) 日帰り
集合 JR高槻駅北口8時30分
コース 高槻駅(バス)中畑回転
場―小塩山―カタクリ谷
―森林公園森の案内所―
車道自然歩道手前―東尾
根コース越―鎌ヶ谷―ポ
ンポン山―本山寺―自然
歩道西側谷―原大橋(解
散17時頃)
費用 約1000円(高槻駅よ
り)
地図 昭文社II「京都西山」
係 ◎奥山繁三 ○吉條孝次
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

あまり知られていないルートで
たどってカタクリの秘境を訪ねま
す(周知の小塩山山頂付近のカタ
クリの群落地はバス)。イチリン
ソウ・ニリンソウ・ミヤマカタバ
ミ・エンレイソウなど春の花も飲
迎してくれるでしょう。小雨決行
自然観察山行86
美濃・伊吹北尾根(一般向き)
期日 4月20日(日) 日帰り
集合 JR大垣駅8時40分
コース 大垣駅(バス)国見峠―
国見岳―大赤山―御座峰
―静馬ヶ原―笹又―さざ
れ石公園(バス)大垣駅
(解散)
費用 約3500円(大垣駅か
らバス代等)
地図 2万5千II美東・関ヶ原
係 ◎鷺見守康
申込み 〒504-0828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 鷺見守康まで

恒例の春の北尾根フラワートレッ
キング。今年はどうな花が迎えて
くれるでしょうか。小雨決行
鈴鹿を歩く141
三國岳・鳥帽子岳(健脚向き)
期日 4月21日(日) 日帰り
集合 国道306号線百々女鬼
橋広場8時30分

金剛アルプス

鶏冠山から竜王山(一般向き)
期日 4月21日(日) 日帰り
集合 ①JR名古屋駅中央改札
口6時50分/②JR草津
駅8時50分
コース 草津駅(バス)上桐生―
落ヶ滝分岐―鶏冠山―天
狗岩―白石峰―竜王山―
ラング環境―上桐生(バ
ス)草津駅(解散16時30
分頃)

城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
奇岩・巨岩が点在する縦走路を
歩く。コース途中に粕坂摩崖仏が
あります。雨天中止
春色に誘われて
みづめ桜の御城山(一般向き)
期日 4月21日(日) 日帰り
集合 JR加古川駅改札口8時
50分
コース 加古川駅(バス)樽見―
樽見の大桜(バス)糸原
―みづめ桜―御城山―糸
原(バス)若杉温泉(バ
ス)加古川駅(解散18時
頃)
費用 約3400円(加古川駅

コース 広場(車)鳴谷林道終点

―三國岳―鳥帽子岳(往
復)広場(解散)
費用 交通費各自
地図 昭文社II「雲仙・伊吹・
藤原」
係 ◎若野明 ○山田喜三
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
三國岳から北東鞍草嶽側に派生
する横線上に鳥帽子岳がそびえて
いる。近江側からは遠い山。自然
林がすばらしいこの横線を歩く
(35号46、48ページ参照)。
雨天中止

約3400円(加古川駅

よりバス代等)
地図 2万5千1大原市場・関宮
係 ◎宇賀良一〇福岡 茂
申込み 〒67510112
加古川市平岡町山之684
の33・17A403
古賀慶一まで
*定員24名(会費優先)
樹齢六百年を数えるみづめ桜を
訪ねます(今号15頁参照)。若杉
温泉入浴(予定)は自由。
雨天決行



鈴鹿白山29
鎌ヶ岳(健脚向き)
期日 4月21日(日) 日帰り
集合 近鉄湯の山温泉駅9時25分
コース 湯の山温泉駅(車)旧料
金所―三ヶ谷登山道―飯
称三ヶ谷尾根―泉境尾根―
鎌ヶ岳―長石尾根―大屋
の滝―長石谷―旧料金所
(車)湯の山温泉駅(解
散17時頃)
費用 交通費各自(車代500
円)
地図 2万5千1御在所山
係 ◎山田明男 ○高原芳彦

申込み 〒50310535
海津郡南濃町松山624の19
山田明男まで
*定員25名
*マイカーの方は明記く
ださい
鈴鹿の「槍」と称される名峰へ。
アカシヤの花を見ながら三ヶ谷
左岸を登り、長石尾根から大屋の
滝へ抜けて長石谷をくだります。
雨天中止

大峰・大天井ヶ岳(中級向き)
期日 4月22日(日) 日帰り
集合 近鉄下市口駅9時10分
コース 下市口駅(タクシー)洞
川温泉登山口―五番関
―大天井ヶ岳―大天井谷
―洞川スキー場―林道―
洞川(バス)下市口駅
(解散17時10分)
費用 約3200円(大阪から・
タクシーは別料金)
地図 昭文社「大峰山脈」
◎西上利和 ○中村英雄
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員24名(会費に限り)
かつては山上参りの難所だった

とか。途中に女人精阿や役行者
像が同にまつられ、當時をしのば
せる。雨天中止

平日水曜ハイイク51
西山めぐり2
上桂から大枝ノ山・小塩山
(一般向き)
期日 4月24日(日) 日帰り
集合 阪上桂駅8時00分
コース 上桂駅―唐櫃越道―野鳥
園―佛舍利塔前―大枝ノ
山―大岩山―小塩山―天
泉越道―南春日町(解散
15時30分頃)
費用 交通費各自
地図 昭文社「京都西山」
係 ◎湯浅次男 ○青木一雄
申込み 〒56911333
高槻市川西町1の18の20
湯浅次男まで
やぶ漕ぎがあり、ほとんど歩か
れていない荒れた道を少しばかり
歩きます。ツツジの美しい季節で
す。小雨決行

コース 山科駅(バス)醍醐新町
―長尾天満宮―高塚山―
上醍醐―炭山―供水峠―
一日野法界寺―石田(解
散15時頃)
費用 440円(山科駅よりバ
ス代)
地図 2万5千1京都東南部
係 ◎金谷 昭
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで

自然観察山行87
静岡
毛無山・長者ヶ岳・天子ヶ岳
(一般向き)
期日 4月26日(日) 28日(日)
前後夜泊2泊
集合 ②6日 JR岐阜駅23時
00分
コース ②6日 岐阜駅(バス)
②7日(バス)朝霧高
原―地蔵峠―毛無山―不
動ノ滝―朝霧高原(泊)

(28日)朝霧高原(バス)
田貫湖―長者ヶ岳―末子
ヶ岳―白糸ノ滝(バス)
岐阜駅(解散)
費用 約25000円(岐阜駅
からバス・宿泊・資料代
等)
地図 2万5千1穴・ト井出
係 ◎登見守康
申込み 〒50410828
各務原市蘇原村雨町1の
19の5 登見守康まで
*定員25名(3月16日ま
で)
一百名山の毛無山、人気の高い
長者ヶ岳と天子ヶ岳を歩きます。
雨天決行(コース変更あり)

朽木・駒ヶ岳(健脚向き)
期日 4月27日(日) 日帰り
集合 朽木村役場8時30分
コース 朽木村役場(車)木地山
集落―駒ヶ岳―尾根木
地山集落(車)朽木村役
場(解散)
費用 交通費各自
地図 2万5千1古屋
係 ◎高島浩治
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで

*マイカー山行
登山口の木地山集落には駐車場
がないので、車を集約してから出
発。木地山から谷をつめてやぶ漕
ぎの尾根を駒ヶ岳へ。下山は別の
尾根をくだる(歩行6時間)。
雨天決行

湖北・滝谷山(中級向き)
期日 4月27日(日) 日帰り
集合 ピラデスト今津駐車場8
時30分
コース ピラデスト今津(車)淡
海広場―天狗岩遊歩道―
滝谷山―近江坂―P87
4南広場―近江坂―川上
平林道―ピラデスト今津
(解散15時30分)
費用 交通費各自(ピラデスト
今津・駐車料金3000円)
地図 2万5千1熊川
係 ◎金谷 昭 ○磯部 純
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*マイカー山行
湖北の忘れられたやぶ山だった
が、最近ルートが整備された。す
ばらしいブナ林を歩きます。

雨天中止

北山瀟瀟林
養生・三國峠から杉尾坂
(やや健脚向き)
期日 4月28日(日) 日帰り
集合 生杉の奥林道ゲート前8
時30分
コース ゲート前―三國峠―野田
畑峠―杉尾坂―上谷―中
山―地蔵峠―ゲート前
(解散15時頃)
費用 交通費各自
地図 2万5千1古屋・久坂
係 ◎山本久雄
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員10名
*マイカー山行
昨年中止の山行。本誌62号に掲
載の紀行文のコースを歩く。
雨天中止

奈良・金剛山から神橋山
(やや健脚向き)
期日 4月28日(日) 日帰り
集合 ①近鉄名古屋駅地下6時
25分②近鉄富田林駅10
時04分(65分免バス乗車)
コース 北大路駅(タクシー)祖
父谷林道―狼峠―魚谷峠
―魚谷山―柳谷峠―产生
峠分岐―滝谷峠―二ノ瀬

コース

富田林駅(バス)金剛登
山口―千早城跡―金剛山
―湧出岳―中葛城山―神
福山―行者杉峠―大沢寺
(タクシー)JR五条駅
(電車)JR・近鉄吉野
口駅(解散)

費用 約5900円(名古屋か
らバス)
地図 昭文社「金剛山・岩湧
山」
係 ◎小出良春
申込み 〒61010121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*集合駅を明記ください
ロングコースですが、ダイヤモン
ドトレイルなので道はしっかりし
ています。雨天中止
京都北山歩き101
魚谷山・滝谷峠・二ノ瀬リ
(一般向き)
期日 4月29日(日) 日帰り
集合 京都地下鉄北大路駅9時
00分
コース 北大路駅(タクシー)祖
父谷林道―狼峠―魚谷峠
―魚谷山―柳谷峠―产生
峠分岐―滝谷峠―二ノ瀬

ユリー夜泣峠―飯山二ノ瀬駅(電車) 出町柳駅(解放17時)

費用 約2000円(北大路駅からタクシード等)
地図 昭文社「京都北山」
係 ◎村田智俊
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで

九州・熊本山
球磨三名山を登る(中級向き)
期日 5月2日(休夜)6日(雨朝)
4泊5日(船中2泊)
集合 ◎2日 大阪南港フェリーターミナル・かもめ埠頭
18時50分集合(19時30分発着船行きに東船)
コース <2日> 大阪南港(フェリー泊) 宮崎港へ
<3日> 宮崎港(バス) 元井谷登山口―仰鳥帽子山―椎葉谷川登山口(バス) 水上村・湯山温泉(泊)
<4日> 湯山温泉(バス) 市房林道終点―市房神社

市房山―二ツ岩―基幹林道(バス) 湯山温泉(泊)
<5日> 湯山温泉(バス) 猪ノ子伏林道登山口―猪ノ子伏―白髪岳―猪ノ子伏林道登山口(バス) 人吉温泉(入浴・昼食後バス) 宮崎港(19時10分発着フェリー泊)
<6日> 大阪南港(解放7時30分)
費用 約3000円(フェリー・バス・宿泊代等)
地図 2万5千円頭地・市房山・免田・白髪岳
係 ◎狩野東彦
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
新ハイキング関西まで
*定員19名(会費に限る)
*4月15日まで

川辺川上流五木村の石灰岩質の仰鳥帽子山、熊本第二の高峰市房山のヤセ尾根縦走、未伐採のブナの南限を有する白髪岳の三山を登ります。登山基地は日本三急流の球磨川上流の湯山温泉で連泊します。雨天決行

近畿百名山に登る(第37回)
南紀・法師山と大塔山(中級向き)
期日 5月3日(雨)5日(雨)
2泊3日
集合 <3日> JR・南海橋本駅10時30分
コース <3日> 橋本駅(バス) 百間山溪谷キャンプ場(泊)
<4日> キャンプ場(バス) 板立峠―法師山―百間山―百間山溪谷―キャンプ場(泊)
<5日> キャンプ場(バス) 宗小嵐谷橋登山口―P8411―ノ森―大塔山―ノ森―P9051―宗小嵐谷橋登山口(バス) 入浴 橋本駅(解放20時頃)
費用 約2000円(バス・宿泊・入浴代等)
地図 2万5千円木守・合川
係 ◎村田智俊 ◎安倉正勝 ◎奥比治美
申込み 〒610-0121
城陽市寺田大群10の10
村田智俊まで
*定員22名(会費に限る)

*キャンプ場での2泊はバンガロー・自炊、テントのある人は持参ください。テント泊希望の方は「テント」と明記ください
百間山溪谷キャンプ場を基点にして、新緑のブナ林を見ながら二山を巡ります。雨天決行

山行報告
(11・12月号)
新ハイキングクラブ関西

御池岳(鈴鹿を歩く130)
11月3日(雨) くもりのち雨
小文谷林道分岐山場集合8:00
05(車)ゴロ谷出合8:20―伊勢尾9:50―お花の池10:30―幸助の池11:40(昼食)12:15―奥の池12:40―ブナ権現13:15―尾根分岐14:00―ゴロ谷出合14:50(解散)
紅葉とシロモジの黄葉が散り染めた伊勢尾から御池岳に登ると、ガスが吹き上げ雨に変わった。冬枯れの幸助の池で雨のなかの昼食。ササの海の奥の平からブナ権現にくだるとしっとり濡れた紅葉が息を呑むほどのすばらしさだった。
(参加者) 大石将美 磯部 純 吉岡 仁 小林 稔 武藤由美子 林 一夫 神野孝允 伊藤喜久男 森本 勝 森本淳子 石田真由美 安田良剛 谷 守 網木美恵子 武村千鶴 茨木良雄 藤田ひろみ

編 寿江 池田繁美 小林 実
◎山田慧三 ◎岩野 明(計22名)
土倉岳(鈴鹿白山23)
11月3日(雨) 小雨
JR関ヶ原駅8:30―三岐野尻駅8:35集合(車)コグルミ谷入口9:15―長命水9:40―カタクリ峠10:05―土倉岳旧分岐10:40―峠合流点11:30―鉄塔11:40(昼食)12:10―土倉岳12:50―御池岳奥の平13:20―真の谷テント場14:30―カタクリ峠15:00―長命水15:15―コグルミ谷入口15:40―16:00(解散)
雨は一時本降りだったが、ほぼ小雨で予定通り一廻りできた。雨に洗われた黄葉が真の谷とコグルミ谷で最高だった。
(参加者) 高松輝子 大須賀 實 本間 隆 萬代 猛 吉岡喜久江 岩下祐夫 西村文明 高瀬井 豊 湯浅康夫 藤本佳吉 坂井田良男 島田信吾 丹下由子 伊藤恵美子 鈴木 浩 鈴木友子 山野志保江 西内正弘 伊藤 直 栗本敏夫 井上 光 ◎高瀬秀彦
◎山田明男 (計23名)
吉野・百員岳から青根ヶ峰

11月4日(雨) くもりのち晴れ
近鉄吉野神宮駅集合10:25―35(タクシ)地蔵峠11:05―鳳閣寺11:30―40―百員岳12:10(昼食)12:40―西行庵13:22―40―青根ヶ峰14:07―17―金葉峠14:30―高城山14:52―蔵王堂15:35―近鉄吉野駅16:05(解散)
杉本高さんにガイド役を頼んで歴史の吉野山を歩いた。サクラとモミジの西行庵や義経の隠れ城、そして蔵王堂。もっとゆつくり見たかったが時間が足らなかった。
(参加者) 廣果 邦 松尾輝子 小倉孝子 柳川常雄 中嶋日出男 木村 豊 藤本佳吉 藤元益次郎 石原順次 吉野孝次 中尾美智子 杉本 高 中島 隆 宮村孝次郎 森 暁代 多賀久子 石井恵美子 田中 茂 長沢佑美 村田はる江 中村英雄 木村光江 武部美美子 ◎福岡 章 ◎美村孝治
◎小出良春 (計26名)

比良・白滝山からクロトノハゲ(平日ふれあいハイク29)
11月8日(雨) くもり時々晴れ
京都出町柳駅集合7:35―45(バス)坊村9:05―20―ワサビ谷入口9:55―10:05―ワサビ滝10:40―50―白滝山12:00―音羽池12:10―長池12:25(昼食)13:00―鉄塔道―シル谷14:30―40―クロトノハゲ15:05―10―天狗杉15:35―40―キタダカ谷―JR志智駅16:50(解散)
バスの遅れで出発が20分遅れた。期待していた鉄塔道はすでに紅葉が終わり、見通しのよい初冬の風景だった。一日中落ち葉を踏んで歩いた。*リーダーの寺井は都合悪く川上が代行した。
(参加者) 松田輝子 木村 豊 長尾一合 若林文夫 木下朝子 村井 武 菅生孝子 市野博文 谷 守 中村 保 長沢佑美 武村千鶴 本間 隆 本間孝子 大橋完造 山岸勝雄 橋本金三 神野孝允 辻 富子 山本千鶴子 森本健雄 入江武史 沼本幸江 ◎水見真砂子 ◎青木 一雄
◎川上久堅 (計26名)
奥美濃・小津権現山と花房山(自然観察山行15)
11月10日(雨) 1泊2日
(10日)くもり時々晴れ JR大垣集合8:40―50(バス)杉谷林道終点登山口9:45―10:00―高屋山11:10―25―前衛峠11:50

小津権現山12・25(昼食) 13・30(前衛峰14・00)高岸山14・50(登山口15・50(バス) 月夜谷山16・20(夜)

(11日) 晴れ 月夜谷山7・25(バス) 藤橋城登山口7・10(最初のコブ8・10)西の肩10・10(花房山10・25(昼食) 11・25(西の肩11・30)最初のコブ12・50(登山口13・40)藤橋城14・00(入浴) 15・40(バス) 大垣駅17・00(解散)

小津権現も今ではポピュラーな山となつてハイカーも多数。花房山は奥美濃の雰囲気を残し、なかなか美しい山だ。私たち以外に終日だれもいなかった。宿泊した月夜谷山荘は今西郷司ゆかりの宿であつた。

(参加者) 大角良子 近江秀子
木下朝子 吳比裕美 草野智穂子
夏山春子 原 文子 砂原恵美子
馬場孝子 藤本紀子 安田文美江
堀田輝子 松尾麗子 山形 明
横井恭子 ○横井 徹
◎鷺見守康 (計17名)

宮川村・古ヶ丸山 (三重の山58)

11月11日(日) 晴れ
道の駅・奥伊勢おおい集合8・10(車) 聖谷バス停9・00(れんが池9・50)10・05(尾根11・50)12・00(古ヶ丸山14・55)15・00(聖谷14・05)清治山14・55(バス) 聖谷バス停16・20(解散)
3600度展望良。ヒメシヤラ・ブナを愛でながらの稜線歩きが快適だった。

(参加者) 池田 茂 武藤由美子
平 龍一 平 幸子 藤井みつゑ
左海淑子 新町幸夫 宮路ちへ子
○稲垣逸夫 ◎尾崎英五(計10名)

近畿自然歩道
山陽路コースを歩く
11月11日(日) 晴れ
JR三ノ宮駅神姫バスターミナル集合8・20(バス) 御影院口9・30(泉道分岐10・10)大日神社10・55(八幡神社11・50(昼食) 12・35(大日本権子牛嶽石13・05)谷大嶽13・45)14・00(正法寺15・25)下石野駅16・00(JR厄神駅16・40(解散)
爽りを終えた晩秋の里を歩くと紅葉と柿の実が一段と湧える。一声掛けて秋の味を楽しみながら予定よりロングコースを歩く。

(参加者) 美村孝治 小林篤子
小田潤子 松本忠雄 眞田久子
住田隆雄 中村幹吾 三宅 明
今村 眞 岩城豊子 河崎妙子
三輪浩一 吉藤孝次 田所眞里子
奥村清一 野間利夫 田中三恵子
秋田楠樹 佐野信江 兼田幸子
青木一雄 岡田 昇 岡田恵美子
飯田良子 平歌英子
◎須藤 輯 (計26名)

三重・経ヶ峰
11月11日(日) 晴れ
近鉄津新町駅集合9・00(06(バス) 経ヶ峰口9・42)地蔵尊9・57(登山口10・42)仲之郷合美点10・57(休憩小屋11・47)経ヶ峰12・00(昼食) 12・40(六倉13・55(バス) 津新町駅15・00(解散)
山頂には多くのハイカーがいた。鈴鹿の山々と錫杖ヶ岳・雲山・笠取山・青山高原の眺望はすばらしかった。いつまでも山頂にいたいと思つたがバスの時間もあるので早々にくだつた。

(参加者) 鷹果 邦 中尾美智子
鳥居信吾 松岡敏昭 空戸喜久江
多賀久子 緒方由子 渡辺美代子
入江武史 岩田育士 ○辻村幸裕
◎小出良春 (計12名)

京都トレイル・戸寺から京見峠 (平日水曜ハイク46)
11月14日(日) 晴れ
大原寺集合8・50(江文峰9・20)栗止坂10・22(鞍馬10・37)貴船口11・00(一の瀬11・10)夜泣峠11・42(栗夜交分岐12・00(昼食) 12・30(山幸橋米室12・50)盗入谷13・42)城山下峠14・25(京見峠14・47)光悦寺前15・26(解散)
洛北の集落や山々の変化を楽しんだ。アップダウンが多かつたが皆元気に歩いた。

(参加者) 中村和江 山本千鶴子
木村 豊 眞田久子 千葉幸一穂子
長尾一令 東山澄夫 中上和代子
谷 守 武村千鶴 本間 隆
本間繁子 山岸勝雄 小林伊予子
森本幹雄 若林文夫 眞島百合子
舟岡 武 梶原泰彦 光川一美子
妹尾一正 石澤厚子 石澤雅世
美村孝治 竹田薫英 岩本一雄
細野敏也 松田輝子 ○青木一雄
◎湯浅次男 (計30名)

吉野・青根ヶ峰 (ファミリーハイク6)
11月15日(日) 晴れ
大和上市駅集合8・50(タクシ)

蜻蛉の池9・20(40)木馬道出合10・10(青根ヶ峰11・50(昼食) 12・40(西行庵13・10)30(高城山14・20)30(如意輪寺15・20)30(吉野駅16・00(解散)
雄略天皇行幸の伝承地。蜻蛉の池から滝を見せしめ遊歩道を歩く。青根ヶ峰の頂では、神仙境の深山らしい雰囲気味わえた。奥千本の西行庵と高城山、それぞれに美しい盛り紅葉を堪能して疲れも忘れるほど。如意輪寺を通る裏道にも紅葉が映え、桜の吉野は紅葉の吉野でもあることを実感して帰路についた。

(参加者) 高岡信男 前川和佳子
加藤元彦 飯田良子 北山真佐子
白根清子 辻 行子 山中あさみ
和田輝子 岩城豊子 市橋千代子
柏木孝子 山田幸英 成川みさお
秋葉正人 古川正子 山下知余子
二宮 元 川上久堅 高木 晋
南山 徹 松田和恵 盛 敏子
松村雅子 本間昭恵 中山峰雄
村上嘉子 高田和子 中澤ちず子
○中村友昭 ◎木村太郎(計21名)

奥美濃・大白木山 (自然観察山行76)
11月17日(日) 雨

大垣駅8・50(バス)折越峠10・20(35)大白木山12・30(昼食) 13・00(折越峠14・50)15・00(バス)大垣駅17・00(解散)
予想に反して本格的な雨となつたが、樹木などを観察し、軽快に歩いた。

(参加者) 和泉元二 岩本彩子
岡本佳子 川島陽美 砂野美紀恵
吉藤孝次 小谷孝子 砂原恵美子
小林 桂 鷹果 邦 鳥居信吾
富田潤子 野村通子 船本恰巳子
前田悦子 松尾一郎 松上美代子
松見 昭 村井寿和 武藤由美子
山本宣治 ○狩野東彦
◎鷺見守康 (計23名)

星山と眞賀温泉
11月18日(日) 雨のち晴れ
JR西明石駅集合8・30(バス) 美しの森登山口11・10(星山12・12(昼食) 12・50(登山口13・40)眞賀温泉14・30(入浴) 15・30(西明石駅18・12(解散)
登り始めから15分ほどで小雨もやみ、山頂ではすばらしい展望を楽しんだ。眞賀温泉は美人の湯。皆美しくなって帰路についた。

(参加者) 三輪浩子 東山澄夫
美村孝治 沖 伸 宮本真幸

宮本悦子 秋田楠樹 八木八重子
田辺弘子 岡田 昇 岡田恵美子
松尾麗子 船越利明 船越みよ子
斎藤 隆 斎藤妙子 大須賀 實
小山 輝 平歌英子 前田喜久子
眞田久子 上田久子 森実喜美子
小田潤子 馬籠忠男 高田 實
田中光子 ◎井上 保(計28名)

村井から地蔵峠・蛇谷ヶ峰 (比良を歩く6)
11月18日(日) くもり一時雨
JR堅田駅集合8・35(44(バス) 村井9・40)50(広域林道から分岐する林道入口10・12)地蔵山北西尾根登山口10・42(地蔵峠11・37)地蔵山11・40(昼食) 12・13(コタ峠12・25)ホボフタ峠12・55(13・00)蛇谷ヶ峰13・45(55(猪ノ馬場14・40)桑野橋15・10(解散) 27(バス) 堅田駅16・35

地蔵峠への尾根道入口は、林道に新しく案内板が設置されていた。しくれたり陽がさしてきたりと、妙な天気だったが、蛇谷ヶ峰山頂からの展望はますますすばつた。

(参加者) 中村啓一 川田洋子
長尾一令 若林文夫 中村克子
武部 剛 白根清子 森 美香子

辻 行子 森本幹雄 日野恵二
日野健司 仲谷分司 田中善雄
岩越健司 青木一雄 川北恵美子
三井純一 ○宮下淳一
◎秦 康夫 (計20名)

御池岳の池を巡る
自然探査山行14
11月18日(日) 晴れのちくもり
JR関ヶ原駅8・30(三岐西野尻駅8・45集合(車) コグルミ谷入口9・20)28(長命水9・55)カタクリ峠10・22(真の谷丸山分岐10・45)丸山奥の平分岐11・20(天狗ノ鼻11・30)幸助の池11・45(昼食) 12・15(風池12・30)丸山12・50(池邊遊り(山西池・上池・中池・サワグルミの池・ウリハダカエテの池・南池・南小池・眞ノ池・北池・寒池・龍池・幻池) 14・35)カタクリ峠15・00(尾根道由コグルミ谷入口15・40(解散)
サルナシはすでに運かたが、カマツカとガマズミが食べられ、オオウラボシノキの実も拾えた。台風で9月に落葉したオオイタヤメイゲツの今年一度目の葉が、黄色と赤に紅葉してきれいだった。

(参加者) 岩田育士 空戸喜久江
平塚明美 小松志信 加納由紀子

11月14日(日) 晴れ
大原寺集合8・50(江文峰9・20)栗止坂10・22(鞍馬10・37)貴船口11・00(一の瀬11・10)夜泣峠11・42(栗夜交分岐12・00(昼食) 12・30(山幸橋米室12・50)盗入谷13・42)城山下峠14・25(京見峠14・47)光悦寺前15・26(解散)
洛北の集落や山々の変化を楽しんだ。アップダウンが多かつたが皆元気に歩いた。

(参加者) 中村和江 山本千鶴子
木村 豊 眞田久子 千葉幸一穂子
長尾一令 東山澄夫 中上和代子
谷 守 武村千鶴 本間 隆
本間繁子 山岸勝雄 小林伊予子
森本幹雄 若林文夫 眞島百合子
舟岡 武 梶原泰彦 光川一美子
妹尾一正 石澤厚子 石澤雅世
美村孝治 竹田薫英 岩本一雄
細野敏也 松田輝子 ○青木一雄
◎湯浅次男 (計30名)

伊藤 直 鳥居信吾 伊藤重美子
原 幸子 原 光一 栗本敏夫
杉嶋清子 池田 茂 井上 光
松本三三 鈴木 浩 鈴木友子
川本 隆 竹内節夫 西村正春
宮田博子 近藤郁夫 今井みよ子
和泉元一 村田紀生 ○高原芳彦
◎山田明男 (計27名)

湖東・高取山から八ツ尾山
11月18日(日) 晴れ
JR河瀬駅集合9:40(バス)
池の宮10:20 高取山ふれあい公
園10:50 11:00 高取山12:00
(昼食) 12:40 八ツ尾山13:25
30 林道14:20 池の宮14:50
15:16 (バス) 河瀬駅15:37
(解散)

湖東三山のお寺巡りのサークル
とバスがいっしょになった。公園
から高取山までは道幅も広くて歩
きやすく展望もよかった。八ツ尾
山はアップダウンのある楽しいコー
スだった。
(参加者) 藤原 邦 藤原井 豊
清水昭三 杉本生石 飯田良子
佐野信江 藤本桂吉 野々山 寛
小野典子 山上和代 渡辺美代子
清水博之 石原順次 ○辻村幸裕
◎小山良春 (計15名)

川上久堅 古川裕子 中尾美智子
○前川和佳子 ◎亀本廣治 (計25名)

湖北・武奈ヶ岳
11月23日(日) 晴れ
石川ダム広場集合8:25 赤岩
岳9:40 50 武奈ヶ岳10:30 頂上
展望台10:35 11:05 頂上
南面11:15 (昼食) 12:15 赤岩
岳12:37 47 角川光明寺13:55
石川ダム広場14:35 (解散)
ラッキーなことに、3日前に今
津町役場によって歩行ルートのや
ぶが完全に刈り取られ、やぶ漕ぎ
がなくなり、予定時間を大幅に短
縮できた。山頂でゆっくり時間を
とることができた。春のような霞
みで遠望はきかなかったが、中腹
以下の紅葉を楽しんだ。
(参加者) 高島伸浩 小林 稔
三上伸夫 武村千鶴 山田景三
緒方由子 谷 守 湯浅みや子
神野孝允 加藤園計 網本美恵子
横井 徹 横井恭子 岩野 明
◎磯部 純 ◎金谷 昭 (計16名)

紀泉高原・畑石山 (地図読み山行49)
11月18日(日) 晴れ
南海稲作駅集合9:10 25 大河
内池10:30 畑石山11:35 (昼食)
12:35 大畑山12:50 13:00 井
岡峠13:25 30 雲山峠14:40
45 銀の峰展望台15:55 16:00
JR山中駅16:30 (解散)
畑石山・大畑山は頂上の周りが
伐採されて展望がよくなった。た
参加者が少数だったぶん脚がそろつ
て快適なペースで歩け、計画をの
びして雲山峠を越えて下山した。
久しぶりによく歩いた地図読み山
行だった。
(参加者) 前田栄三 田中三重子
岡本桂子 奥田泰久 頼 喜代子
土井隆夫 徳永加代子
◎中村 登 ◎塚元一彦 (計9名)

雨乞岳(鈴鹿を歩く131)
11月18日(日) 晴れ
大納言谷広場集合8:00 10 (重)
武平峠8:30 沢谷峠9:15 イ
イナのコバ10:00 東雨乞岳11:
00 雨乞岳11:10 (昼食) 12:00
00 南雨乞岳12:10 P.9.6.13.
00 宴会広場13:30 大納言谷14:
30 出合広場15:10 (解散)

24日(晴れ) JR熊野駅集合9:
30 (バス) 上町牧場11:30 (昼
食) 12:15 園地尾根12:35 笠
杉山12:50 13:00 田路越13:
25 展望ビーク14:00 25 段々
峠15:00 千町峠15:35 (バス)
福知溪谷休養センター16:25 (入
浴・夕食後バス) 三方支所20:00
(泊)
25日(晴れ) 家原遺跡公園9:
00 (バス) 阿舎利9:20 クシヤ
谷分岐9:35 水谷林道10:00 一
山11:00 (昼食) 12:15 水谷
林道12:45 阿舎利13:45 (バス)
家原遺跡公園14:05 15:30 (バ
ス) 姫路駅17:00 (解散)
24日、冬枯れの園地尾根。梢越
しに旧馬の山々。支所では夜遅く
まで話に花が咲く。25日、一宮町
の登山会に合流。一山では360
度の展望を楽しみ、下山後は地元
の温かい豚汁のもてなしをうけ
る。
(参加者) 渡辺サホ 光川一美子
狩野東彦 野口 修 岡田恵美子
岡田 昇 水島昌 船越みよ子
船越利明 今村 眞 前田幸子
小田朝子 松本忠雄 北山真佐子
松尾麗子 井上水治 田中三重子
森 理代 石田賢一 砂原重美子

さわやかな秋晴れ。谷筋は紅葉
し、山は冬枯れ。沢谷峠では鎌ヶ
岳が天を突き抜いて黒くそびえ、イ
イナのコバは明るい落ち葉のじゅわ
たん。コサが刈り込んであり、郡
界尾根は一般登山道に変わってい
た。最後は大納言谷のカヤ原は大
休止の宴会広場となり、楽しいひ
とときを過ごした。
(参加者) 林 一夫 後藤康幸
吉村 昭 吉岡 仁 武藤由美子
武村千鶴 服部 晃 池田繁美
壺田勝利 堀 寿江 伊藤善久男
森本淳子 高津智美 神野孝允
谷 守 安田良剛 永戸鉄治
佐佐光江 梶原泰彦 石田真由美
佐治 登 小林 実 落合ひろ子
山本久雄 奥田貞雄 ○山田景三
◎岩野 明 (計27名)

吉野・電門ヶ岳
11月18日(日) 晴れ 一時小雨
近鉄大和上市駅集合10:55 57
(バス) 山口神社11:15 電門ヶ
岳13:00 (昼食) 13:30 三津峠
14:00 宮原集落 県道 道の駅
14:00 近鉄橋原駅 (解散)
(電門ヶ岳までは足並もそろい順
調に登っていたが、三津峠の先の
ビーク付近で道を間違えて宮原に

下山した。
(参加者) 福原 章 中嶋日出男
大和 絃 中島 隆 川中 保
山根弘美 島田京子 茨木良雄
佐田次男 ○中村英雄 (計11名)
◎西上利和

室生の山
屏風岩・住塚山・園見山
11月20日(日) 晴れ
近鉄名張駅集合8:50 9:00
(バス) 長野9:50 10:00 屏
風岩公園10:40 45 住塚山11:
35 45 園見山12:10 (昼食) 13:
00 1クマタワ13:30 35 大蔵橋
14:30 35 宇野川口15:10 室
生寺前15:40 55 (バス) 近鉄室
生口大野駅16:10 (解散)
快晴に恵まれ名残の紅葉も美し
く、古光山・後古光山・単山・俱
留尊山・鏡・兜岳等の山々、遠く
吉野の連山を眺めながらの山行と
なった。
(参加者) 岩本彩子 水本加津栄
木村 豊 並木善子 小崎由利子
加藤元彦 三浦弘幸 日野照代
脇田新一 永富雅子 成川みさお
佐藤和洋 佐藤妙子 中原眞理子
安良陽子 高木 晋 村井寿和
中川光郎 坂井克久 市野博文

る。淡は色とりどりの落ち葉を踏んで歩いた。深山人頂の見晴しのよさに感動した。

- (参加者) 松尾昭子 木村 豊
- 長尾一介 飯田愛子 中上紀代子
- 本間繁子 中野麻衣子
- 山岸勝雄 土井隆夫 山下知余子
- 中村 保 田中善雄 田中真知子
- 安良勝子 小山明美 真島百合子
- 林尾二正 岡田里子 中村サヨ子
- 長谷川英 黒田明子 砂原重美子
- 南 寛子 針谷邦夫 針谷静子
- 小谷和子 白根明子 辻 行子
- 西野耕一 酒井悦子 角田一江
- 菅生幸子 中川光郎 赤松しげみ
- 細井和子 和田直樹 諏訪敏子
- 岩本彩子 市野博文 野々山明美
- 岡田春英 谷 守 ○石原君子
- 中村英雄 ○真山繁三(社労名)

黒尾山・鷹山・丸山 (鈴鹿を歩く132)

- 12月2日 晴れ
- ひろせ酒造前集合7・50(車) 佐日小谷広場8・15 中河原8・30
- 1尾根9・05 黒尾山南東峰10・50
- 黒尾山11・07(昼食) 12・10
- 1腰越峰13・10 鷹山山13・25
- 丸山13・50 鷹山14・40 ひろせ酒造前14・55(解散)

中河原に着くと黒尾山は天にそびえ、秘境の尾根は明るい。岩場もあって急登の連続。随所ではらしい尾巻。カヤとモミの巨木、そして冬枯れの樹木の尾根歩き。予定外の丸山から鷹山にくだり、楽しい山行となった。

- (参加者) 大行新美 吉岡 仁
- 金谷 昭 池田繁美 奥野太一郎
- 飯田勝利 磯部 純 網木美恵子
- 武村千鶴 後藤康幸 南 智恵子
- 永口鉄治 谷 守 伊藤喜久男
- 安田良剛 杉山能久 馬場彌栄子
- 筒井克治 緒方由子 石田真由美
- 山田昌三 ○岩野 明(社労名)

奈良・高円山から香草山

- 12月2日 晴れ
- 近鉄奈良駅集合9・45(バス) 高畑町10・15 白雲寺10・37 大字火床11・15 高円山11・30 新池12・10(昼食) 12・50 1月1日池12・55 鷹の滝13・42 若草山14・30 40 1二月堂 東大寺15・30 40 近鉄奈良駅16・00(解散)
- 高円山から若草山は想像以上にすばらしいコースだった。見所も多く若草山からは奈良市街と周園の山々など、大展望を楽しんだ。(参加者) 下村啓三 下村啓子

園田芳良 尾崎光子 宮崎美智 永富律子 飯田良子 前田喜久子 藤本桂吉 石原順次 小林伊佐子 林尾代子 山口巨尾 岡本美千子 杉浦明司 山口喜弘 岩本いすゞ 藤井敏子 高木 晋 渡辺美代子 佐田次男 土井隆夫 中上紀代子 多賀久子 岡田春英 中尾美智子 林 陽子 ○辻村幸裕

- 忘年会山行・砂山 (鈴鹿百山24)
- 12月2日 晴れ
- JR関ヶ原駅8・20 三岐大駅9・00 集合(車) 宇賀深木品キャンプ場9・30 40 砂山遊歩道 砂山10・07 15 小峠10・52 11・05 熊谷 水品キャンプ場11・45 (昼食) 14・45(解散)
- 集合に手取り、出発が30分遅れたのでコース変更した。先週死亡事故のあった電々橋中道のガレを目の前に見て道力を感じた。多くの赤や黄色がかかったソゴの実が青空に映えてきれいだった。
- (参加者) 吉塚孝次 三井敏一 小林 桂 岩田育士 本間 隆 吉村 昭 島岡信吾 伊藤重美子 丹下由子 原 幸子 原 光一

伊藤 直 山村恭男 松本浩三 栗本敏夫 藤原安子 宮田伸子 井上 光 鈴木 浩 鈴木友子 真田明子 藤谷芳男 今井みよ子 ○高原芳彦 ○山田明男(社労名)

- 北比良峠から寒風峠・樺梅の滝 (比良を歩く7)
- 12月2日 晴れ 一時くもり
- JR比良駅集合8・45 47(バス) 比良リフト前9・05(リフト) ロープウェイ) 山上駅9・35 55 1カラ岳10・25 35 シヤカ岳10・45 1ヤケオ山11・15 20 大石付近の疎林帯11・50(昼食) 12・30 1ヤケ山12・40 寒風峠12・55 13・00 1深峠13・25 30 樺梅の滝13・55 14・05 1JR北小松駅14・40(解散)
- すっかり葉が落ちて見通しのよいリトル比良の稜線をのんびり歩き、帰りはまだ周辺に紅葉を残す「樺梅の滝」を探訪した。
- (参加者) 若林文夫 中島 隆 入江武史 山根弘美 田中善雄 岩城豊子 武部 剛 武部美美子 佐野信江 中村克子 岩崎健司 菅生幸子 茨木良雄 横坂栄一 ○宮下淳一 ○秦 康夫(社労名)

美濃・虎子山

(自然観察山行77)

- 12月2日 曇り時々雨
- 大垣駅集合8・40 50(バス) 国見峠9・45 55 虎子山11・05 20 1岡見峠12・05 伊吹北尾根 如上大会分岐12・25 昼食休憩 1林道出合14・00(バス) 春日村 薬草湯14・20(入浴) 15・30(バス) 大垣駅16・10(解散)
- 里は晴れていても山は時雨、やや歩き足りない感じではあったが、美濃の自然林の趣は味わえた。
- (参加者) 青木一雄 安斎 洋 石渡倫子 岡田直規 大須賀 實 小田妙子 岡田 昇 岡田重美子 堅田 弘 川島勝美 萩野美紀恵 小谷孝子 小松志信 加納由紀子 田中 明 田辺孝子 六戸喜久江 長尾一介 夏山登子 砂原重美子 細野秋也 福田輝子 堀江八重子 村井芳和 山本宜治 松下美代子 山添登志子 ○加藤元彦
- ◎鷺見寺康 (計29名)

京都トレイル・京夏峠から清滝 (平日水曜ハイキング)

- 12月5日 晴れ
- 北大路バスターミナル集合7・50
- (バス) 鷹峰線光滝前8・22 35

京夏峠トレイル標識9・11 上ノ水峠10・03 沢池北端10・23 高瀬橋11・48 清滝川渡渉12・16 梨の木林道出合12・30 清滝 金鈴橋京都トレイル最終分岐12・41(解散後、有志による野外忘年会)

- 初冬の沢池は木々を映しきれいだった。京都トレイルの最終コースになったのが、稱賀山から清滝まで12名の方が先歩された。西山コースはいつの日かの完成だろう。
- (参加者) 中村和江 松田輝子 近藤 恭 長尾一介 東山澄夫 田中善雄 山岸勝雄 砂原重美子 舟岡 武 岩本彩子 光川一美子 谷 守 安良勝子 小林伊佐子 白根勇子 辻 行子 眞島百合子 木村 豊 諏訪敏子 千藤千枝子 川上友堅 細井和子 平秋英子 田中幸子 眞田久子 山本千鶴子 石原君子 竹田善英 菅生幸子 兼田幸子 栗岡克子 ○青木一雄
- ◎湯浅次男 (計33名)

南濃・養老山 (近隣百名山に登る第33回)

- 12月8日 晴れ
- 京都駅八条口集合8・10 15(バス) 養老公園10・10 30 養老の

滝10・45 尾根広場11・30 40 三方山展望台12・00 小倉山展望台12・30(昼食) 13・15 養老山13・30 川原越14・45 55 美濃津屋15・50 16・00(バス) 養老公園16・20 35(バス) 京都駅18・30(解散)

- 積雪もなく天気がよかったので、養老山からの快適な尾根道を利用。越まで足をのびた。川原越から下山道の東海自然歩道は荒れていてしかも急な下り坂が多かった。
- (参加者) 辻村幸裕 田中まや子 澤田高治 高岡信男 東山澄夫 中谷善子 大和 敏 中嶋日出男 岡田豊治 佐野信江 宮村孝次郎 平良一郎 青木一雄 林 恵美子 入江武史 金沢咲子 田中真知子 田中善雄 堀田輝子 武部美美子 島田京子 岸本富美 佐藤新一 佐藤妙子 松原 節 岡原定夫 黒田明子 松原 節 田中幸子 岩崎健司 仲谷礼司 遠水 保 寺田久広 眞田久子 細野秋也 川島勝美 西村耕一 田所良男 谷 守 神野孝允 加藤園計 花熊桂子 中西信行 石田真由美 松田幸正 前川久枝 ○比比裕美 ○安倉正勝 ○村田智俊(計49名)

京都西山・大徳道からポンポン山 (週末ハイキング37)

- 12月8日 晴れ
- 阪急高槻駅集合8・50 55 盤手橋9・25 30 金竜寺跡9・55 10・00 若山展望台10・25 35 1ギロパチ峠下広場12・40(昼食) 13・30 1ギロパチ峠13・45 1大沢13・55 1釈迦岳14・45 1ポンポン山15・05 15 1釈迦岳15・35 1立石16・40(解散)
- かなりロングコースだったが、足が揃ってポンポン山まで歩くことができた。日暮れが早いためコース変更し、釈迦岳からポンポン山へピストンして戻り、立石へ下山した。忘年会には21名が参加し、今年の山行の思い出話に花が咲いた。
- (参加者) 岩田育士 小林 桂 宮下淳一 三井敏一 吉福 清 松原輝子 山田景三 北山真佐子 秋田輝子 木村 豊 松上美代子 山根弘美 松村輝子 船越みよ子 船越新明 宮本真幸 砂原重美子 武村千鶴 林 進 網木美恵子 松本勝子 中川光郎 横坂栄一 辻 富子 舟岡 武 石井重美子 石田賢一 蓮井洋子 南 寛子

夏山春子 和田直樹 中川節子
加藤佳彦 林 弘毅 山縣勝美
○加藤元彦 ◎狩野東彦(計40名)

奈良・額井岳と戒壇山

12月11日(火) くもり
近鉄奈良駅集合9・20(バス)
天満宮(白)9・30(幼羅園)9・
35(赤瀬)9・50(林道登山口)
10・15(香酢峠道交)10・50(額
井岳)11・05(15)反射板11・35
(昼食)12・15(戒壇峠)12・35(戒
壇山)13・00(10)長戒寺13・25
(35)山部赤人墓14・00(天満宮
バス停)14・25(解散)
赤瀬からはクヌギやナラの落ち
葉を踏む道。額井岳から奥吉野の
連山を望み、眼下に伊那佐山を眺
めた。里山ながらアップダウンも
あり、満足する山行だった。
(参加者)長尾一令 北山真佐子
森本幹雄 木村 豊 岩城豊子
若林文夫 岩本彩子 田中真知子
並木壽子 細野欽也 横川ゆり子
緒方由子 田中善雄 三上須美恵
高木 晋 青木一雄 白鳥忠子
市野博文 上田久子 清水博之
妹尾一正 森山信安
○前川和佳子 ◎亀本廣治
(計24名)

近畿自然歩道
山陽路コースを歩く8
12月16日(日) 晴れ
JR厄神駅9・20(古川ウオー
キングセンター)10・00(鴨池)11・
10(城山東六)12・25(昼食)13・
15(安楽寺)14・05(法華山一栗寺
15・15(40)法華口16・15(バス
姫路駅)17・10(解散)
今年の「山陽路コースを歩く」
を無事終了した。昼食に温かい豚
汁で一年の苦労話に花が咲く。来
年は岡山県境へ向かってがんばろ
うと全員で誓う。
(参加者)小林優子 横山津也子
岩城豊子 八木四郎 三宅 明
加来昌子 船越利明 船越みよ子
石田賢一 眞田久子 田中三恵子
美村孝治 岡田 昇 岡田真美子
横山眞一 住田源隆 平政英子
小田潤子 大和 絃 小山 輝
野間超夫 河崎妙子 三輪淳子
森 瑞代 今村 眞 田所眞里子
松本忠雄 ◎須磨岡 船(計28名)

忘年会山行・風越山

(鈴鹿を歩く133)
12月16日(日) 晴れ
神崎橋広場集合8・30(車)神崎
川林道広場9・00(岩山)9・20(

風越山10・00(瀬戸峠)10・50(林
道広場)11・00(昼食忘年会)14・
00(解散)
林道が登りに変わると雪道で車
はスリップ。尾根に取りつくくと雪
山になった。岩山には檜の太木が
寝て奇怪な姿を見せた。次第に展
望も開け、鈴鹿連峰の大パノラマ
に感激した。焚火を囲んでの盛大
な忘年会は楽しい思い出となっ
た。
(参加者)後藤康幸 望月千代子
武村十鶴 中尾和子 中村幸子
山田明男 池田繁美 奥野太一郎
湯浅康夫 磯部 純 金谷 昭
細野欽也 小林 稔 今井武司
神野孝允 高坂 清 櫻田勝利
池田隆一 永谷鉄治 石田眞由美
奥田貞雄 小林 実 武藤由美子
杉山博久 杉山信安 湯浅みや子
清水能之 山本久男 ○山田景三
◎岩野 明 (計30名)

忘年会山行・明智越から水尾

(京都北山歩き99)
12月16日(日) 晴れ
JR亀岡駅集合8・20(30)明智
越口9・10(鉄塔)10・15(神明峠
手前広場)11・00(昼食)11・35(神
明峠)11・40(水尾)「松敷」12・

10(入浴・忘年会)15・00(解散・
車)JR保津駅
明智越をたどって分岐する鉄塔
より北へ神明峠まで足をのびした。
水尾のゆるい風呂で汗を流し、盛大
で楽しい忘年会だった。
(参加者)小林 桂 宮西和子
馬籠忠男 村井寿和 岩田育士
辻村幸裕 本落孟夫 三井雄一
東山澄夫 呉比呂美 遠藤 率
長尾節子 西居俊弥 入江武史
秋田樹師 沖 伸 佐野信江
森澤照子 炭田明美 山岸勝雄
若林文夫 速水 保 矢田妙子
寺田久広 西村善行 大橋完造
福岡 章 松尾一郎 青木一雄
宮本真幸 ○安倉正勝
◎村田智俊 (計32名)

北摂・大岩ヶ岳

12月16日(日) 晴れ
JR道場駅集合10・04(20)千劫
ダム10・47(大岩ヶ岳)11・55(昼
食)12・35(砂山)13・15(東山橋
14・10(道場駅)14・22(解散)
千劫ダムを見て登るに従って北
摂・大甲・丹波の山々が見えてき
た。ひととき目を引くのは小じん
まりした馬富士だろうか。それ
とも大船山か、さらに遠くには白

髪髯も見える。自然林と水に囲ま
れた低山ではあるが、風景もすば
らしく、隠れた名山と言えるだろ
う。
(参加者)堀尻香織 松上美代子
柳川富雄 松尾麗子 野里マツ代
中島 隆 飯田良子 渡辺美代子
土井隆夫 黒河内東洋明
多賀久子 白根清子 岡本美千子
森本 勝 森本淳子 野々山 寛
小野典子 辻 行子 吉岡美津香
高橋裕治 和田直樹 中尾美智子
横坂栄一 ◎吉藤孝次
○宮下淳一 ◎小出良春(計26名)

上田久子 西村文男 光川一美子
茨木良雄 森本幹雄 ○中村英雄
◎西上利和 (計21名)

滝谷峠から貴船山

(北山ちよと歩き28)
12月20日(日) 晴れ時々くもり
京阪出町柳駅集合9・20(28(バス
出合)8・10(滝谷峠)10・30
一の瀬ユリ見晴台)11・20(昼食)
12・20(貴船山)12・45(夜笠峠)14・
30(飯沼)の瀬駅)14・50(解散)
一の瀬ユリの見晴台から比較山
を目前に眺めた。さすが北山だ
と、心の休まるひとときだった。
(参加者)吉藤孝次 山岸勝雄
湯浅康夫 本間 隆 本間孝子
角江朝子 谷 守 田中真知子
市野博文 中村 保 中村英雄
石原君子 妹尾一正 砂原重美子
安良陽子 菅生恵子 宮村孝次郎
風見瑠子 松本中雄 川上久登
◎長山繁三 (計21名)

伊豆

天城山と沼津アルプス縦走
12月21日(日)23日(日)
前夜発泊2日
(21日)くもり JR岐阜駅集合

23・00(バス)
(22日)晴れ(バス)伊豆長岡
温泉4・45(朝食休憩)6・00
(バス)水生地バス停6・45(旧
大見分岐点)9・15(△)池10・
00(大見分岐点)9・15(△)池10・
15(30)戸塚峠10・30(昼食)13・
10(1万)二郎岳14・30(天城高原)
ルフ場)15・40(バス)伊豆長岡温
泉)17・00(泊)
(23日)晴れ 伊豆長岡温泉6・
30(バス)香貫山中瀬駐車場7・
00(香貫山)7・25(8)10(横山
8・50(徳倉山)9・30(10)00(鷺
頭山)11・10(30)大平山)12・00
(山口道)バス停)13・00(バス)千
本プラザ)13・45(入浴)14・20
(バス)富士川)15・25(昼食)
15・50(バス)岐阜駅)19・30(解
散)
天城連山約20km、沼津アルプス
約15kmを歩き通した。ブナ・ヒメ
シヤラなどの原生的な太平洋型ア
ナ林の広がる天城の森と沼津アル
プスでは、終日壮大な富士山と輝
く太平洋を望んだ。
(参加者)石田賢二 井上友子
大角良子 緒方由子 荻野美穂
亀本廣治 川島勝美 加納由紀子

六甲・菊水山から鍋蓋山

12月23日(日) 晴れ
神崎橋駅集合10・22(菊水山)11・40
(昼食)12・20(天王吊橋)12・47
(52)鍋蓋山)13・25(35)峠法々
原池外人墓)13・51(14)10(再
度山)14・22(大蔵寺)14・37(45)1
市ヶ原)15・10(新神戸駅)15・55
(解散)
六甲全山縦走路から寄り道し、
外人墓地や弘法大師が修行したと
いわれる再度山を歩いた。解散後
「ルミナリエ」を見てから帰ると
いう人もあった。
(参加者)馬籠忠男 石井重美子
中島 隆 飯田愛子 岡本美千子
佐野信江 蓮井洋子 佐々木敏明
近田智子 白根清子 高岡富美子
白鳥忠子 辻 行子 野々山 寛
高田和代 前川久枝 渡辺美代子
岩本いすゞ 石田眞由美
小崎由利子 ○美村孝治
○宮下淳一 ◎小出良春(計26名)

本下朝子 木村光江 小林 桂
小松志信 関口恵子 田中善雄
仲谷礼司 長尾一令 林 えい子
夏山春子 松尾麗子 船本裕己子
山縣勝美 若松朝子 安田文美江
◎狩野東彦 ◎鷺見亨康(計26名)

京都・醍醐山

12月23日(日) くもり
京阪大谷駅集合10・00↑高野山山口・
30↑千頭15・30(昼食)13・20
↑橋本14・35↑醍醐三学院15・
55(解散)

期待していた高野山からの遠望
は雲雲にさえぎられ今ひとつだっ
たが、目の前の比叡山は山頂部が
白く輝いていた。アツブクワンの
ロングコースだったが、昨日の雪
の残るピリッとした寒気のなかを
元気に歩いた。

(参加者) 西尾俊弥 吉藤孝次
木村 豊 藤原 邦 湯浅康夫
清水明三 谷 守 中村英雄
奥田直雄 舟岡 武 中村恵美子
磯部純 若瀬健司 速水 保
多賀久子 岩尾幸子 入江武史
山田真三 神野孝允 瀬木恵美子
◎山本久雄 (計21名)

亀岡から高槻まで

(年末にロングコースを歩く)
12月29日(日) 晴れ時々くもり
JR亀岡駅集合8・20↑30↑津山
神社9・30↑杉尾10・20↑昇尾峠
10・50↑明神ヶ丘登山山口11・00↑
明神ヶ丘山頂12・20(昼食)12・00↑
田能12・40↑明神町着人口12・50

新ハイキングクラブ関西
入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西
の山」(隔月刊・年6号発行)の
定期購読者を中心としたハイキン
グの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイ
ドなどで、関西のハイキングコー
スや山の情報を発信しています。
山の知識を深め、情報豊かで健康
な身体をつくり、自然のなかを歩
く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和
25年発足以来、東京を中心に50年
間も好評のうちに活動してきまし
た。関西は平成3年発足で日曜日
に入ります。すでにたくさんの方
が活動しています。

会員は関西の山行例会に優先し
て参加できます。この山行例会を
通じて正しい山歩きを、楽しい山
仲間たちと味わいませんか。
リーダー(係)はすべて無償の
奉仕で、各自で切符を買い茶代を
払ひ、宿泊料もすべてワリカンで
す。

会員には毎月「新ハイキング関
西の山」をお送りします。
四季の自然に触れながら歩ま

↑岡山林道分岐13・35↑観ノ木グ
リーンベルト14↑狭谷バス停15・05
↑花ノ里温泉16・10↑JR高槻駅
17・20(解散)

登山神社の手前を左折する方角
峠への道を間違え、昇尾峠へ知ら
ず歩いて杉生で気がついた。15
年前に歩いた印象が薄くなり、道
をよく覚えていなかった。お陰で
1時間の短縮コースになり、暗く
なりかかると、元気に高槻駅に到
着できた。解散後、有志で今年の
歩き納めを寿司とビールで乾杯し
た(約28)。これを機会に来年
の年末も、どこかのロングコース
に挑戦できるように計画します。
*予定の28日は都合が悪くなり、
29日に変更した。

(参加者) 吉藤孝次 渡辺靖子
山岸麗子 木村 豊 武村千鶴
松原隆雄 仲谷初樹 林 一夫
小林 桂 前田利雄 中村英雄
藤原泰彦 森本淳子 野里マツ代
高津賢美 青木一雄 松上美代子
岩田育士 美村孝治 中嶋日出男
竹田英英 入江武史 武田元可
小森東治 高木忠夫 中川光郎
奥山繁三 秦 康夫 秦 美代子
◎東山澄夫 ◎村田智俊(計21名)

若々しい心と健康をいつまでも持
続するのはすばらしいことです。
これから始めてみたい人も、すで
にベテランの人もみなさんご入会
いただけます。

入会金 500円(パッチ代)
年会費 3000円(送料共)

入会の中し込み(随時)はこの
雑誌に挿入の振替用紙を利用可
ださい。氏名(ふりがな)及び第
何号からの送本かを忘れずにご記
入ください。

なお、定期購読をご希望される
方も会員になっていただきますと
毎月確実にお手元に届きますので
便向です。
切手500円分をお送りになれ
ば、「新ハイキング関西の山」見
本誌1冊送ります。

○山行リーダー募集

リーダーは2ヶ月に1回、同程
度の山行例会を計画・実施してい
ただきます。

無償の奉仕ですが、やりがいも
あり、楽しいものです。経験のある
方や、やってみたいと思われる
方は、新ハイキング関西までご連絡
ください。マニュアル「リーダー
必携」を送ります。

奈良・矢田丘陵

12月29日(日) 晴れ
JR法隆寺駅集合9・55↑10・03
↑法隆寺10・30↑50↑法輪寺11・
00↑法隆寺山頂11・40(昼食)12・20
↑松尾山12・40↑矢田山13・55↑
14・10↑観ノ木峠14・25↑近鉄南
生駒駅14・55(解散)

法隆寺南大門から境内に入ると
五重塔が見える。人もいない静け
さで夢殿も見た。松尾山・矢田山
二つの三角点も見ることができ、
良い山だったと思う。

(参加者) 砂津達雄 石倉真佐子
高島嘉巳 高島頼子 真田明子
岡田春英 杉浦明司 井林寿彦子
朽名生石 臨田和洋 中上紀代子
井上育子 森 昌好 野々山寛
小田桐子 三上 勇
佐々木美千代 ◎宮下淳一
◎古畑信廣 ◎小山良春(計20名)

○新入会員紹介

新しいお仲間のみなさんです。
会員番号4617番から4652
番まで

- 【神奈川】 堀川慶子
- 【愛知】 松川行雄
- 【三重】 池田恵義 渡辺裕樹
- 【滋賀】 安達夏子 浜田昌子
- 【京都】 山田直彦 白木敬祐
- 【大阪】 前田植夫 清川英三
- 【大分】 上田健男 山本茂代
- 【高松】 竹村順弘 山本文雄 谷川俊一
- 【香川】 高橋幸子 出口清代 松平 巖
- 【徳島】 栗崎浩吉 栗崎有子 杉田尋子
- 【愛媛】 三好光男 中 甲子 中山峰雄
- 【兵庫】 古川正子 柏木孝子 原岡峰海
- 【鳥取】 小森東治 森本勝彦
- 【岡山】 上村英保 森下昌子 井上恵美子
- 【広島】 堀 薫 口石おる

訂正とお詫び

62号(新春)10ページ上段17行
目「随伴し、母が」は「随伴した
母が」が正しい。
62号(新春)12ページ上段「大
日本地名辞典」は「日本地名辞書
が正しい。
62号(新春)61ページ下段「山

例会参加の注意

山行例会参加の場合は、新
ハイキングの規定があります。
(87ページ山行計画欄)、これ
を十分に理解のうえ申し込
んでください。規定に反しま
すと、係や参加の他の人にも
迷惑をかけることとなります。
気分よく山行するため、みん
なでルールを守りましょう。
特に次の2点をよろしく。

★計画を早めに決め、必ず7
日前には申込先に到着するよ
う、往復ハガキに必要な事項を
すべて記入のうえ申し込んで
ください。直前や飛び込みは
お断りします。また電話でファ
クシミリでは、名簿作成や山
行案内の返信に困ります。

★雨天に歩くのが嫌な方は始
めから小雨決行・雨天決行の
計画には申し込まないでくだ
さい。また、当日の決行か中
止かは、返信案内の降水確率
を見て、必ず前夜の気象情報
で確認し、判断ください。

の本紹介」の問い合わせのTEL
番号は077(562) 3227
が正しい。
62号(新春)68ページ中段4行
目「(1991-2)」は「(1992-2)」
が正しい。

62号(新春)80ページ下段Aコー
スタイム「標高8355m(15
分) 清水ノ頭(徒歩15分)シ
クナゲ尾根(2時間40分)林道」
は「標高8355m(1時間15分)
清水ノ頭(1時間)雨乞岳(シ
クナゲ尾根(1時間40分)林道」
が正しい。

62号(新春) 山行計画欄野明さ
んの「鈴鹿を歩く」の順は各1回
ずつ進みます(例1-3-1は1-3
-2)。(編集室)

毎号お求めになりたい方へ
前もって書店に毎号ほしい
と「購読予約」をされますと、
どこの書店でもお買い求めい
ただけます。購読月の20日ころ
(隔月刊)の発売です。